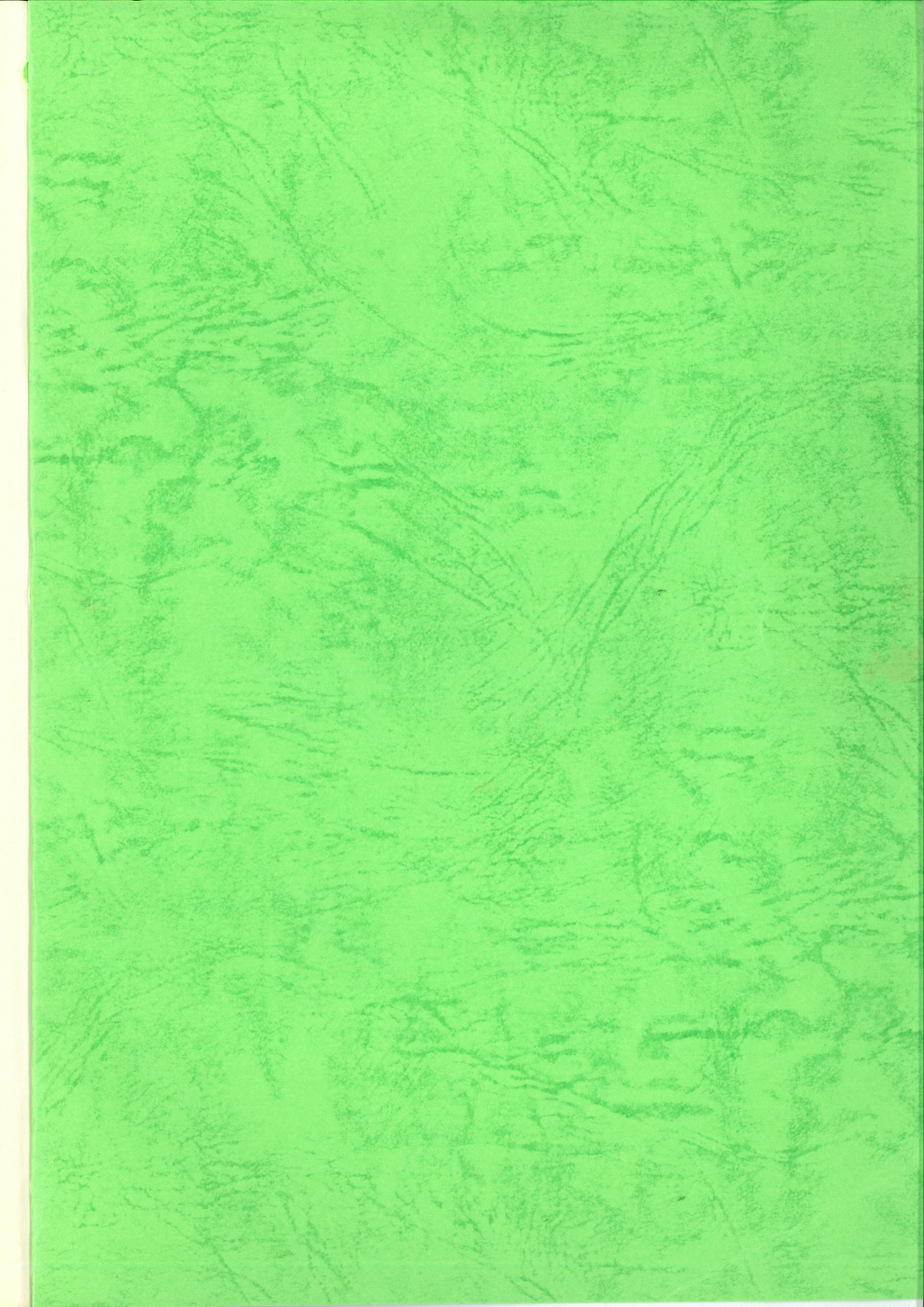


漕 魂

17 号

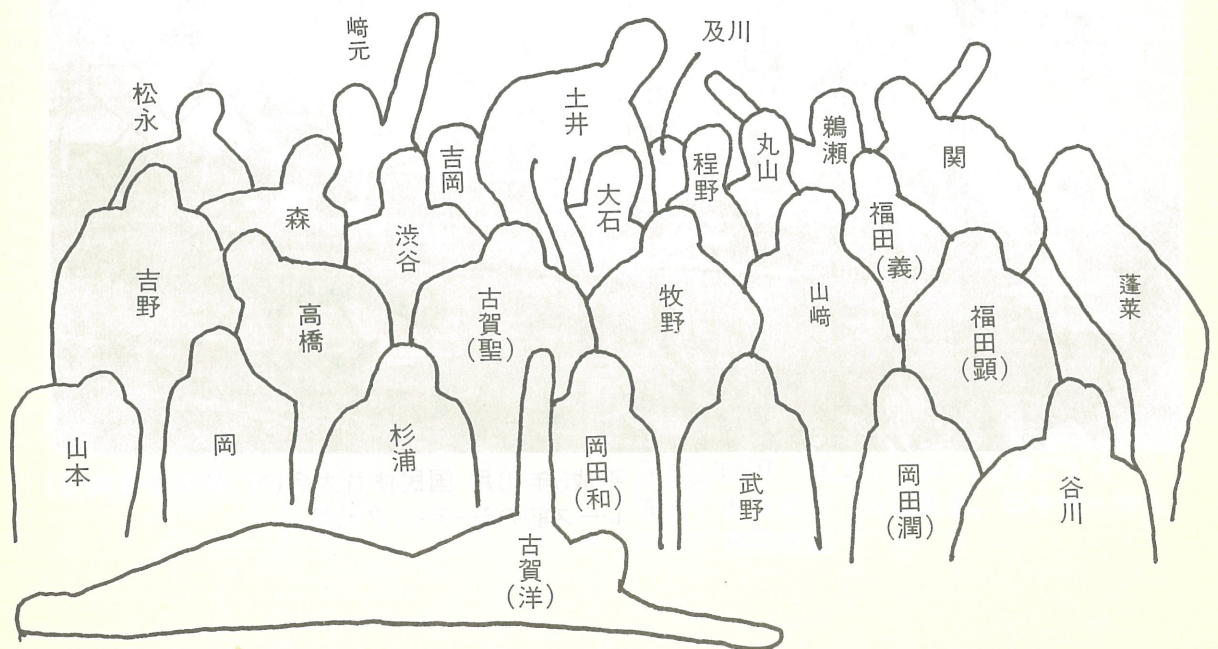
1 9 9 5 年

長崎大学医学部漕艇部





平成6年8月 西医体(於:大阪府浜寺)





平成6年8月 西医体 準決勝
手前より 熊本大「蒼風」、長崎大「雄図」、滋賀医大「湖神」



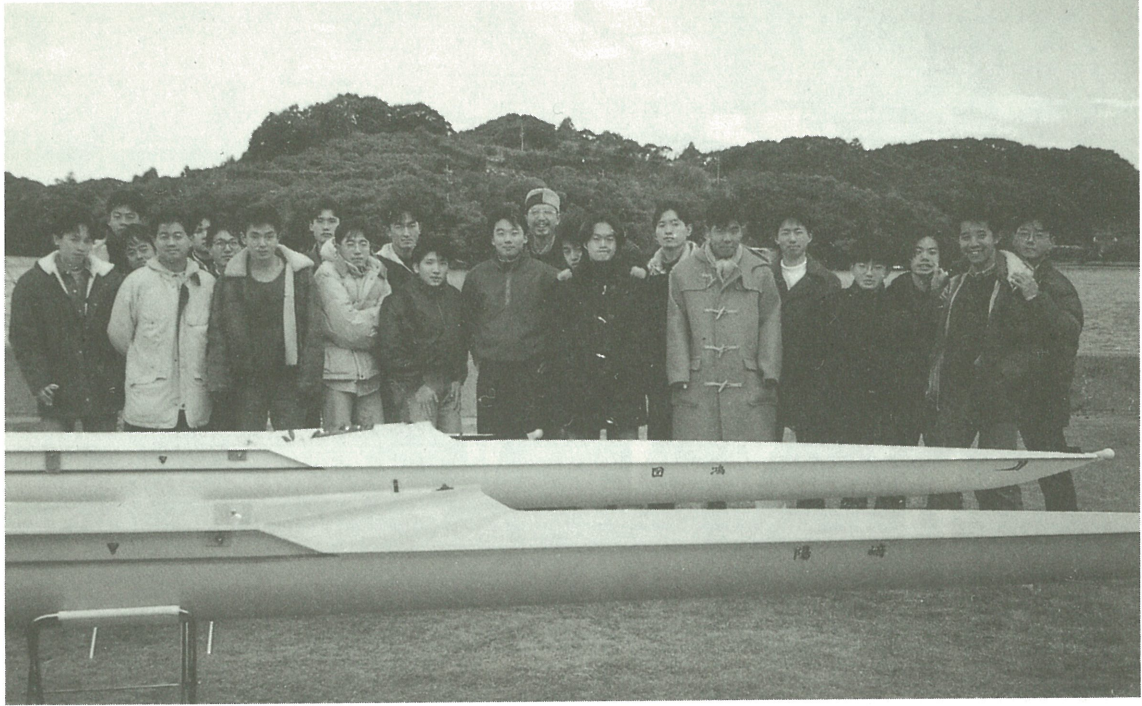
平成6年10月 国民体育大会(於:愛知県愛知池)
レース前のミーティング風景



平成6年9月 丹羽先生教授就任祝賀会



平成6年9月 “浦上川でボートを漕ごう”イベント
左より 出口先生，山近先生，田中精一先生，
丹羽先生



平成7年1月 初漕ぎ及び新艇進水式(於:子々川)
「鴻図」「崎陽」と命名



平成7年1月 学内駅伝大会
左より 蓬菜, 宮崎, 谷川

目次

巻頭言

私の回想……………石橋盟士 …… 1

活動報告

平成6年度シーズンの反省……………武野正義 …… 13

特別寄稿

丹羽先生教授就任……………山近史郎 …… 2

平成6年度試合結果報告……………古賀洋安 …… 16

浦上川漕艇イベント……………田中精一 …… 4

卒業にあたって

立つち〇ポ跡を濁さず……………岩井敏郎 …… 44

寄稿

練習帆船「海王丸」航海記……………田中精一 …… 6

卒業にあたり……………中桶了太 …… 45

近況報告

OBの先生方の近況報告…………… …… 8

部員雑感

キャプテン会議報告ならびに平成7年以降西医体の展望……………武野正義 …… 9

後輩の諸君へ……………古賀洋安 …… 48

新艇購入についての報告……………岡真一郎 …… 11

漕艇を離れて……………杉浦利彦 …… 48

「無双」修理についての報告……………谷川治 …… 11

人生を語らず……………関徹 …… 49

佐藤芳久氏御逝去……………福田顕三 …… 12

平成6年、現役最後の年……………武野正義 …… 49

写真の夏……………福田顕三 …… 52

主将になるにあたって……………岡真一郎 …… 53

無題……………岡田和一郎 …… 53

ゆめ……………藤本武士 …… 45

ホクロ占い……………安田恵多良 …… 46

浜寺8・7	谷川	治	53
BOATのBはBLOWのB	牟田口	滋	59
私の日記			
私の先輩の関さんについて	大石	正雄	60
狼たちへの伝言	古賀	聖士	60
懐疑論者は語る	崎元	暢	61
一匹狼に捧ぐ1995	福田	義文	62
今、思うこと	山崎	励至	62
十九歳の私の目標	鶴瀬	匡祐	63
11	高橋	優二	63
[clear nōjū]	程野	茂樹	64
ボート部の生活	牧野	淳	64
三泊四日富山の旅	丸山	哲夫	65
二十歳の決意	宮崎	浩充	65
うぐん	山本	経之	66
無題	吉岡	邦晃	66
今、思うこと	吉野	俊平	66
漕手とコックス	及川	将弘	67
ボート部に入部して	尾石	義謙	67
昨年の反省と今年の抱負	渋谷	正樹	67
無題	土井	晋平	68
不器用な自分	蓬萊	彰士	68
無題	松永	祥志	68
私はコックス	森	創	68

その他

平成5年度長崎大学医学部漕艇部OB会収支報告	69
長崎大学医学部漕艇部OB会会則	70
漕魂の歌	
琵琶湖就航の歌	
長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿	
長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿	
長崎大学医学部漕艇部コーチ名簿	
長崎大学医学部漕艇部OB会一般会員名簿	
長崎大学医学部漕艇部現役部員名簿	
編集後記	

〈巻頭言〉

私の回想

石橋 盟 士（昭和30年卒）

昨年9月24日の丹羽先生教授就任祝いの翌日、浦上川でのボートレースは残念ながら見に行くことはできませんでしたが、次の日の新聞記事を読み、又、ナガサキフォトサービスの高原社長にレースの写真を見せて頂き、昭和24・25年頃の事が懐かしく思い出されました。

私は昭和24年、未だ戦後の混乱期、物不足の時代に、本学医学部教養過程に入学しました。当時教養部は長崎と大村に別れていて、私は経済学部内にあった長崎の教養部に入学、直ぐに寮にはいることになりました。ここには旧制長崎経専時代からの木造の寮が二棟あり、各部屋には8つのベッドがあつて8人が同居することになりました。私以外は全て経済学部で、その関係もあつて同室の者と一緒に、私も旧経専から引継いだボート部に入学しました。

当時、艇庫がなくボートは中島川の出島にあつた民友新聞社（現在の長崎新聞は民友新聞と長崎日々新聞が合併したもの）の石垣に繋留してありました。その為に、練習は通常港内で行っており、時には中島川を中央橋付近まで溯ったりしていました。したがってボートを出島に置くことは練習には便利でありましたが、その頃の社会情勢では、ボートの金属特に銅の構造材盗難と言う不都合な影響をこうむり、そ

の補修には、社会一般が困窮し金のない時代に大変苦勞した記憶があります。

夏休みには、当時まだ、海水浴場があり小瀬戸と狭い海峡を隔てていた「ねずみ島」に、海水浴場開きの前に合宿練習を行いました。

ボートは2艇あつて、シックスの固定座のもので安定はよく多少の波では転覆することはありませんでした。したがって、合宿中は香焼島灯台を訪れたり、伊王島一周など、相当にきつく体力的に大きな負担ではありましたが、楽しい行事でありました。通常の練習では、時々、今回の浦上川でのレースのように稲佐橋をほぼ中心とした1000mコースで記録を取ったりしました。ここで、戦前には医大と高商（経専の前身）との対抗ボートレースが長崎の名物行事として行われていたと言う話を聞いたことずあり、その18mm映写を見た記憶があります。

それから医学部へ進学し、クラスの仲間と医大時代のボートを、女神検疫所の港に半ば沈没していたのを引上げ、水漏れする艇を浦上川まで漕いで運び、その先は馬車に積み、時津（現在の三菱電気工場の辺りにあつたと思いますが）に新築された艇庫まで、随分と苦勞して運びました。しかし、艇庫は立派でしたが、艇は老朽化しボートとしての使用に耐えないものでありました。

その後、医学部のボート部は、丹羽先生達が再建されるまでは存在しなかったのではないかと思います。再建後、丹羽先生等当時の方々の継続した努力と村上先生を頂点とするOB会の指導者の皆様の尽力によって、今日のボート部の隆盛な時代を築きあげられたのであります。

先日の浦上川でのボートレースの写真を見て、私の現役の頃、水漏

れするボートで水を汲み出しながら漕いでいた時代を回想し、今日のボート部の隆盛は、全く隔世の感があります。

村上先生、丹羽先生を中心とした先輩による、現役のボート部に対する物心両面の支援は、他に類を見ないものと思います。このような支援に支えられた現役諸君の今後の一層の努力を期待して、この稿を終わります。



〈特別寄稿〉

丹羽先生教授就任

もうあえて書くこともないほど皆様よくご存知の通り、昨平成6年9月1日を以て、顧問の丹羽正美先生が第一薬理学教室教授となられました。我々学生としましても、学内で悪名高いボート部員の言動が先生の足を引っ張っているのではと密かに心配して参りましたが、これようやく愁眉を開くことができます（開かないでくれ、と言われそうですが）。なお、9月24日に松亭で行われました祝賀会には50人もの先生方が出席されました。これほどの人数のOBが一同に会したのは初めてだったそうです。

山近史郎先生と永山雄二先生から御寄稿を頂きましたので、以下掲載致します。

丹羽先生との思い出

—小生ボート部20年生—

山近史郎（昭和57年卒）

私とボート部の関わりは、即ち丹羽さん（教授ですがあえて丹羽さんと呼ばせて頂きます。）との関わりの歴史と言っても過言ではなく、それほど丹羽さんには多くの思い出があります。1976年にボート部に入部して早20年目になりましたが、丹羽さんは最もお世話になっ

丹羽教授誕生!!

永山雄二（昭和58年卒）

た先輩であります。入部時、新歓コンパで初めてお会いした当時、丹羽さんは第2薬理の大学院生でした。以後現役時代からボートの指導をしてもらっただけではなく、公私ともどもお世話になり、自宅に幾度ともなくお邪魔したり、薬理学教室の部屋で勉強させて頂いたりもしました。医者になってからはなかなかお会いする機会が少なくなりましたが、現役部員が年々代わってもいつも丹羽さんはボート部を暖かく見守っておられます。

去る1990年、1994年には我が長崎大学は西医体に見事に優勝し国体にも出場など輝かしい成績を残しており、今まさに黄金時代と言ってよいでしょう。りっぱな艇庫が完成し、艇もエイト、フォアと充実し設備の面でも他大学に比しリードしていると聞きます。部員も40人と多く、今まさに丹羽さんの（私にとっても）理想のボート部に到達してきたと言ってよいのではないのでしょうか。

今年になって1月15日に子々川の初漕ぎに参加しました。3年半長崎を離れておりましたので久しぶりの子々川の光景は最高でした。かつて合宿で毎朝走った第一峠までランニングしましたが、周りの田園風景は変わっていませんでした。西医体に優勝した部員らと一緒に漕ぎ、レースもできて最高の一日でした。

学生生活のほとんどはボートの思い出であり、子々川は間違いなく青春時代に自分を鍛えてくれた場所であったことをあらためて認識した次第です。

これからもボート部を、OBとして丹羽さん達と見守っていききたいと思えます。

丹羽先生、第一薬理学教室教授御就任おめでとうございます。私共が大学に入学しボート部に入部した頃はボート部を創立された大先輩で、既に卒業されており、一緒にボートを漕いだことはありませんが、現役部員としていろいろと面倒をみていただきました。尾崎先生が第二薬理の教授、丹羽先生が助教授でいらした時代で教室にはよく入り浸りだったことを懐かしく思い出します。

さて、私事になりますが、縁あって今年2月から丹羽先生の教室でお世話になることになりました。（上野非常勤講師、野中助教授、多くの犬達といろいろ難題もあるようですが）少しでも新しい教室作りのお手伝いができればと思います。

私は第一内科で10年ほど内分泌班に属し、甲状腺の分野で主に分子生物学をやってきた人間ですのでどれだけお役にたてるかわかりませんが、将来は基礎の教室で仕事をしたいと思い、既に昨年の7月からこれを書いている現在まで原研細胞生理学教室で仕事をさせていただいております。

ボート部員で基礎の教室で研究してみたいという人は是非第一薬理へどうぞ。



浦上川漕艇イベント

実際に参加された方も多かろうとは思いますが、昨年9月25日にOB会を中心として浦上川での漕艇イベントをおこないました。丹羽先生の教授就任祝賀会の翌日ということもあり、20人を越えるOBの先生方に参加していただきました。フォア2杯にエイトの計3杯をOBと現役部員との混合クルーで漕ぎ、随時レース等も致しました。概して、腹の具合と気合いで勝るOBが現役部員を圧倒するといった構図で、中でも丹羽先生、田中精一先生、山本太郎先生の闘志（暴走）には目を見張る（あきれ）ものがあり感服しました。また、周囲の反響も、地元テレビ局等の取材を受けただけでなく見慣れぬ風景に足を止める市民も多く、更には旧制中学時代に浦上川で漕がれた方が懐かしさの余りかけつけるなど、予想以上のものがありました。このイベント実現に向けて奔走された田中精一先生から御寄稿を頂きましたので以下掲載致します。

浦上川でボートを漕ごう

田中精一（昭和51年卒）

9月25日快晴の日曜日、念願の浦上川でエイトを漕ぐことができた。戦前、浦上川河口から長崎港にかけて催された海上運動会の賑いを、創部当初より聞かされてきた。

「浦上川でボートを漕ごう」の企画が持ち上がり進めて行くうちにこのことが単に昔と同じ事をやるということだけではなくて、ボートの介在で水に親しむ人が増え、人の集まった美しく生き生きとした川とその河畔を想像するようになった。

古い街並みにゆったりと流れる川はよく似合う。時代にそぐわぬゆるやかな速さで仲間達とボートを漕ぎながら川より長崎を眺めると、港からの山の手と少し違って、生活の臭いのする落ち着きを感じた。

自然と融和し、生活に裏打ちされ、学園が潤いを与える街にやすらぎを感じる。河岸に緑の並木があり、お年寄り夫婦が手をとりあい散策する姿、親子連れの賑やかな声、若い男女が言葉もなく川面をみる夕日に『イージオール』のかけ声の伝わる空間と時間を夢見ている。

戦争が終わって五十年にあたる年に、この川に思いを馳せることも大切なことと思う。

来年もまた是非参加したい。



〈寄稿〉

練習帆船「海王丸」航海記

田中精一（昭和51年卒）

漕艇を通じて知った、水に親しむ楽しさが忘れられない。入局した東京女子医大消化器病センターでも、医局の同僚と神奈川県相模湖でダブルスカルを楽しんだ。さらに、しばらくすると興味は水を通じて帆船へも移っていった。

1980年夏の3カ月間、練習帆船「海王丸」に船医として、東京および神戸商船大学学生のハワイ往復の練習航海に乗船する機会がありましたので、当時の日記の一部を投稿致します。

運輸省航海訓練所所属 練習帆船「海王丸」（日本丸と同型船）
総屯数2200屯 士官20名 乗組員46名 東京、神戸両商船大学実習生75名、総員141名

6月13日 晴れ。東京港晴海埠頭。少し出張ってきた腹に、赤地に3本のゴールドストライプの肩章のついた白の半袖の制服を着用し、制帽を深く被り、出港に備える。船はタグボートにひかれゆっくりと離岸しはじめる。しばらくして「登橋礼登り方用意」の号令がかかった。登橋礼は陸地にしばらくの別れを告げる帆船独特の儀式である。

純白の作業服に身を包んだ実習生総員が、猿のようにマストにかけ登り、各ヤードに並び、フットロープに足をしっかりとふんばり直立する。号令一下、帽子をかかえて声をかぎりに一斉に叫ぶ「ごきげんよう」の旅立ちの挨拶に、岸壁で見送る沢山の人達から歓声と大きな拍手が湧いた。全乗組員が、帽振れの号令で別れを惜しむ。湾上では、行き交う船が航海の無事を祈る長三声の汽笛。

浦賀水道をすぎるともうそこは太平洋で、夜、デッキに出るとすでに日本の灯はみえない。

翌早朝、船尾に信天翁、左舷に数十頭のいるかの歓迎をうけながら、船は風を求めて北上していく。

6月15日、快晴。午後より展帆作業。後部上甲板に立つキャプテンの指揮により、各ヤードに帆がかけられる。マストはもっとも高い所で50mある。満帆で船はゆっくりと進みはじめ、帆走速度平均5ノットでハワイへ向かう。

6月23日。今日は霧が深く、先ほどから霧笛が鳴り続けている。デッキにでるのは諦めて、本日は船内見学とする。帆走中の為、機関室にエンジンの音はなく、発電機の音だけがかすかに聞こえる。最後尾のプロペラシャフトの船外に出る部分はスタンチュウムと呼ばれる重要な部分で、船の用語でスタンチュウムが悪いとは痔のことらしい。夜半、霧笛が一段と激しくなっていくのを聞きながら眠りにおちた。翌朝、昨夜他の船舶とのニアミスがあった事を聞かされて驚いた。

日付変更線通過まで、あと数日。時計は航行距離に従い15〜20分と進められていく。船内生活にも慣れ、心配していた船酔いも全くない。暇な毎日が続き、診察室の手術台や无影灯もカバーをつけたままとな

っている。

6月27日、14時03分32秒、北緯41度07分にて日付変更線を通過した。洋上に青く引かれてあるという変更線を通過の瞬間に、制服、制帽の正装で記念の長三声の汽笛を鳴らす名誉を戴いた。

7月9日、午前9時10分に待望のハワイ諸島モロカイ島の島影を視認し、40分後にはマウイ島を確認した。船首甲板には、東京を出て一ヶ月ぶりにみる陸とあって、日焼けした顔が鈴なりで時折歓声があがる。

7月10日。ココヘッドをかすめ、総帆にてダイヤモンドヘッド沖へ向かう。既にダイヤモンドヘッドはカメラでその全景をとらえることができない。多数のヨットが帆走中の本船に接近し取り囲む。帆はいつぱいに風を孕みワイキキ沖をゆっくりと通過し、最初の錨泊地であるカウアイ島ポートアレン港へ向かった。

7月24日。カウアイ島では連日の歓迎パーティーで、1週間、同地滞在后、ホノルルへ移動した。今夕は船上での船長招待レセプションがある。

7月26日。米海軍軍艦の見送りをうけながらハワイ出港。2週間のハワイ滞在後また一カ月間の陸を見ぬ航海にはいる。出港後、ただちに展帆し、再度ワイキキ、ダイヤモンドヘッド沖を通過し、貿易風によって日本へ向けて快走を始める。

7月31日。午後より総端艇訓練の予定。操練に備えて腹拵えをしたが、昼食のメニューはビーフステーキ、カニコロッケ、赤まむしドリソク。洋上に降ろした救助艇にうねりによるアップダウンに注意しながら縄梯子を使って乗り込む。実習生とともにオールをもって、漕いだ。艇は木の葉のごとく波にもまれてなんとか進んで行く。やがて、

遠くに総帆をかかげて帆走する海王丸が、波間に見え隠れしてとても雄大だ。

激しい総端艇訓練も終わった。空腹感を覚えると、夕食には鶏飯、吸物、とろろてんが用意され、デザートにハワイで仕入れたパイアがでた。そして本日の夜食は生ラーメン。

航海も終りに近く、夕日はすでに水平線深く隠れ、周囲は闇。満天の星は水際まで埋めつくされている。疲れた体をベットに横たえ、船首方向に僅かに波の音を聞きながら眠りについた。数日の残された夢をみながら……。



〈近況報告〉

天野 秀明 (平成元年卒)

OBの先生方の近況報告

田中 精一 (昭和51年卒)

部誌の創刊号は昔、当時の生協の2階の部室で丹羽教授とガリ版をきりながら『漕魂』と命名したのをおぼえています。このような責任を負いながら部誌に原稿を寄せなかったことを申し訳なく思っております。

医学部漕艇部が少しずつ社会性をおびて行くなか、貴殿のご活躍と部の益々の発展を祈るとともに、遠方で十分にはできませんが協力致したいと思えます。
追伸…写真、ありがとうございます。

岡野 邦彦 (昭和63年卒)

大学院も今年で四年目が終わり、基礎から臨床へ戻る予定です。

ボート部の皆さん、ご無沙汰いたしております。遠方の関連病院に出向しておりましたため、なかなか皆さんとお会いする機会がありませんでした。私は昨年6月に大学に戻り、そろそろ研究を始めようとしている所です。日々、臨床に研究にと忙しく過ごしております。時折、皆さんからいただくお手紙を、楽しみには拝見させていただいております。近年の現役部員の皆さんの御活躍には目を見張るものがあり、とても嬉しく思っております。私が現役でボートを漕いでいたときには皆で試行錯誤しながらも、なかなか試合に勝てませんでした。今の皆さんは「常勝」の歴史を築きつつあり皆さんのことが我がことのように誇らしく思います。しかし皆様がたは勝つのがあたりまえの厳しい状況の中に身を置き、学問とクラブ活動の両立を余儀なくされ、さぞ大変だろうとお察しいたします。どうぞ楽しく、一生懸命に頑張ってください。皆様は今後一層の御活躍を楽しみにいたしております。

金色 正広 (平成元年卒)

静岡県の浜松医療センターに1年、福岡県の北九州市立八幡病院に2年勤務し、昨年6月から大学病院麻酔科、9月から集中治療部に勤務

しています。特に八幡病院では岡田先生、小林先生、中山先生、生田先生と、現役時代にクルーを同じくした先生方と楽しく仕事をさせていただきました。

しかし、3年間長崎を離れている間に、現役部員の皆さんとも疎遠になり、顔も名前も分からなくなり、悲しいかな、試合の勝利の便りが届いても他人事のように感じてしまうようにさえなってしまうました。

今回長崎にもどっても、なんとなくボート部への足も重くなっていますが、西医体で優勝したときの皆の喜びようを見たり、またこの度の丹羽先生の教授御就任に際しては、多くのOB諸先生方とお会いし、同じ喜びを分かちあうことができ、再び現役の頃の熱い思いが蘇ってくるような気がしました。

今後は、できるだけいろいろな集まりに顔を出したいと思っています。勤務の都合上、出席率はあまりよくないと思いますが懲りずに誘ってください。

竹下 浩明 (平成5年卒)

弱気になったら、勝負する前から負けは見えている。ガンガンいってくれ。

(年賀状より勝手に転載)

キャプテン会議報告ならびに

平成7年以降西医体の展望

5年 武野 正義

昨平成6年は、4月、8月、10月と三度にわたって西日本の医学部ボート部の代表が一同に会してのキャプテン会議が開かれました。その経過及び決定事項を報告致します。

4月に西医体参加大学の主将が大阪に集まった。ナックル製造中止などが理由で艇をそろえられないため、平成9年西医体からナックル部門が廃止される。その後の試合部門をどのような形にするかを話し合うためである。滋賀医はシエル部門を対校部門とそれ以外部門(滋賀医はこれをジュニア部門と呼んだ)というふうに分けることを強烈に提案していたが、長崎大を含む他大学がこれに反対。西医体後に再び集まることにして各大学が私案を考えてくるということに終わった。

その後、他大学の意見が郵送されてきたが、それぞれの大学にそれぞれの事情がありナックル廃止後の形に対する意見は様々だった。部員が少なくそれ程強くない大学の中にはナックル廃止自体に反対しているところもあった。長崎大学は幹部学年(5・4年生)が話し合い、シエル部門は今まで通りにその大学の対校艇・2番艇・3番艇が出場できる部門とし、それとは別に新人やそれに準ずる部員だけが出場できるジュニア部門をつくることを提案している。

8月の西医体は、シエル部門優勝したにもかかわらず同点の滋賀医

が入賞部門が多いということで長崎大は総合2位となった。西医体直後の主将会議では4月に話し合った事に加えて、こうした矛盾を改正すべく得点配分を見直そうということになった。最初にとったアンケートで参加大学15校のうち、シエル部門での優勝が総合優勝であるべきと考える大学は12校であった。(長崎大はもちろん12校の中の1つである。)全体の総意は1つであったが長時間の話し合いにもかかわらず、根本的なことは決定できなかった。決まったことは平成7年香川大会で滋賀医のいうジュニア部門は実施しない、10月に再び主将会議を香川で開くことである。

そして、その10月会議での決定事項は左記の通りである。

平成6年8月時の得点配分

	1位	2位	3位	4位	5位	6位
シエルフォア	16	8	4	3	2	1
ナックルフォア	8	4	2	1	-	-
シングルスカル	4	3	2	1	-	-



	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
シエルフォア	18	8	6	5	4	3	2	1
ナックルフォア	6	3	2	1	-	-	-	-
シングルスカル	4	3	2	1	-	-	-	-

平成6年10月キャップ会での合意案

シエルフォア1位の得点と並ぶにはシエル2位とナックルとスカルで1位にならない。逆に言えば、シエル2位とナックルとスカルで1位を取って他に入賞していればシエル1位を追い越して総合優勝できるというものである。従来の得点配分と比べてシエル1位の価値を重視しつつシエル1位以外の大学の総合優勝の可能性を残している。個人的に言えば、それでもシエル1位の得点は少ないと思う。その大学の代表である対校が出場しているシエル部門での1位は、得点面から見ればもっと価値があるべきだと思う。また、表ではシエル8位まで得点があるがこれは決定された訳ではない。実のところどの順位まで得点があるのかは未定である。8位まで得点があるとすれば香川では4レーンレースなので順位決定戦を行なうことになるだろう。今回は表のようになったが、これはナックル廃止後のことは考慮されておらず平成7年香川大会のみの適用となる。つまり、ナックル廃止後をどうするかは決定されてからもう一度得点配分が議論されると思う。

そして、ダブルスカルが平成8年か9年に正式種目なる。ダブルスカルにも得点が与えられるようになるのは2年前から決まっていた。長崎大学も遅れをとらない様に、今年から積極的に準備する必要があると思う。

以上のように2〜3年先には西医体は新しいものになるが、具体的な事は決まっていない。これからも重要な話し合いが多くあるだろう。西の端にいるからと言って、発言を遠慮することなど全くない。最近6年、連続して決勝に出ているのは長崎大学だけであり西医体の顔と

言っても言い過ぎではない。だから長崎大学の意見は尊重されるはずだし、実際尊重されてきた。特に2〜3年後に幹部学年となる部員は、イニシアチブを取れとは言わないがこれらの話し合いに積極的に参加してほしい。

新艇購入に関しての報告

4年 岡 真一郎

'95年度のシーズンを迎えるにあたって、まず問題になったのは、崎陽、霧島の老朽化による艇不足であります。

崎陽、霧島は長年漕いできて、我々にとっても大変愛着のある艇なのですが、ここ数年ではかなり老朽化が進んでおり、①ガンネルがグラグラに不安定になっており、漕いでいてリギングが一定しない。②シートなど他の部分もかなり故障しやすくなっている。③古い艇であるため、部品を注文しても揃わないなどで、練習途中に陸に揚げて修理することが頻繁になっており、練習艇としてはもう限界に達してきました。部員は現在25名で、更に今年入ってくる新入部員も考慮に入れると、残りの3艇でやっていくにはとても苦しい状況であるため、雄図を購入してからわずか1年でお願ひするのはとても心苦しかったのですが、今期更にカーボン艇2艇を購入していただけることになりました。新艇の命名については、村上先生の御助言もありまして、一番艇に「鴻図」（最新型、白）、二番艇に部歌の一節にもある「崎陽

”（雄図タイプ、黄）という名を残すこととなりました。今回の件で御尽力を下さった井上健一郎先生、朝長先生をはじめ、御寄付して下さったOB会の先生方に心から感謝すると共に、今後も良い結果がだせるように、より一層がんばりたいと思います。

「無双」修理についての報告

4年 谷川 治

昨年（94年）4月の乗艇中、2番艇「無双」の「アルミブラケット」が突如折れるという事態がおきました。「ブラケット」とは何ぞや？言われる方のために説明しますと、モノコック艇（我が部では無双、雄図）がシート下にもつ空気室の内部に存在する、湾曲した太いアルミ棒であり、言わば「陰のビーム」と言ったところでしょうか。この存在すらあまり知られていない太いパーツ（の溶接部）が折れたのです。もちろん初めてのことです。桑野造船に問い合わせたところ、船体外殻を切開しての部品交換が必要ということで本社に引き取っての修理となりましたが、幸い時津町にあるプラスチック加工会社が桑野からの指示を受けて修理を下さるようになりました。この際ということで正常な3本のブラケットについても交換し、修理費用は部品代5万工賃11万の計16万でした。

原因はどうやら「塩」のようで、改めて空気室内を見ると購入以来3年分の塩がたまっていました。桑野造船の話でも、このブラケット

が折れた例というのは全国でも我が部と大村高校の2例しかないとのことでした。対策としては、空気室の中もよく洗浄する。これに思われます。当然乾燥に時間がかかるので毎週というわけにはいきませんが。モノコック艇の管理については、クラブとしてまだ経験が少なく、これからもまだ気付かないトラブルが発生する可能性もありますので部員諸君は気を付けて下さい。きちんと塩取りをやらなければ、雄図もあと2年ほどでブラケット破損がおきると予想されます。

もう1件の大修理は7月、同じく「無双」に今度は外殻全周に渡る破損が発生しました。ラフコンディションでの乗艇で、波に向かって直角に進行し乗り上げた波を越えた途端、シーソー運動で船首が水面に叩きつけられたためおこったものでした。素人目には「船が折れた」という感じで、廃艇かとすら思いましたがさすがはプロの修理、艇重が重くはなりましたが無事修理できました。修理代20万円。高い授業料です。大波に対して斜めに進むのは、四級船舶免許の学科本を繙くまでもなく常識と言えます。COXの方は注意して下さい。もっとも、波が小さければ直角に進んだ方がバランスを崩しにくいのも事実です。が……。COXの方に四級船舶免許の学科本を読んでおくことを進めます。右側航行だとか衝突回避は必ず面舵だとか、一般船舶の航行する子々川海域で不可欠と言えるルールが記載されています。

「無双」が修理のためシーズンの約1/2の期間使用できなかったことは、昨シーズンのBクルーの敗因の一つに挙げられてもよいと思われまます。また、苦言を呈させてもらえば「無双」以外の艇についても最近扱いの粗雑さが目につきます。注意して下さい。

ちなみに、今回一連の修理をうけもって下さったプラスチック加工

会社が今後の修理も桑野造船と提携して引き受けて下さるようなので、次回以降FRPに関わる修理はお願いするのがよいと思われまます。左に社名等を記載しておきます。

有限会社 沖原プラスチック
〒851-21 西彼杵郡時津町日並郷3505番地
(TEL) 0958(82)2808

佐藤芳久氏 御逝去

長崎大学臨海研修所で管理人を務めてこられた佐藤芳久氏が平成6年6月24日お亡くなりになりました。

佐藤氏は昭和62年に臨海研修所に赴任して以来、実に様々な形で私達のお世話をしてくれました。合宿所を私達が使いやすい状態に秩序立てて保持していただいたばかりではなく、艇の修理や工具の使い方などその知識をお借りしたこともしばしばでした。大学の学生係と話をするときには、私達学生の立場を守るよう努力していらしゃったとも聞き及んでいます。平成五年に管理人を辞めてからも、そしてその後入院されてからも、常に我が部をはじめ学生のことを気づかっておられました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、心から御冥福をお祈り申し上げます。

(福田頭三)

平成6年度シーズンの反省

平成6年の我が部の活動内容について、昨シーズン幹部の責任の一端として報告及び反省を綴ることにします。オフ・シーズンについては前号(16号)の「陸トレのレポート」にて触れているので、ここでは主にオン・シーズンについてとしました。Aクルー重視的な点については御容赦下さい。

平成6年シーズンの反省―後輩に残すこと―

5年 武野 正義

昨シーズンは、西医体優勝をはじめとして各試合でそれなりの結果を残せたと思う。しかし、結果ばかり見てシーズン通しての反省をしなれば昨シーズンは無駄に終わってしまうのは言うまでもない。はたして何人の部員が反省点を挙げ、今年に活かしているだろう。昨シーズンの幹部学年として、また一部員として反省点を挙げたいと思う。

まず第一に、シーズン中にクルーのメンバーが変わらなかつたのは対校だけだったということだ。他のクルーは故障や精神的負担の悩みからメンバーが変わり、クルーを固定できなかった。ボートというスポーツを考えればメンバーが何回も変わる事態がどのようなものか分かると思う。

第二に、各クルーで決めたはずの月間練習をその通り実行したクルーがなかったことだ。故障や天候など、どうしようもない理由があったのだろうか、天候が悪いとあきらめてはいなかったか、故障する者はその対策を立てていただろうか。もう一度、厳しく自分自身に問いかけたもらいたい。特に腰痛に代表される故障は、高校時に何らスポーツをしなかった人が多い我が部につきものだ。それならばシーズンオフからシーズン中にかけて腹筋背筋をするべきであり、そうした予防策を実行せずにシーズン中に腰痛で練習を潰すのは、やはりその人に責任があると言わざる得ない。

厳しく言えば、最終目標であるに西医体でBクルー以下があまりふるわなかつたのは、練習一回一回を大切に思う気持ちと一回の練習を中止することに對する痛みが足りなかつたからだと思う。その日その日の練習に自己満足していただけないのか。きちんとした練習目的を理解していたか。漫然と練習をこなしていただけではないのか。そしてなにより、今、昨シーズンの自分は最大限に頑張ったといえるだろうか。これは今年だけでなく、シーズンが終わる毎に考えてほしいことだ。

昨シーズンの対校の反省点を挙げると、

* 乗艇練習で他クルーと並べなかつたこと。

* シーズン通して疲れを貯めていったこと。

* もっとコーチと意志疎通をはかるべきだったこと。

* インカレに出場しなかつたこと。

まだ多くの反省すべき事はあるが、他クルーと並べなかったのが一番の反省点だ。これは対校に限らない。例年は他クルーと並べるのが当り前のことだったのだが…。僕ら幹部学年の責任である。他クルーと並べる利点は言うまでもないと思うので、今シーズンからは常に他クルーと並べて練習して欲しい。インカレには学部試験を再試にするつもりで出場するはずだったが、国体の一週間前だったことと本試は受けるべきだという教官がいたことで不出場と決めた。オアズマンとしてインカレに一度は参加すべきであり、今年は是非出場して欲しい。また、コーチのチームともしっかりコミュニケーションがとれていたら、可能性がもっと大きくなっていただろうと思う。今年はそのチームがないので、チームに代わるコーチを探さなければならないと思う。コーチの存在は予想以上に大きなものだ。

並べることが少なかった昨シーズンでは対校メニューを知るものも少ないと思うので、以下に昨シーズンの対校メニューを示す。

— (5/11～5/17、九朝一週間前) —

水…オフ

木…(朝) 湾内×2。30本×10 (指定レート34)。

(夕) ライト・ウェイト

金…(朝) ポーズドリル4と5。60本×10 (指定レート32)。

(夕) **合宿in**。ポーズドリル5。スタ練。60本×5 (指定レート32、スタ・ミド・ミド・ラス・ラス)。30本×10 (指定レート34)。

土…(朝) スタ練。3分×5 (指定レート31)。30本×10 (指定レ

ト34)。

(夕) 風が強くて中止。(陸トレに変更)

日…(朝) 片手漕ぎ。スタ練。60本×10 (指定レート32)。20本×10 (指定レート36)。

(夕) スタ練。3分×5 (指定レート31、スタ・ミド・ミド・ラス・ラス)。30本×10 (指定レート33)。

月…(朝) スロースライド (指定レート15)。

スタ練。3分30秒×3 (指定レート32、スタ・ミド・ラス)。30本×5 (指定レート33)。

合宿out。

(夕) ライト・ウェイト。

火…ヘビー・ウェイト。

— (6/15～6/21) —

水…オフ

木…(朝) スロースライド (指定レート15)。ニュータウン黒島往復 (約50分)

(夕) ライト・ウェイト

金…(朝) ハンドレベル固定の練習。湾内×2 (休暇なし)

(夕) **合宿in**。スクエアプレート漕ぎ。湾内×3 (指定レート22、24、26。1.5往復で休暇)

土…(朝) 湾内×3。5

(夕) 湾内×3 (ライトワークとレギュラーロー)。

日…(朝) エルゴ40分 (指定レート25)。

(夕) 湾内×4 (指定レート22、24、26、28。2往復で休暇)。

月…(朝)エルゴ30分(指定レート24、22、26、24、28、26)。

合宿out。

(夕)ライト・ウエイト

火…ヘビー・ウエイト

(7/6、7/12 試験期間)

水…オフ

木…(朝)黒島×2(指定レート24、26、28、30)。

(夕)ライト・ウエイト

金…(朝)黒島×1(指定レート23)。30本×5(指定レート30)。

土…(夕)湾内×3(指定レート26、28、30)。

日…(夕)湾内×3(指定レート26、28、24)。

月…(夕)スロースライド(指定レート15)。ハンドレベル固定の

練習。

火…(夕)ライト・ウエイト。

(7/27、8/2 西医体12日前)※水・木がピーク

水…(朝)エルゴ4分×5

(夕)エルゴ1分×10。1000m×2(試合形式)

木…(朝)2回目複合宿in。スタ練。4分×5(指定レート

33)。2分×5(指定レート34)

(夕)30本×20(指定レート34)。20本×20(指定レート36)

金…(朝)スタ練。レギュラーロー10分。4分×1(試合形式)

(夕)スタ練。ポーズドリル1、2、5。60本×3(指定レ

ト33、スタ・ミド・ラス)。

土…(朝)スタ練。20本×5(指定レート38)。20本×5(指定レ

ト35)。3分30秒×1(試合形式)。

(夕)スタ練。3分30秒×2(試合形式、Cと並べる)。

日…(朝)スロースライド(指定レート15)。40本×5。スタ練。

(夕)スタ練。60本×5(指定レート34、スタ・ミド・ミド・

ラス・レース)

月…(朝)スタ練。20本×10(指定レート36)。3分30秒(試合形

式、全クルー並べる)。

火…オフ。

夏合宿out。

部員一人一人が反省点を克服して自分の目標(それが全員の目標でもある)を達成して欲しい。今後、後輩達があらゆる面で総合優勝することを願ってやまない。部員全員が力をつけなければ総合優勝はできないのだ。もちろん、そのための協力も惜しまないつもりなので、どんどん要望を言って欲しいと思っている。

一シーズンの練習について

5年 古賀 洋安

シーズンの練習はすでに主に冬の陸トレから始まるが、ここでは簡単にふれる。

やることはいろいろあるが、主にエルゴとヘビーウェイトが有効であるように思う。

エルゴはロングなら40分〜60分、そして昨シーズンから始めたスレシヨルド (threshold) トレーニングなどである。これはたとえば3分ひいて3分休みというようにひいた時間だけ休むというもので、ひくペースは2000mのトライアルの50mラップにプラス5秒くらいである。それを3分×8とか4分×10とかやるわけである。トータルで最大40分くらいまでがいいようだ。

まあ冬はその時の主将の意向に従えばいいと思う。

さて本格的に漕ぎ始めてからの練習であるが、昨夏は幸運にも西医体のフォアで優勝という、大変うれしい結果に終わったが、特に変わったことはしていないので、私たち対校クルーがやっていったことを少し書こうと思う。結果的にはよかったが、ピーク前後の調整がうまくいかなかったのでその反省も含めて書いてみる。

まず、春 (県漕まで) について

この時期は冬の練習によるところが大きい、練習は、九山とか九

朝とかのレースの一週間前にピークをもってくるように、2週間ロング1週間パワーピースという感じでやる。この時期はレースの間隔が短いのでスタート練習とか調整が難しいが、各コックスが考えてやってほしい。ちなみにAクルーはレースの10日ほど前からスタ練を始めた。(と思う。)

ロングは黒島1往復と湾内2往復、ないしは黒島2往復程度である。パワーピースは、本数で言うなら700本前後、ピークで850本ほどである。レースの直前には1000mトライアルも必要である。

時には確認ないし気分転換のために技術練習もしてみるといい。次に夏 (県漕から西医体まで) について

この時期は基本的にレースはないので、ある程度コックスの思いどおりに練習できるが、中だるみしやすくもあるので注意してもらいたい。

最初の約1週間は基本にもどって技術練習を主にする。特にキャッチ練習とフィニッシュ練習はここでしておかないと後に効率の悪い漕ぎしかできなくなるので、真剣に取り組むようにされたい。それとスクエアブレードⅡロウはかなり有効であると思う。また漕ぐ時には常にハンドレベルを気をつけるように。他にもスロースライド、ポーズドリルなどもあるが、ここでは割愛させていただく。

次にロングであるが、最初は無理せず、距離もレートも徐々にのばしていけばいい。Aでは湾内3往復、レートは22くらいから始めた。だいたい1週間でレートが1〜2あがればいだろう。この際1週間でサイクルをつくり、小さな山を週末にでももってくるという。

次の1〜2週間ほどで黒島2往復がルーチンになり、場合によっては

それに湾内1往復や技術練習などを加えた。

ここで注意してもらいたいのは、休憩をとりすぎることと、変に変化をつけようとしてあれこれやりすぎることである。

前者については、Aでは黒島への片道で3分ほど、後には1往復で6〜7分であった。休憩をとりすぎるとロングの意味がなくなってしまうので、コックスは心を鬼にしてそのへんを注意するように。

後者については、変にレートを上げたり、脈絡もなく技術練習をしたりするのは避けろということである。レートのピラミッド練習はその感覚をつかむために重要であるが、それも十分考慮した上でやってもらいたい。

確かにこの時期の練習は単調でありおもしろくない練習ではあるし、文句をいう漕手もいるかと思うが、単調で地味なことが基礎となっていくので、コックスは自分の考えで練習メニューをたててほしい。

6月の終わり頃からパワーピースとスタート練習を始める。

スタート練習はまず最初の1本そして2本目がびったりと合うまで、時間の許す限り最初のうちにやった。特にハンズアウェイを意識的に速く行わないと高いレートについていけないので各自徹底させるよう注意した。

パワーピースは最初は70本くらいから始めた。ここでも休憩は基本的に漕いだ時間分ほどで、まん中に水飲み休憩をいれていた。

Aは週末には毎週合宿していたので、そのときに小ピークを作るように心がけていたがうまくいったとは言いがたい。反省すべき点である。

そして重要なことは、パワーピースはできるだけ他のクルーを並べることである。自分がそうできたかどうかは自信がないが、並べると

レースの感覚がある程度味わえるし、競ったときのふんばりが養えるという利点がある。特にスタート付のときは、並べると緊張し、ふだんのようにうまくいかないことが往往にしてあるので、そうならないための訓練にもなる。

練習内容については、週ごとに100本程ずつ増やしていった。そしてピークはレースの2週間前にもっていった。この時期はもう、力を1本1本に出しきることと、レートが途中で急激に落ちないことに気をつけて練習した。

ピークは1回の練習で約1000本だったが、昨夏はその時期に台風が接近していて、計画通りに練習ができなかったのが悔やまれるところである。ピークでは体がポロポロになるほど漕ぐようにしてもらいたい。

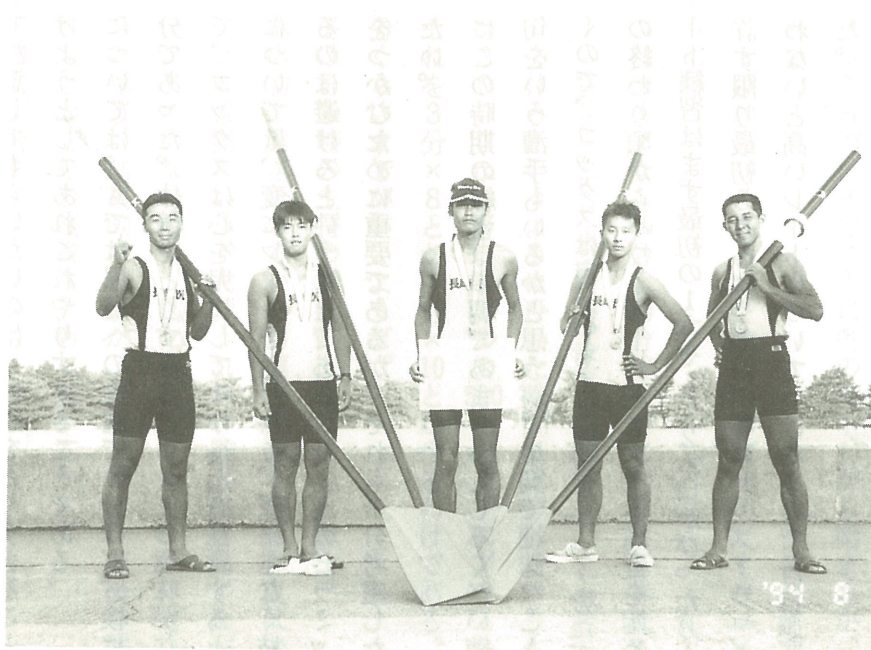
最後にピーク後の調整（落とし）であるが、これはその日の練習の疲れを翌日以降にひきずらないように心がけるべきである。スタ練と技術練習、パワーピースなら1000本ないし3分30秒を2回とか、他クルーとちょっと並べるとかである。本数でいえば、最多でも40本くらいまでにとどめた。

大まかに練習について述べたが、西医体、その他のレースを制するには、変わったことは別に必要ないことがいくらかわかっていただけたらと思う。具体的に何をしたらかとはとめどもなく書かざるを得なくなるのでここでは省略したが、わからないことがあればできる限りアドバイスをするつもりである。

参考までにレースの展開を書けば、スタート4本、ローイング10本（場合によっては20本）300、500mで足げり10本、650mで2枚上げ900m

でラストスパートという感じだったが、これはコックスの勘とレース
展開具合によるのであくまで一つのガイドラインとして見てもらえれ
ばと思う。

最後に、これが来季以降の練習計画を立てる際に何かの役に立てば
幸いである。



平成6年度試合結果報告

平成6年 九州山口医科学学生体育大会

試合日：平成6年4月23・24日

場所：宮崎県富田浜

種目：対校4+（6クルー）

オープン4+（10クルー）

オープンKF（7クルー）

クルー

・Aクルー（雄図）

C古賀（洋）（5年）

S武野（5年）

3谷川（4年）

2岡田（和）（4年）

B岡（4年）

・Bクルー（無双）

C程野（2年）

S牟田口（4年）

3古賀（聖）（3年）

2福田（顕）（5年）

B宮崎（2年）

・Cクルー（普賢）

C福田（義）（3年）

S山崎（3年）

3丸山（2年）

2山本（2年）

B関（5年）

・Dクルー（崎陽）

C大石（3年）

S崎元（3年）

3鶴瀬（2年）

2吉岡（2年）

B岡田（潤）（2年）

・Eクルー（霧島）

C森谷（2年）

S杉浦（5年）

3吉野（2年）

2牧野（2年）

B高橋（2年）

結果

〈対校4+〉 Aクルー……優勝

〈オープン4+〉 Bクルー……予選敗退

〈オープンKF〉 Cクルー……優勝 Dクルー……準優勝

Eクルー……決勝4位

タイム

対校4+

〈予選〉

I 長崎大〔雄図〕 ① 8分29秒14

II 宮崎医科大〔天照〕 ② 3分30秒92

III 佐賀医科大〔浮立〕 3 3分40秒12

〈決勝〉

I 長崎大〔雄図〕 ☆1 3分22秒83

II 熊本大〔蒼風〕 2 3分24秒73

III 産業医科大〔雄飛〕 4 3分38秒97

IV 宮崎医科大〔天照〕 3 3分27秒83

オープン4+

〈予選〉

I	産業医科大「ひびき」	3	3分58秒00
II	熊本大「韋駄天」	①	3分47秒51

オープンKF

〈予選〉

III	長崎大「無双」	2	3分48秒21
I	熊本大「龍南」	3	4分37秒57
II	長崎大「普賢」	①	4分15秒31
III	産業医科大「瑞穂」	②	4分28秒88

I	宮崎医科大「迦楼羅」	3	5分05秒42
II	福岡大	4	5分13秒46

〈決勝〉

IV	長崎大「崎陽」	①	4分39秒20
III	長崎大「霧島」	②	4分42秒46
II	長崎大「普賢」	☆1	4分18秒56
I	産業医科大「瑞穂」	3	4分30秒11
IV	長崎大「崎陽」	2	4分28秒18
III	長崎大「霧島」	4	4分38秒36

AクルーCOX記 (古賀)

〈予選〉 スタートばたつき佐賀・浮立にキャンパスほど出られるも、ローイング20本が終わるころには追いつき徐々に引き離しにかかる。500mで1艇身半くらいだったと思う。予選なので最後はながそうと思っただがあまりまわりを見なかったのがながしがおくれた。(2枚上げは入れた) 1位あがり。

〈決勝〉 スタートは予選より決まり、わずか(キャンパスの半分くらい)ながら出る。300と450mくらいで足げり、2位蒼風を徐々につきはなし500mくらいでは半艇身差。しかし700mくらいではキャンパス弱の差まで縮められた。残り350mくらいで2枚上げ、900mくらいでスパート(もう2枚上げ)をいれる。そこでまた差が広がり決勝のゴールにはいる。約半艇身差。3年ぶりの優勝。よかった。

BクルーCOX記 (程野)

新入生の勧誘と重なって、思うように練習時間が取れなかった。一人ひとりにパーはあったが、うまくバランスが取れず、なかなか効率よく艇を進めることができなかった。しかし、それまでBクルーはオープンシエル部門では五年連続優勝しており、皆楽観視していた。そこに油断がなかったと言いきれない。

レース開始。やはりバランスを崩し、他の艇に半艇身出られる。思いがけない展開に力が入ったのか、なかなか艇速は伸びない。少しずつ差を縮めていくが、追いつけない。途中、足蹴り、スパートを入れるが、最後はキャンパス差で負けてしまった。この大会は福田さんの漕手引退試合でもあり、何としても勝ちたかった。優勝するつもりで

臨んだのに大負けしたという点で、忘れることができないレースである。

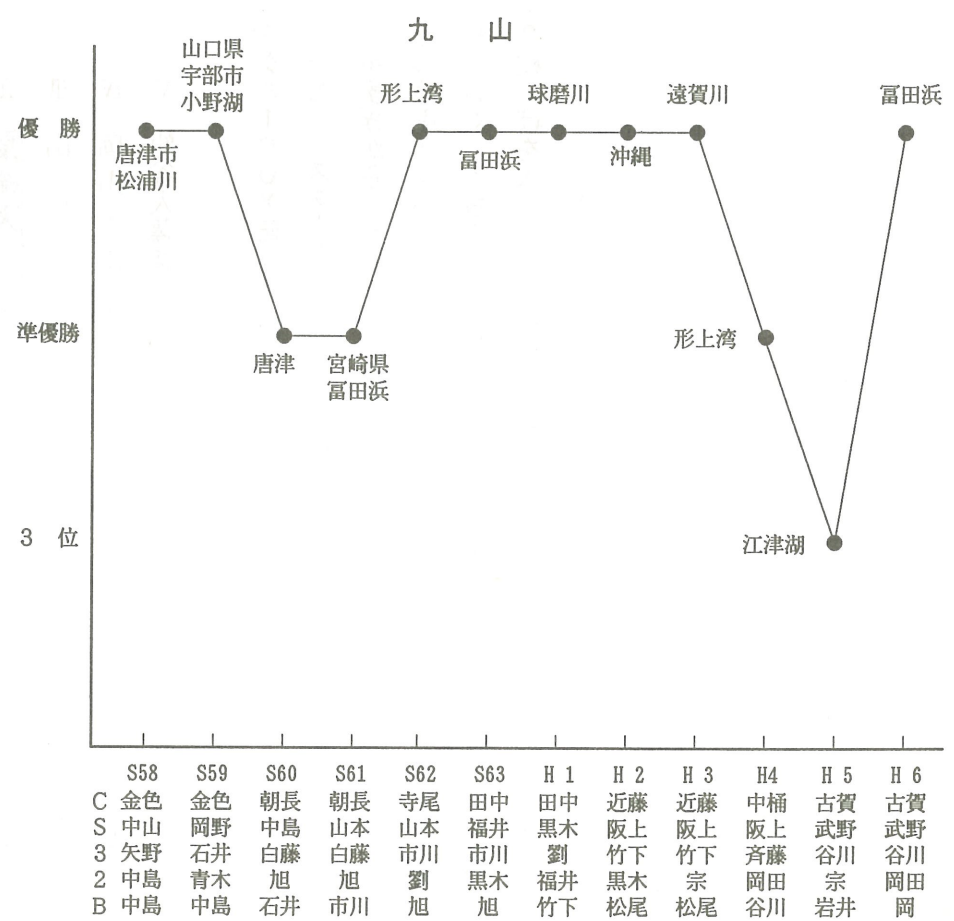
CクルーCOX記 (福田)

〈予選〉 スタート出られず。300mで産医レーン侵害。500mで1艇身半、700mで2艇身つけられるがその後は開かずそのままゴール。ローイングと直後のコンスタントが良かった。

〈決勝〉 スタートで半艇身出る。300mの段階ですでに差は2艇身。500mで足蹴り7本、効果あり。ところが850m、崎陽にせまられ半艇身の所まで詰め寄せられたが何とか逃げ切り。優勝。

DクルーCOX記 (大石)

本来はコックスである吉岡が漕手をやっていたが、予選では重量級コックス森谷の乗る霧島を抜いてトップゴール。決勝では優勝を狙っていたが普賢に大差をつけられて二位だった。しかし自分は初めてのメダルを手にして満足のいく試合となった。



平成6年 朝日レガッタ

試合日：平成6年5月1～4日

場所：滋賀県琵琶湖

種目：〈一般男子〉 8+ (52クルー) 4+ (74クルー)
 2× (27クルー) 1× (65クルー)

クルー

・Aクルー (雄図)

C古賀 (洋) (5年)

S武野 (5年)

3谷川 (4年)

2岡田 (和) (4年)

B岡 (4年)

結果

準々決勝 (2次予選) 敗退

タイム

一般男子 4+

〈予選〉

I	宮崎医科大「フェニックス」	5	4分04秒80
II	長崎大医 雄図	①	3分33秒46
III	滋賀医科大「暁会」	4	4分04秒29
IV	京阪電鉄	②	3分38秒30

V	佐賀大「夕夙」	③	3分55秒99
VI	京都大芝蘭会	6	4分05秒15

〈準々決勝〉

1	勢多飛翔会	5	3分41秒94
II	長崎大医 雄図	3	3分25秒24
III	山口大	①	3分19秒63
IV	岡山大医「天啓」	②	3分25秒00
V	龍谷大藤紫会	4	3分55秒38

AクルーCOX記 (古賀)

〈予選〉 スタートバタつき京阪電鉄に半艇身でられる。残りは一線。300mすぎから、うちと京阪電鉄が抜け出て一騎うちになる。その差キャンパスほど。500mあたりで追いつき、その後少しづつはなれていく。うちの漕ぎは最悪に近かったがどこも悪かったみたいで、2枚上げを入れたもののはいらず。相手がおちていたので結果として差がひらいた。1位でゴール。

朝日レガッタ初出場記

5年 武野 正義

最初に、試合で使用する艇を快く無料で貸していただいた「桑野造船」様、忙しい中を試合の応援に駆けつけていただいたOBと父兄の方々、初出場にもかかわらず厳しい予算の中から今回の遠征費の全額を出していただいたOB会の先生方に心から感謝するものである。

私達が、毎年連休中に滋賀県立琵琶湖漕艇場で行われる朝日レガッタに出場しようとしたのはH5年の11月であった。9月に新クルーを組み、10月17日の九州学生レガッタに優勝したものの、夏の西医体までの行程を考えると試合経験の少なさは不安であった。昨年までは、九山直後で日程が合わない、琵琶湖の試合なので遠征費が高額になる等の理由で朝日レガッタに参加していなかったが、なるべく多く試合に出たいという気持ちで出場することにした。

日本三大レガッタに数えられる朝日レガッタ（他は全日本選手権と国体）は有力な事業団も参加するレベルの高い試合である。今年も舵手付フォア74クルー、全体でも約550クルー1800名参加する大きなレガッタとなった。自分達の実力がどれくらいのものかを知る良い舞台であるばかりか、西医体で対戦するであろう医学部のクルーも参加しており、その実力を知る絶好の機会となった。

さて、試合の前日に琵琶湖に着いて驚いた。これでレースができる

のかと思う程のラフコンディションである。さっそく乗艇したが思い通りに漕げるものではなかった。

試合当日、予選11番目が我々「雄図」クルーの初戦である。「雄図」はIIレーン。IVレーンにはS63年度優勝の「京阪電鉄」がいる。スタートこそ「京阪電鉄」に出られたが、徐々に近づきゴールでは一艇身半をつけ予選一位であった。しかし、やはりコンディションが悪く良い漕ぎができなかった。「これでは、次の試合（準々決勝）では勝てないぞ。コンディションが悪い時こそいい漕ぎをしろ。」コックスの檄が飛ぶ。

2日目。この日は試合がない。朝と夕方に乗艇して瀬田川沿いに練習をした。同じシエルフォアの関西電力（今大会の優勝クルー）やエイトの早稲田やNTT東京（今大会の優勝クルー）の練習を真近に見て、そのユニフォームやストロークの強さに目の覚める思いがした。

3日目、いよいよ準々決勝である。「雄図」はIIレーン。隣りのIIIレーンには予選最高タイムを出している「山口大（今大会決勝2位）」、IVレーンには「岡山大医」がいる。5艇中2艇が準決勝に進める。1位であるのを目標にするのはもちろんだが同じ医学部の「岡山大医」には負けたくない。しかし、昨日に増しての悪コンディションに思い通りに艇が走らない。山口大には2艇身つけられ、岡山大医には後半に1度並びかけたが、そのままの差でゴール。24秒差で準決にすすめなかった。3分25秒24というタイムは、充分に準決勝に進めるものだったのだが。9月以来の連勝がストップしたことになった。目標であった決勝進出のずいぶん手前で負けて悔しい思いをしたが、自分たちの欠点や弱点が分かったし他の実力あるクルーの漕ぎを近く

で見ることができた。得られたものは多かった。

4日目。フォア、エイトの決勝を観戦した。それぞれの種目で優勝したクルーと2、3位のクルーが並んでウイニングローをしていた。観衆の拍手がなり止まない。すごくかっこよかった。

来年以降は毎年(少なくとも2年に1度)、朝日レガッタに参加することを後輩諸君にすすめる。今回残念だったのは1団体につき1クルーという主催側からの規定によりAクルーしか参加できなかったことである。(しかし、他の大学は団体名を少し違えて2クルー以上参加していた。)時間と費用を何とか都合して、是非とひBクルー以下のクルーも参加すると良いと思う。

今回、朝日レガッタに参加した部員。

古賀(洋)・武野・谷川・岡田(和)・岡(以上Aクルー)
福田(頭)古賀(聖)・宮崎

(追記)

我々が宿泊した「月乃家」の事を書けなかったのが残念である。この怪しくも不思議な旅館については遠征にいった8人に直接聞くように。

また、試合前に朝日新聞から取材を受けたのだが、あのセナ事故死で全国版に載らなかった。結局、長崎の地方版にかっこよく載っていた。

平成6年 九州朝日レガッタ

試合日：平成6年5月21・22日

場所：福岡県遠賀川

種目：(一般男子) 4+(31クルー) 2×(4クルー)

1×(4クルー) KF(18クルー)

クルー

・Aクルー(雄図)

C古賀(洋) (5年)

S武野 (5年)

3谷川 (4年)

2岡田(和) (4年)

B岡 (4年)

・Dクルー(崎陽)

C大石 (3年)

S牟田口 (4年)

3古賀(聖) (3年)

2山崎 (3年)

B関 (5年)

・Eクルー(霧島)

C福田(義) (3年)

S崎元 (3年)

3蓬莢 (1年)

2及川 (1年)

B渋谷 (1年)

・Fクルー(ザビエル)

C福田(頭) (5年)

S土井 (1年)

3松永 (1年)

2森 (1年)

B尾石 (1年)

・1×

杉浦 (5年)

この試合は2解剖の再試日と重複したため、2年生は全員不参加、従ってA以外は全て急造クルーでの参加となりました。また、経費節約のため今回は全クルー借艇で出場しましたが、使用艇が旧型デルタ規格艇で2点式リガー、クラッチの高さやスパン等各種データも異なり更に艇重量も重いためかなり漕ぎにくいものでした(Aクルーはオールのピポットを移動させて乗艇)。自艇参加の方が、いい成績を残せるだろうとは思いますが。尚、借艇料は4+一艇が2万、1×一艇が1万の計3万円で自艇参加(艇運送費)に比べて25万ほどの節約となりました。

結果

〈4+〉Aクルー……決勝3位

〈KF〉Dクルー……決勝3位 Eクルー……準決勝進出

Fクルー……予選敗退

〈1×〉杉浦……準優勝

タイム

一般男子4+

〈予選〉

I	山口大「橙紺会」	①	3分19秒36
II	熊本大「冬麗」	3	3分42秒80
III	長崎大(医)「雄図」	②	3分29秒11
IV	長崎大「西海」	4	3分49秒36
V	安川電機「COYJARY」	5	3分50秒39

〈準決勝〉

I	長崎大「西海」	4	3分48秒73
II	長崎大(医)「雄図」	①	3分35秒32
III	三菱化成 黒崎	②	3分35秒50
IV	熊本学園大「飛翔」	3	3分37秒33
V	熊本工業大「はやて」	6	3分52秒33
VI	九州工業大「レイクスター」	5	3分49秒70
I	福岡教育大「常勝」	6	4分15秒26

一般KF (500mレース)

〈予選〉

I	三菱マテリアルB	4	2分37秒12
II	長崎大(医)「霧島」	3	2分29秒23
III	熊本大(医)「龍南」	②	2分16秒23
IV	産業医科大「瑞穂」	①	2分04秒91
I	三菱マテリアルA	②	1分58秒65

II 大分大 3 2分02秒80

III 熊本大(医) [Proteus] ① 1分56秒70

IV 長崎大(医) [ザビエル] 5 2分30秒29

V 産業医科大OB会 4 2分08秒33

I 長崎大「疾風」 4 2分15秒18

II 唐津市役所A 3 2分11秒77

III 新菱ケミカルA ② 2分05秒13

IV 長崎大(医) 崎陽 ① 1分57秒68

〈敗復〉

I 産業医科大OB会 ① 2分09秒47

II 唐津市役所A 4 2分19秒29

III 長崎大(医) 霧島 ② 2分17秒44

IV 長崎大「水輝」 5 2分37秒30

V 長崎大(医) [ザビエル] 3 2分18秒43

〈準決勝〉

I 新菱ケミカルB 4 2分17秒94

II 長崎大(医) 崎陽 ② 2分03秒85

III 唐津市役所B ① 2分01秒29

IV 長崎大(医) 霧島 3 2分16秒15

〈決勝〉
I 三菱マテリアルA 4 2分20秒20

II 新菱ケミカルA 6 2分27秒91

III 長崎大(医) 崎陽 3 2分12秒62

IV 熊本大(医) [Proteus] 1 2分09秒22

V 唐津市役所B 2 2分10秒88

VI 博多ローイングクラブ 5 2分20秒69

一般男子1×

〈決勝〉

1 松永(福岡教育大) 1 4分01秒30

II 一瀬(産業医科大) 4 5分08秒46

III 杉浦(長崎大(医)) 2 4分12秒86

IV 小高(三菱化成 黒崎) 3 4分13秒92

AクルーCOX記(古賀)

〈予選〉 作戦としては先行逃げきりということになった。つまりrate

を35〜36に上げて最初からとばしていこうことであった。

スタート・ローイングばたつき山口大とキャンパス差の2位。

300〜450mくらいで足げり10本そこで約1艇身。

コンスタントはずっとばたついた。500mくらいで少し熊本大にせまら

れた。約700mで2枚上げいれるもさほど入らず。

山口大とはそのとき約1.5艇身、熊大とは1艇身くらい。

そのままゴールへ。山口大と2艇身くらい、2位。

漕ぎがばたつきすぎた。山口大を意識しすぎたみたい。

〈準決勝〉 スタート・ローイングは予選より決まりhalf-campusくらい出る。しかしコンスタントは相変わらずよろしくない。50mくらいまで三菱、飛翔とほぼならんでいった。500〜600mで少し飛翔との差が縮まってきたので650mで2枚上げを入れる。まあまあはいつて、飛翔とはまた徐々にひらいて半艇身くらい、三菱とはほぼならんだ状態。

余裕があればながすつもりだったが、最後まで気がぬけなかったの90mくらいでスパートしもう2枚上げを入れる。

あまりよくはいらなかったが何とか追いつかれず、三菱とほぼならんでゴール。1位。あぶなかった!!

〈決勝〉 スタート・ローイングは今までで1ばんよく、キャンパスほど出てトップ。

しかし、300〜500mのコンスタントが乱れて除々に山口大、熊大医、三菱に差を縮められ550mあたりで4艇がほぼ一線上。破天荒とは約キヤンパス〜半艇身差。

650mあたりで山口大と1艇身、熊大医と半艇身差で3位。つづいてキヤンパス差ほどで三菱。

そこで早めの2枚上げを入れる。

2枚上げでいい漕ぎが少しできて除々に熊大医との差が縮まり80mくらいでキャンパス差くらいまで縮める(山口大とはさほど縮まらず)。

しかし最後まで一歩のびず、そのままゴール。3位。おしかった。

DクルーCOX記(大石)

二年生が試験で参加できなくなり急造クルーで臨む。練習は2・3回しかできなかったが調子は非常に良かった。予選、準決と余裕をもって通過。そしていよいよ決勝。スタート前、風が強くなかなか定位につけられない。何度もやり直し、つけたときには20分近く経っていただろう。他の艇を待たせたこと、漕手に無駄な体力を使わせたことに関して精神的にまいってしまった。結局試合はスタートからバラバラで最後まで集中できず3位。充分優勝を狙えるレースだっただけに残念でならない。さらに次のレースが始まったことに気づかず艇をレーンから外すのが遅れ審判艇に叱られてしまった。強風時、悪天候時の操舵法、適切な指示を身につける必要があると痛感した。自分の未熟さが露呈した結果となった。

EクルーCOX記(福田)

〈予選〉 スタートは入れず、7本で徐々に上げる方針で行く。IVレーンがトップで、IIIレーンに半艇身ほど出られた状態であったが上げてきていい感じ。150mで3番切れこみ大きく差をつけられるが立て直し。300mで少しピッチを上げ蹴りも上がりはじめたところ350mでマテリアルが切れ込ます。最後はIIIレーンに2艇身つけられたがマテリアルには1艇身つけたままゴールイン。上々。

〈敗復〉 200mの段階でII・III・Vレーンが横並び。だが少し差をつけられた状態。300mでIIレーンを抜きVレーンにせまる。400mを過ぎた所でVレーン切れこむ。「いけるー!」と思った瞬間BOW切れ込み。しかしここで気を抜けば勝てる試合も勝てぬ。根性でゴールイン。負

けたと思った…。

〈準決〉 スタートでⅢレーン市役所出る。半艇身差で崎陽。我々は崎陽に遅れること2艇身、だがケミカルにはハナ差で喰らいつき徐々に蹴りも上がってくる。350mでケミカルに並ぶ。競り合うままゴールまでもつれ込み。最後は辛くもキャンバス差で逃げ切った。このメンバーでは4回ほどしか乗艇してないにもかかわらずみんなよくやってくれた。とくに蓬菜はサイドチェンジしたばかりにもかかわらず進歩してくれた。新聞にも載ったし…。

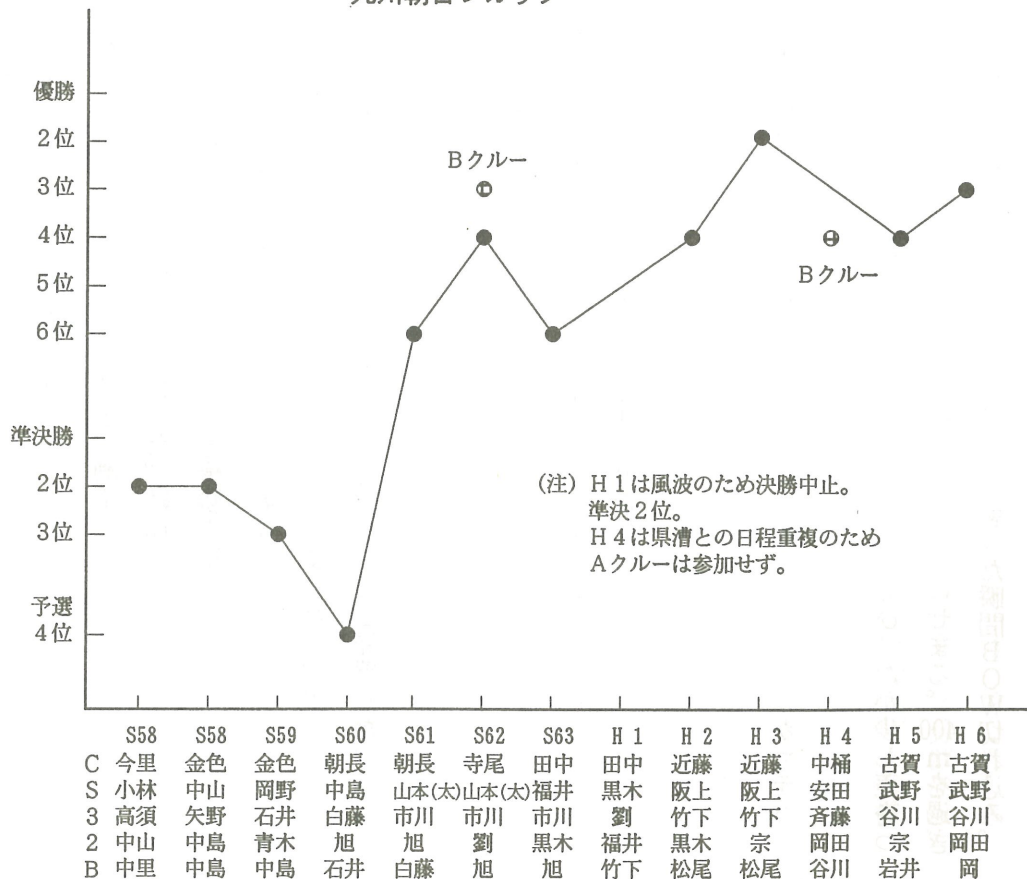
FクルーCOX記(福田顕三)

2年生が出場できないということで、急造クルーを構成、1時間ほど練習したのが全てだった。整調などは自信ありげだったが、定石通り予選は落ちた。しかし敗復では、1艇食った上に、準決進出をかけて激しい同士討ちを繰り広げた。シートを外すタイミングの差で敗れたものの、みんな中洲ではよく頑張った。

シングルスカル(杉浦)

4杯レースでした。スタート5本、ローイング10本、コンスタントというスタートを行い、500mぐらいで足げり5本、スパートは750mからでした。800mぐらいまで3位でしたが、最後のスパートで抜けました。

九州朝日レガッタ



平成6年 県漕

試合日……平成6年6月5日

場所……長崎県形上湾

種目……〈成年男子〉 4+ (12クルー) 2× (2クルー)

1× (6クルー)

クルー

・Aクルー (雄図)

C古賀 (洋) (5年)

S武野 (5年)

3谷川 (4年)

2岡田 (和) (4年)

B岡 (4年)

・Bクルー (無双)

C大石 (3年)

S牟田口 (4年)

3宮崎 (2年)

2山本 (2年)

B古賀 (聖) (3年)

・Cクルー (普賢)

C吉岡 (2年)

S山崎 (3年)

3丸山 (2年)

2崎元 (3年)

B関 (5年)

・Dクルー (崎陽)

C福田 (義) (3年)

S鶴瀬 (2年)

3牧野 (2年)

2及川 (1年)

B渋谷 (1年)

・Eクルー (霧島)

C程野 (2年)

S吉野 (2年)

・1×

杉浦 (5年)

森谷 (2年)

- 3 高橋 (2年)
- 2 尾石 (1年)
- B 蓬菜 (1年)

結果

〈4+〉Aクルー…優勝 (国体出場権獲得)

Bクルー…準決勝進出

C、D、Eクルー…予選敗退

〈1×〉杉浦…決勝3位 森谷…決勝4位

タイム

成年男子4+

〈予選〉

順位	クルー	所属	タイム
I	長崎大 (医)	無双	① 4分25秒38
II	佐世保高専「風神」		② 4分26秒81
III	長崎大「堂風」		3 4分35秒07
IV	長崎大 (医)	霧島	4 5分34秒58
I	長崎大「西海」		① 4分13秒18
II	長崎大 (医)	雄図	② 4分17秒08
III	園漕会		棄権
IV	長崎大 (医)	崎陽	3 4分43秒25
I	長崎大 (医)	普賢	3

II	玖 城 会	②	記録なし
III	長 崎 大「破天荒」	①	
IV	佐世保高専「雷神」	4	

〈準決勝〉

I	長 崎 大(医)「雄図」	②	4分12秒91
II	長 崎 大(医)「無双」	3	4分18秒81
III	長 崎 大「破天荒」	①	4分08秒05

〈決勝〉

I	玖 城 会	3	4分10秒19
II	長 崎 大「破天荒」	2	4分02秒83
III	長 崎 大(医)「雄図」	☆1	3分58秒98
IV	佐世保高専「風神」	4	4分20秒54

成年男子1×

〈決勝〉

I	森谷(長崎大)(医)	4	6分04秒81
II	松永(玖城会)	1	4分44秒01
III	杉浦(長崎大)(医)	3	4分58秒51
IV	山本(園漕会)	2	4分49秒35

AクルーCOX記(古賀)

〈予選〉 決勝まで1日3回こぐことになるのでできるだけ力を温存しようということにした。300mまではいつものとおり、半艇身くらいでトップ。

崎陽のようすをみながら除々におとす。rateは50mで28。

そのままのrateでゴールへ。700mくらいで西海にでられたがそれは作戦上問題なし。かなり楽ができた。

〈準決勝〉 組み合わせがわるい、がこれも予選同様できるだけながそうとした。

展開は予選と似たようなものになった。スタート、ローイングでキャンバスほど出てトップ、500mくらいで無双と1艇身差。その様子を見ながら除々におとす。rate 28。650mくらいで破天荒に出られるも余裕がある。28のままゴールへ。少し疲れたかな?

〈決勝〉

スタート1本目いきなり整調がきれこむ。それで出遅れ、ローイング20本おわるぐらいに破天荒に半艇身くらい出られて2位。玖城会と並ぶ。

コンスタントに入り少しい漕ぎになる。300mくらいで足げり、450mでもう1回。とくに2回目の足げりはよくはいり、このへんで破天荒とならんで500mくらいでキャンバスほど出てトップに。玖城会とはコンスタントでひきはなした。650mくらいで早めの2枚上げ。このときrate 36、2枚上げのつもりが2枚下げになるも蹴りはかえって上がり除々に後続をひきはなし850mくらいで最後のスパート。あまりはいらなかったが、また少し水をあげ、ゴールで1艇身ほど破天

荒に差をつけトップ。よかった。途中350m、600mくらいで大きくまがりIIレーンにはいつてしまい危うく破天荒とぶつかりそうになった。大変申し訳ない。

BクルーCOX記 (大石)

予選トップゴール。準決は雄図、無双、破天荒の組み合わせで2艇が決勝へ進出できる。非常に厳しいレースだが、雄図、破天荒にできるだけせまれる様、決勝のつもりで全力を尽くす。レース後半破天荒の伸びは恐ろしく力の差を見せつけられた。しかし目立ったミスもなく良い漕ぎが出来たと思う。

CクルーCOX記 (吉岡)

〈予選〉

3位となった。全学破天荒はさておき、玖城会は食うつもりだった。しかし、スタートの遅れと中盤が痛かった。ラストはすばらしい伸びを見せたのである。しかし追いつくことが出来なかった。ある意味、スタートのタイミングが遅かったのが敗因であるかもしれない。

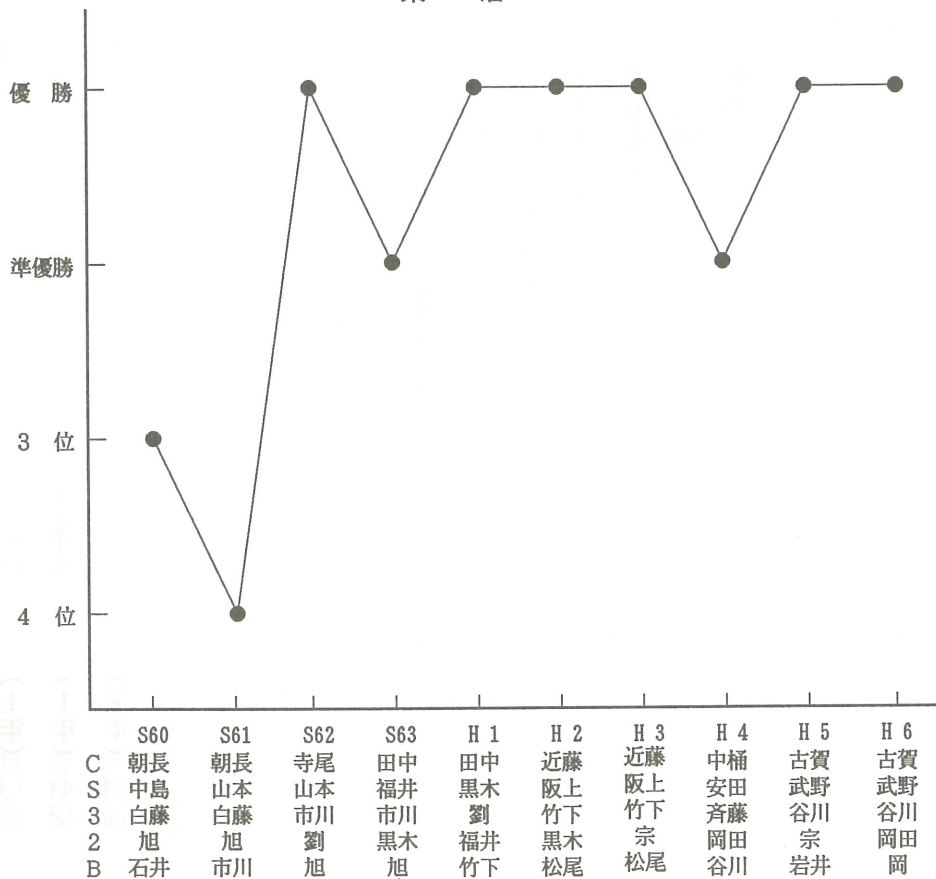
DクルーCOX記 (福田義文)

「最低5分は切ろう」とハッパをかける。スタート直後、ピッチ27.8 100mでやや蛇行。400mでピッチ26.5、この段階ですでに他艇ははるかかなた。500mから特に蹴りが合ったが、700mで2番切れ込む。すぐ立て直してラストは100m、ピッチ27.5。大差をつけられてゴールは残念だったが目標の5分は大きく切った。

シングルスカル (杉浦)

スタートで思いきり切れこんでしまい、ここで50mぐらい離され、そのままじりじりと差を広げられ、3位でした。(4杯中)

県 漕



平成6年 西日本医科学生体育大会

試合日……平成6年8月6・7日

場 所……大阪府浜寺

種 目……4 + (36クルー) 1 × (14クルー) KF (31クルー)

クルー

・Aクルー (雄図)

C古賀 (洋) (5年)

S武野 (5年)

3谷川 (4年)

2岡田 (和) (4年)

B岡 (4年)

・Bクルー (無双)

C大石 (3年)

S牟田口 (4年)

3宮崎 (2年)

2山本 (2年)

B古賀 (聖) (3年)

・Cクルー (普賢)

C吉岡 (2年)

S山崎 (3年)

3岡田 (潤) (2年)

2崎元 (3年)

B関 (5年)

・Dクルー (崎陽)

C程野 (2年)

S鶴瀬 (2年)

3渋谷 (1年)

2及川 (1年)

B牧野 (2年)

・Eクルー (霧島)

C福田 (義) (3年)

S土井 (1年)

・Fクルー (ポンペ)

C福田 (顕) (5年)

S高橋 (2年)

・1 ×

杉浦 (5年)

結 果

〈4 +〉 Aクルー……優勝 B、Cクルー……予選敗退

〈KF〉 Dクルー……準決勝進出 E、Fクルー……予選敗退

〈1 ×〉 杉浦……準決勝進出

尚、長崎大は4 + 部門では優勝しましたが、総合優勝は滋賀医大のものとなりました。4 + で3位、KFで2, 3, 4位, 1 × で1, 4位となった滋賀医大は総合得点で長崎大と同点、ここで西医体規約第21条「なお同点の時は①1位の競技の多い校②2位競技の多い方、以下順を追って総合優勝とする」に従い総合優勝は滋賀医大、といういきさつです。メインである4 + 優勝が総合優勝につながるというケースは前年の熊本大を思いだすまでもなく割とよくあるようで、得点配分見直しも含めてキャプテン会議が開かれました。

(決定事項は別稿掲載)

タイム

4 +

〈一次予選〉

I 和歌山医科大「風神」

5 3分49秒34

II	長崎大「普賢」	除外
III	大阪大「TITAN」	③ 3分35秒39
IV	浜松医科大「湍」	4 3分27秒12
V	熊本大「蒼閃」	② 3分32秒19
VI	宮崎医科大「天照」	① 3分30秒57
I	福岡大「早良」	棄権
II	岡山大「竜馬」	5 3分44秒06
III	長崎大「無双」	4 3分43秒05
IV	京都大A	① 3分37秒72
V	大阪大「SIRIUS」	② 3分37秒91
VI	佐賀医科大「浮立」	③ 3分39秒93
I	鳥取大「SPIRITS」	4 3分42秒84
II	佐賀医科大「葉隠」	② 3分41秒02
III	長崎大「雄図」	① 3分38秒91
IV	熊本大「韋駄天」	③ 3分42秒38
V	大阪大「ORION」	5 3分51秒79
VI	福岡大「玄海」	棄権
〈二次敗復〉		
I	大阪大「ORION」	② 3分35秒39
II	岡山大「竜馬」	4 3分37秒84
III	京都府立医大	① 3分31秒15

IV	長崎大「無双」	3 3分37秒14
V	和歌山医科大「風神」	5 3分51秒40
I	長崎大「普賢」	3 3分51秒99
II	産業医科大「ひびき」	① 3分48秒49
III	産業医科大「瑞穂」	5 4分02秒75
IV	浜松医科大「洗洋」	② 3分49秒00
V	金沢大A	4 3分59秒53
〈二次予選〉		
I	長崎大「雄図」	① 3分35秒66
II	鳥取大「PEGASUS」	② 3分38秒40
III	岡山大「天啓」	3 3分38秒74
IV	熊本大「蒼閃」	4 3分46秒15
V	岡山大「迅雷」	6 3分57秒21
VI	広島大「La Carpe」	5 3分56秒26
〈準決勝〉		
I	熊本大「蒼閃」	4 3分30秒53
II	熊本大「蒼風」	① 3分27秒82
III	長崎大「雄図」	② 3分28秒30
IV	滋賀医科大「湖神」	③ 3分28秒96
V	京都府立医大	5 3分36秒53
VI	大阪大「TITAN」	6 3分43秒75

〈決勝〉

I	岡山 大「天啓」	2	3分30秒01
II	長崎 大「雄図」	◎1	3分28秒92
III	宮崎 医科大「天照」	5	3分36秒81
IV	鳥取 大「PEGASUS」	6	3分37秒52
V	滋賀 医科大「湖神」	3	3分33秒50
VI	熊本 大「蒼風」	4	3分35秒30

K F

〈二次予選〉

I	香川 医科大 A	5	4分34秒66
II	大阪 大「CANOPUS」	◎2	4分24秒65
III	熊本 大「神俵」	◎1	4分08秒74
IV	長崎 大「ボンベ」	4	4分28秒74
V	滋賀 医科大 F	◎3	4分26秒00
I	滋賀 医科大 E	◎1	4分21秒26
II	広島 大「出汐」	◎5	4分53秒61
III	香川 医科大 B	◎2	4分27秒96
IV	長崎 大「霧島」	4	4分32秒44
V	大阪 大「太陽」	◎3	4分29秒65
I	長崎 大「崎陽」		4分22秒48

〈二次敗復〉

II	熊本 大「Proteus」	◎2	4分20秒18
III	浜松 医科大	◎3	4分20秒47
IV	滋賀 医科大 B	◎1	4分11秒87
V	福岡 大「七隈」		棄権

〈二次予選〉

I	香川 医科大 B	6	4分16秒19
II	熊本 大「Proteus」	4	4分07秒22
III	熊本 大「神俵」	◎2	3分59秒18
IV	宮崎 医科大「日向」	◎1	3分57秒26
V	滋賀 医科大 F	5	4分11秒88
VI	長崎 大「崎陽」	◎3	4分02秒23
I	長崎 大「ボンベ」	5	4分26秒92
II	佐賀 医科大「なべてる」	6	4分35秒79
III	滋賀 医科大 B	◎1	4分10秒09
IV	熊本 大「阿修羅」	◎3	4分20秒81
V	産業 医科大「巖流」	◎2	4分10秒19
VI	京都 大 Z	4	4分23秒52

〈準決勝〉

I 滋賀医科大D

③ 4分17秒70

II 鳥取大「オリンピア」

6 4分31秒66

III 熊本大「神俵」

① 4分16秒82

IV 長崎大「崎陽」

5 4分22秒56

V 滋賀医科大A

② 4分17秒23

VI 滋賀医科大C

4 4分20秒48

IX

〈予選〉

I 杉浦(長崎大)

3 3分50秒54

II 大峰(佐賀医科大)

4 3分57秒74

III 浅枝(鳥取大)

5 4分48秒23

IV 滝本(滋賀医科大)

① 3分45秒01

V 戎谷(岡山大)

② 3分48秒30

〈敗復〉

I 光田(鳥取大)

3 4分52秒08

II 杉浦(長崎大)

① 4分35秒36

III 清野(京都府立医大)

② 4分51秒90

IV 浅枝(鳥取大)

4 5分38秒26

〈準決勝〉

I 池田(滋賀医科大)

③ 4分05秒25

II 滝本(滋賀医科大)

① 4分01秒01

III 結城(京都市大)

② 4分03秒59

IV 北山(鳥取大)

5 4分21秒95

AクルーCOX記(古賀)

〈一次予選〉

スタート、ローイングはいまいち力強さに欠け、佐賀医・葉隠に出られる。1/2艇身。前半に徐々に差をひろげられ、500mあたりで1/4艇身ほど。他の3艇は漕手の視界に入っていたので様子を見ながら。佐賀は徐々に落ちてきて750mあたりでおいつき、そのままおいこし最後は1/4艇身くらいつけて1位あがり。まあまあ。

〈二次予選〉

スタート、ローイングきまり、スタートから出る。こで1/2艇身。コンスタントにはいつてからもリズムにのり、一定のペースでいく。200mと450mで足げり10本、とくに2回目の方がはいる。このとき鳥大Pegasus、岡大天啓と約1艇身差。650mあたりで2枚上げをいれるがはいらず、少し差をつめられて最後半艇身で1位。まあ順調。2枚上げ、スタートに少し難あり。

〈準決勝〉

スタート、ローイングで蒼風、湖神に半艇身ほどでられる。200mと450mあたりで足げり10本いれる。2回目の足げり決まるも3位どまり。800mあたりで湖神がおちてきて850mあたりで抜いて2位。850mあたりでスタート入れるも、あまりはいらず、蒼風と半艇身ほどの差で2位。ラストの2枚上げはいらないのが気がかり。

〈決勝〉 スタート、ロイニング、まあまあだが宮医・天照に半艇身ほどでられる。400mあたりまではだんご状態。500mあたりで足げり、2回目。600mあたりで雄図と天啓が出る。2枚上げはいまいちはいらなかったが、このあたりで1位。ラストのスパートを800mあたりでいれたがあまりrateがあがらない。天啓にせまられたが、逃げきって1位。湖神とは1艇身半ほどで1位。本当によかった。

BクルーCOX記 (大石)

いろいろなことがあって練習が思うように進まなかったが自分としては精いっぱいやったつもりで試合に臨んだ。しかし一次予選、敗復で終わり1日目で負けてしまった。Aクルーとの差はあまりにも大きく長大の二番艇と呼ぶには恥ずかしい結果だった。今回はAクルーは優勝したが、Bクルーがこの程度なら先は知れているといえるだろう。自分の甘さが招いた敗北だった。

CクルーCOX記 (吉岡)

〈一次予選〉 除外となりました。原因はC吉岡が砂袋を積み忘れた故です。これからCOXになる人に、もし減量するのなら、普段の乗艇練習の時にも砂袋を持つ習慣をつけることを推めます。それから大会には体重計を自分で持っていくことを推めます。

試合自体どうだったかという点、スタートでの遅れ、中盤、ラストでの蹴りがあっていなかったこともあり、3位内には入れませんでした。た。

〈一次敗復〉 スタートでのS・Bサイドの力のずれは、予選の時よ

りは少なかったが、中盤、ラストの伸びが今一だった。全体的に蹴りが正確にあっておらず、空回りしているように見えた。

このクルーは子々川レースを行った頃、蹴りが合い、バランスも良かった。その時の漕ぎと比べると今回の試合の漕ぎは全く力が出せていないように思えた。この事から、シーズン後半の調整がいかに大事か思い知ることとなった。シーズン後半の練習回数も少なさも敗因の一つだろう。もう一つ、スタ練の少なさにも問題がある、漕手の腰との兼合いもあるが、スタ練を十分にやっておかなかったことが悔やまれた。というのも今回の試合はかなりスタートでやられていたからだ。反省する点が多い、次の試合へのバネとしましょう。漕手の皆さんおつかれ様でした。

DクルーCOX記 (程野)

〈一次予選〉 浜医はくえる、できれば熊大もくって二位、と考えるがらスタート。まずまず。浜医にキャンバス勝って熊大にキャンバス負けたくらい、予想どおり。コンスタントでも差は変わらず。足げりを200mで五本、400mで10本、650mで五本入れるが、差は変わらず、結果三艇はほぼスタート時の差を保ったまま後半へ。750mで二枚上げ。三位はもらったと思った瞬間、2番が切れこみ、急に艇速がおちる。結局ラスト200mで浜医にさされ、四位。二、三位と2秒弱の差。非常に惜しい試合であった。最初の足げりが早すぎた感があり、反省。

〈一次敗復〉 抽選結果を見てびっくり。長大の三艇のみ。ま、確実に長大の二艇が二次予選に進めるわけだが、何か納得できない組み合わせだ。スタート後ロイニングでF(ボンペ)が半艇身で、E(霧島)

にキャンパス出た。足りりを40mと650mで10本ずつ。その後Fとじわじわ差が開き、Eと並走。何かがおかしい、ピッチもあがらず艇速ものびないと思っっているうちに750m。二枚上げ。Fと1.5艇身差、Eにもキャンパス負けている。もう目一杯上げさせて、叫びまくる。もう神にでも祈るような気持ちでゴール。自分ではEにキャンパス半分分けたと思ひ、目の前が真っ白になったが、放送を聞くとコンマ三秒勝っていた。とにかくも二次予選に進めてよかった。この試合に関しては特にミスロイニングもないのに過去最低の漕ぎだった。クルー全員反省しつつ一日目終了。

〈二次予選〉 各クルー心は一つで、"Proteusには勝つ"と気合いを入れた。一次予選でくやしい負け方をしたので、それを最大の目標にした。スタート、ロイニングでⅢ・Ⅳレーンはずでに半艇身以上リード。Ⅰ・Ⅴレーンを後ろに従えて、予想通り、Ⅱレーンと三位争い。コンスタントがいつになくすばらしい。途中足りりを五本×4入れたが、すべて効果的、Ⅱレーンをじわじわ引き離していく。750mで二枚上げ。すでにⅡレーンとは $\frac{1}{4}$ 艇身ほど差があり、逆に二位のⅢレーンとも同じくらいの差までつめよっていて、850mでラストスタート。そのまま三位でゴール。結果、Ⅱレーンには五秒も差をつけ、Ⅲレーンとも三秒差。各クルーが本来の実力を出し、自分もまっすぐ引け、又足りりも非常に効果的に入り、全てがうまくいき会心のレースをすることができた。これで目標の準決勝進出。

〈準決勝〉 順位は考えず、最後まで漕ぎきることのみ考えた。それでも各漕手充分力を出してくれ、結果6艇中五位。それでも三位と五秒弱、四位とも半艇身差。充分納得のいくレースができた。

今回の西医体は、特に三クルーは艇の不足で、十分に練習ができず、合宿中にも関わらずエルゴによる練習となることもあった。又我がDクルーにおいては、渋谷君のけがという二重のハンデを背負いながら又、一、二年のみのクルーでありながら、準決勝まで進出することができ、非常によくやったと思う。合宿中エルゴによるピークとなった時もだまってついてきてくれたクルーに感謝したい。今回は、クルー間の絆も深く、COXとして非常にヤリがいのあるクルーで、かつ結果をさせたのは非常にうれしかった。しかし、渋谷君の不調を見抜けなかったのは私のミスであり、クルー全員に対し、謝りたい。本来の力をフルに発揮すれば決勝には進めたはずだと確信している。だからそれだけが心残りだ。来年こそは決勝へ進みたい。

EクルーCOX記(福田義文)

〈一次予選〉 ロイニングで出られ、100mの段階ですでにⅢ・Ⅴレーンとキャンパス差をつけられた。450mで足蹴り、少し上がる。しかしその後差は縮まらず。整調のレンジに合わせて大きく長く漕いでゆこうという作戦だったがここは早めにピッチを上げるべきだと判断、ラストは700mから入れた。しかし体力はもはや極限状態、逆にバテてしまつて差が開きゴールイン。もう少し体力を温存した方が少しでもいい結果が出たのではないかと悔やまれる。午後はスタートから飛ばしてゆこう。

〈一次敗復〉 横を見れば崎陽、逆にはポンペ。大阪浜寺まで来て子々川レガッタ。

またもスタートで出遅れ。350mの足蹴り5本でようやく崎陽に追い

つくがしかしそのとき既にポンペがみるみる引き離れたあと、ポンペに1艇身つけられたまま進む。550mで再度足蹴り、常に崎陽と抜きつ抜かれつで、700mで一時先に出て、ここでオレは考えた。土井が長い感じで漕いでいるのでこのペースをくずさぬほうが良いと判断し、850mまでこのピッチでねばってラストは150mだけ思いっきりスパイトすることにした。実際820mまでは計算通り行きこのまま逃げ切るかと思ったが、ここで崎陽がどこに力が残っていたのかというような猛スパイト。あわててラストを入れるが遅かった。負けた！あと10mラストを早く入れてれば展開は変わっていたかもしれない。コックスは難しいぜ。勉強になった。途中でクルー替わったりもしたけどいろんなヤツと乗れたし。いいシーズンだった。

FクルーCOX記(福田顕三)

〈一次予選〉 ケガ人上がりぞろいでも練習期間は1ヶ月という状態でレースに臨んだ。コックスとしてやりたかったことは半分もできなかったが、クルーには無理を言って、なるだけ詰め込んだつもりではあった。にも関わらず、レース前日2番が切れ込んで体が半分艇から落ちたのを見たときは、爆笑しながらも暗いvisionが頭に浮かんできた。

レースは、スタートから3位をキープしていたが、シートを外し400m付近で後退。ここから足げりを入れ、3位に上がっていた滋賀医を猛追、追いつき追い抜いた。ところが、スパイトを入れる直前、800m付近でまたもシートを外してしまい、ずるずる後退。そして4位。落ちたはしたもののクルーの潜在能力を期待させるレースであった。

〈一次敗復〉 長大3艇が並べることとなった。負けたら悔しいよな、などと話ながらも、何となくリラックスマードが漂っていた。これが良かったのか、スタートから、キャッチが良く合い、艇速がグングンと伸びた。足げりもうまく入り、着実に他艇を引き離す。乱れることもないまま、トップでゴール。

COXが漕手だったころも含めて、最も充実感を得られた漕ぎだったように思う。チョッパーで漕いだこともあるのかもしれないが、何か神がかり的でさえあった。今年の夏はこのレースに集約される。

〈二次予選〉 前日のレースで満足してしまったこともあり、もう1つ集中力に欠けるレースとなった。4位の京大には食い下がったが、ラストは体力差で、振り切られた。

結果に関しては取り立てて良いものでもなかったが、満足できるレースが1回でもあったという意味では、1、2年生にとっては貴重な大会になったのではないかと思う。ボートには色々な楽しみ方があることを教えてくれた後輩達に感謝します。

シングルスカル(杉浦)

予選で落ち、敗復でまわって準決勝に望みました。準決勝では、スタートで艇がゆれ、他艇にでられて、そのままじりじりと離されてしまい、落ちました。(記憶がうすれて非常にいいかげんですが、がんばって下さい。)

昨シーズンの試合、練習を考えると、練習量としては一昨年よりかなり多くしたつもりでしたが、実戦的な練習(並べたりとか)をあまりしていないのがよくなかった様です。



スカルは自分より前の艇はみえませんが、スタート時に出遅れてしまうと致命的というのが試合に対する感想でした。

今後スカルを漕ぐ人についてアドバイスすると、

① ピッチ計をつける。

これは、一人で漕いでいると、ペースがほとんどわからないからです。

② 他のシエルフォアと500m、1000mを何度もならべる。

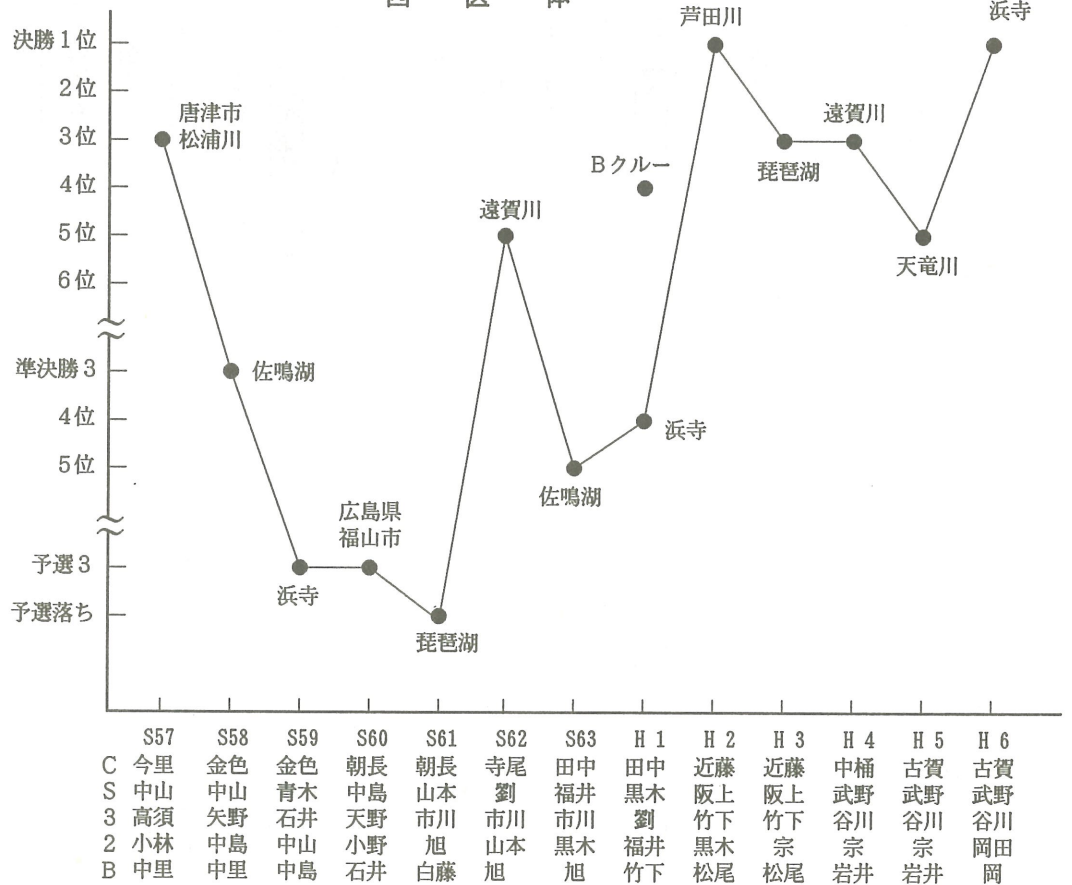
特に試合の3週間前からは何度もやった方がよい。

③ スタート練習はしつこく繰り返す。

でれる試合はとにかくでて、経験をつむ。

④ 以上の4点が特に大切だと思います。

西 医 体



平成6年 国民体育大会

試合日……平成6年10月22～25日

場所……愛知県愛知池

種目……〈成年男子〉 4+ (47クルー) 2× (22クルー)

1× (20クルー)

クルー

・長崎選抜

C 近藤 (形成)

S 武野 (5年)

3 谷川 (4年)

2 岡田 (和) (4年)

B 岡 (4年)

監督……古賀 (洋) (5年)

補 漕……福田 (顕) (5年)

国体は大学生のみのクルー参加は認められないため、古賀君には監督となってもらい、代わりに形成の近藤先輩 (平成6年卒) にCOXをお願いしての出場となりました。お忙しい中、子々川での乗艇練習までつき合っ下さった近藤先輩にこの場を借りて御礼申し上げます。尚、鳥取大医、宮医大もそれぞれの県代表として出場していました。

結果

一次予選突破 (クラブ初)

タイム

成人男子 4+

〈予選〉

I 中国電力・松江ローイングクラブ (島根県) ② 3分54秒39

II 関西電力 (福井県) ① 3分53秒96

III 長崎選抜 (長崎県) ③ 4分13秒11

IV 高知選抜 (高知県) 4 4分16秒17

〈敗復〉

I 和歌山漕艇クラブ (和歌山県) 4 4分21秒60

II 東北学院大学・仙台艇友会 (宮城県) ① 3分47秒05

III 香川RC (香川県) 3 3分53秒49

IV 長崎選抜 (長崎県) ② 3分51秒98

〈二次予選〉

I 長野選抜 (長野県) ② 3分32秒39

II 住友金属 鉄っ子 (茨城県) ① 3分30秒67

III 本田技研鈴鹿漕艇部 (三重県) 3 3分37秒01

IV 長崎選抜 (長崎県) 4 3分41秒21

国体出場記

5年 武野 正義

平成6年6月5日の県漕で優勝して、長崎代表として愛知国体への出場を決めた。隔年である地区大会は一年前だったので今回は県代表がそのまま国体へ出場できる。成年男子シエルフォアの参加クルーは47クルーである。一年前の東四国国体で予選組最下位だったこともあり今回の愛知国体は準決勝進出を目標にした。少し高めの目標だが、越えられないハードルではない。対校クルー全員の話し合いで決めたこの目標のため、インカレに出場せず西医体から12日後の8月20日から合宿に入った。

しかし、9月3日から始まるはずだった国体は延期となった。異常渇水により、レースが行われる愛知他が干上がってしまったからだ。試合期間は10月22日から決まった。

9月から岡を中心に新体制になっているので、国体クルーは独立した形で練習することとなった。週3回の乗艇と自主トレを含めた筋トレを行い、試合一週間前には近藤新二先生（H6年卒）にコックスしてもらって調整をした。

さて、いよいよ国体の一次予選である。4クルー中2位あたり。Iレーンの中国電力・松江ローイングクラブとIIレーンの関西電力は関西朝日レガッタでその実力は十分知っていた。組み合わせが悪いと思っ

たが自分達の実力も捨てたものではないはずと気をとりのおした。結果は惨敗。やはり全国レベルから見ただ自分達の実力は捨てたものだった。そしてこの試合は風が強くスタート前に体が冷えきっていたのも反省点だった。

一次敗復は翌日の10時20分。これで負ければ、これまでの長崎代表と同じだ。なんとしても勝ちたかった。IIIレーンの香川RCに勝たなくてはならないのは一次予選の結果から分かっていた。スタートから一艇身程リードして2位で後半へ。750mでじりじり追いつかれるが、近藤さんは全くあわてない。さすがは西医体優勝コックスである。香川の頭をおさえて2位でゴール。選手に無料で提供されるきしめんを急いで食いに行き、午後の二次予選に備えた。

二次予選。目標の準決勝へ進むには、ここで2位以内である。幸い最終組であり敗復の疲れは残っていない。どの組み合わせも厳しい。学生は数える程でほとんどが実業団である。もちろん勝ちに行くつもりだが、絶対に勝たなくてはという責任感はない。逆に、実業団相手にどれだけ食い下がるのか楽しみなくらいだ。一次予選の反省を活かしてユニホームの下にTシャツを着る。70分前に配艇があり、それまでと同じようにリギングを合わせる。さすがに3回目となるとリギングも早い。余裕をもって発艇した。30分程練習をしてスタートにつく。レース前半で他艇に一艇身半。ここからIレーンの長野選抜とIIレーンの住友金属鉄子にはじりじりと差をつけられた。IIIレーンの本田技研との差は変わらず、そのままゴール。4位だった。

二次予選を突破して準決勝に進むには、もう一段階上に行かないといけないと思った。タイムを見れば分かるが、10秒差はかなりの実力

差である。しかし5秒差にすれば手の届く範囲の実力差になる。二次予選組を全て見るとあと5秒速くなれば組によっては準決勝に行けるのだ。今までと違い、今回は国体に標準を合わせたのが、延期されたこともあって十分な練習を持続できなかったのが悔まれる。準決勝進出は夢ではない。今回の国体を終わっての感想である。

最後に、出発時見送ってくれた友人と浦上駅で横一列になって万歳してくれた後輩、ありがとう。また、漕艇協会の吉田さんには大変お世話になりました。そして試合会場へ応援に来て下さった村山晋先生、ありがとうございました。

平成6年 三校戦

試合日……平成6年11月13日

場 所……熊本県江津湖

種 目……対校4+ (3クルー) オープン4+ (6クルー)

クルー

- ・ Aクルー (雄図)
 - C 福田 (3年)
 - S 崎元 (3年)
 - 3 渋谷 (1年)
 - 2 山本 (2年)
 - B 吉野 (2年)
- ・ Bクルー (無双)
 - C 程野 (2年)
 - S 鶴瀬 (2年)
 - 3 牧野 (2年)
 - 2 蓬菜 (1年)
 - B 古賀 (3年)

・ Cクルー (普賢)

C 森 (1年)

S 牟田口 (4年)

3 松永 (1年)

2 尾石 (1年)

B 高橋 (2年)

・ Dクルー (崎陽)

C 大石 (3年)

S 及川 (1年)

3 山崎 (3年)

2 土井 (1年)

B 岡 (4年)

結果

〈対校4+〉Aクルー……3位
 〈オープン4+〉B, C, Dクルー……予選敗退

この試合は、新人教育のためクルーの強さが均等になるように編成しでの出場でした。案の定、完敗。幹部学年が背負ったリスクほどに下級生諸君が成長してくれたでしょうか。奮起を望みます。

タイム

対校4+

〈決勝〉

I 宮崎医科大「天照」 2 3分51秒38

II 長崎大「雄図」 3 3分54秒08

III 熊本大「蒼風」 1 3分44秒33

オープン4+

〈予選〉

I 長崎大「普賢」 3 4分20秒76

II 熊本大「蒼閃」

① 4分00秒48

III 長崎大「崎陽」

2 4分08秒00

I 宮崎医科大「不死鳥」

② 3分50秒46

II 長崎大「無双」

3 3分52秒69

III 熊本大「韋駄天」

① 3分49秒58

AクルーCOX記(福田)

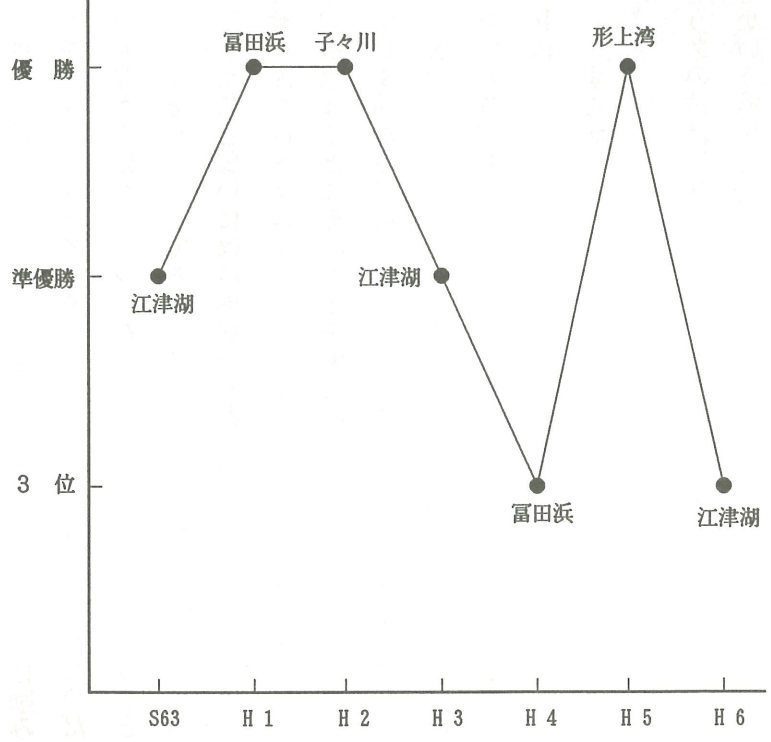
子々川レガッタ。優勝クルーが対校だということで、頑張れば頑張るほどキツくなるというジレンマだが、まあ、手を抜かずにはやろうとゲキを飛ばす。Iレース目では一時3位になり、このまま崎陽か、と思われたがなんとか逃げきり、IIレース目はラストぐんぐん伸び優勝。気がつきゃ雄図。

で、いざ本番。スタートでバウサイドに曲がって大きく蛇行、まあコンスタントに入っても落ちずにピッチ33を維持。熊大に半艇、宮医にキャンバス出られ、150mで足蹴り5本。200mで宮医シート外す。350mで足蹴り10本、宮医を半艇身まで引き離す。しかし若干飛びすぎたか。半艇身差だった1位熊大と500mで1艇身ついてしまう。蹴りが合わなくなってきた。600mで宮医に再び並ばれる。ここで足蹴りを3本だけいれたが伸びず、700mで宮医に出られてしまう。ラスト300m必死で漕ぐよう指示。しかし伸びない。800mで宮医にも半艇つけられる。もうとにかく上げるしかない。整調苦痛の形相、死にもの狂いでスパートをかけ、最後まで離さず喰らいつく。しかし差は開かずとも縮まらない。あと半艇身というところで宮医ゴールイン…。

DクルーCOX記(大石)

予選で2位となったが決勝には3艇しか出場できず、もう一組の予選の2位のクルーとジャンケンで決勝進出を賭けて戦う。我がクルーからは土井を代表として送り出す。激闘の末敗退。決勝の夢は破れた。かくして長大からは決勝進出を果たさず艇はでなかった。皆の満たされぬ思いを背負い「料理のケツ人」は始まった。

三校戦



〈卒業にあたって〉



立つチ○ポ跡を濁さず

6年 岩井敏郎

拜啓 厳寒の候、皆様におかれましては益々オナニーに励んでおられますこととお慶び申し上げます。

さて、私は前回の部誌におきましてやむを得ぬ事情により執筆活動を休止いたしておりましたが、その後多方面の方々から

「岩井君の原稿はどうしたんだ。彼の文章を読まないで明日への活力がわき出てこない。」

「岩井君の文章中毒なの。早く次の原稿を読まなきゃ禁断症状でイチャウー。」

などの御意見、御感想を多数いただき、私もうれしい悲鳴をあげているところでございます。改めて私の文が多数の読者に御愛読され、多大なる影響を与えていることを痛感し、責任の重さを感じており、まさに気のひきしまる思いなのでございます。

学生最後の部誌ということでどういうネタ、スタイルで臨もうかと思ひ6秒ほど悩みましたが、真面目な文章は私のイメージを損ねるのではやはり今まで通りのこのスタイルを貫き通しとうございます。

私は今心配事が一つある。それは現役部員のみんなが毎日ちゃんとオナニーをしているか、してるとしても怠惰なオナニーをくり返して

はいないかということである。

一昔前までは一日二回は熱く燃えたぎるようなオナニーに励み、ザーメン臭をプンプンさせている人達が部内にゴロゴロいたものだが、最近のみんなからはザーメン臭がトンとしない。なぜそんなことがわかるかって？それは知ってる人も多いと思うが私は一時期、匂い王として君臨したほど匂いには敏感なのである。

なぜみんなはオナニーをしなくなったのか実になげかわしいことであり、残念なこととそのことを裏付ける一つの証拠がある。それは、私はいぶ前からであるが、岩井流オナニー最究極秘奥義「超悦楽偽似SEXマシン・雛形まんこ1号」の作製に成功し、その普及に力を入れており、もうすでに何人かの者にはこの技を伝授したのであるが、私は

「あれ、すごかったっす。感激したっす。」
とか、

「もうあの技ははなせません。みんなにも伝授します。」

とかいう感想を期待していたのに、彼らからの反応がトンとない。これはまさに宝の持ちぐされ、猫に小判、馬の耳に念仏、治に女である。どうしてみんながこんないい物を使わないのか私は不思議でしようがない。みんなありきたりの上下ピストン運動で満足しているのか？なさけない。もっと向上心を持って。今の時代少しでも足踏みしているとすぐおいてけぼりをくらう。人生とはまさに水戸黄門の歌である。「泣くのが嫌ならさあ歩け」なのだ。私はというと将来きたるべき雛形あきことのまぐわりに備えて日夜技の研究に余念ないといった状況である。

とまあ少し説教じみてしまったがこれも後輩をかわいく思う気持ち余
ってのこと、ゆるしてください。

さてそろそろ私のオナニーの時間が近づいて来ました。この辺で終
わりにしとうございます。また機会がありましたら部誌の中でお会い
しましょう。それまで……あっ……うっ……

敬具



卒業にあたって

6年 宗 英 吾

来年必ず書きます。期待して下さい。



卒業にあたり

6年 中 桶 了 太

在学中に二回、優勝に立ち会うことができました。

最初は90年芦田川での優勝。

このとき自分は、学一でした。嬉しいというよりは、うらやましかっ
た。

理由は、自分が優勝したのではなかったから。

今度は自分で、勝ち取ってみたいと。

その後、対校のボックスを経験して、現役を退いてからの今回の優勝。

今回の優勝は、岸から見ていて本当にあつくなれました。

自分が試合に出ているときよりも興奮してしまいました。

泣けました。

これから、胸の熱くなるレースを見せて下さい。

現役部員全員のがんばりに乾杯！！



ゆ め

6年 藤 本 武 士

毎回できあがった部誌を読むたびに、個々の文章の多様性を実感す
るのであるが、前回(16号)の中に、私を少々感心させた文章があっ
た。そう、それは古賀洋安の「ジャンボにかける夢」であった。私が
この何に感心したかというと、それは、彼が無類のギャンブル好きで
あるということではなく(この事は恐らく皆んな知っている事であ
る)、宝くじをどうせ当たらないと考えるのではなく、必ず当たるも
のだと信じる、この発想である。

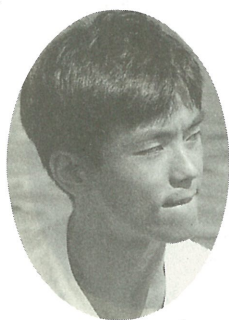
世に何らかの業績を残したり、偉業を成し遂げた人物の抱く発想も
また概ねこのようなものである。夢を抱き、それをきつと実現してみ
せると信じて疑わない、あきらめの悪い人物達である。

たった一日で「周期律表」をつくりあげたメンデレーエフも「私が

どのように発見したのかって？そう、私は三十年間、この仕事をしてきた。それなのに、どのように？と聞くんですね。」と答えている。ニュートンだって「あなたはどのようにして万有引力の法則を発見できたのですか」という質問に、「私はつねにそのことを考えていたから」と答えている。

世に名を馳せた作家、哲学者、科学者らが残した言葉の中にも、表現の仕方に多少の違いはあれ、このような内容の言葉が実に多い。有名になった歌手や女優達の多くも「自分は将来このようになると信じていた」と口を揃えて答えているのを時々耳にする。そんな時、私はそのように夢を持ち続け、努力を惜しまぬ人々との出会いにたまらない邂逅の喜びを感じてしまうのである。

ポト部もまた、そんな夢を追い続ける仲間達のクラブであり続けることを願って止まない。



ホクロ占い

6年 安田 恵多良

我々人間の運命は、姓名、生年月日、人相と密接な関わりがあり、ほぼそれらによって支配されているというのは周知の事実である。

例えば姓名において、特にその呼び名は子供の個性などさまざまな基礎ができあがる幼児期には耳から全身全霊に浸透していくことを考えると軽視することはできず、その刺激の強弱は靈動力の変化も伴う。

良い姓名といっても、「数霊」「陰陽」「音韻」などさまざまな要素があり、奥の深いものであるので詳しく知りたければ専門家を訪ねるのが良い。

生年月日にしても、所せん人は地球上の粒子であるので月や星のリズムに逆らえるはずもなく、無意識の中で支配されているのだが、これもまた難しい話で、素人には理解しかねる領域である。

そこで、日頃何かと忙しい人達でも簡単に習得でき、しかもよくあたると思われるホクロ占いというものを伝授したいと思う。

但しこれから記述するのは男子に限るものであり、女性の場合は参考にならないので注意してもらいたい。

「天庭」(額の中心部)にある人は母を剋して身を誤ることが多く、世間態はよくても内情ははなはだ悪い。

「印堂」(鼻筋線上で眉毛と目の間の高さ)にある人は論争を好むくせがあり、慎まないと刑罰を受け、身を亡ぼす。

「月角」(天庭の右斜め上)にある人は短命で一生不運がつきまとい、親を剋す。

「田宅」(左眉と左目の間)にある人は一時は財を築いてもついに破産して不幸な一生となる。

「肝角」(左目尻と耳の間)にある人は色情のため身を誤ることが多く、不義の女性関係で災厄を招く。

「準頭」(鼻の頭)にある人は一命にかかわる危難にあう。

「交友」(右眉の上1cm)にある人は、悪友はできても善友はできない。

他にもたくさんあるのだが、内容はほとんど「出世できない」とか

「餓死する」とか、「狂変する」とかそんなのばかりで、ろくな占いではないということがわかった。大体、ホクロの場所で人生が決まるなんて大笑いである。次の部誌にはもっとためになる話を書きたいと思う。

尚、松尾敏明先輩は国試対策でお忙しいようで、原稿を頂けませんでした。次回の寄稿を期待しております。



〈部員雑感〉

後輩の諸君へ

5年 古賀 洋 安

ポート部員として全うするにはどうしたらいいかということ誰でも1回は考えたことがあると思うが、その答の1つとして、いかにポートを楽しくこぐか考えるということがあると思う。

自分がそう努力したとは言い難いのでくどくどとは言わないが、そういうことを考えなければとてもやっつけられないと思うのではないだろうか。あまり先のことを考えすぎてもよくない。引退してからのことをあれこれ考えすぎると、1年が5年くらいに思えてきてまるでエンドレスのようだ。だからとりあえずは、目先のことを一つ一つこなしていけば、じきに終わりということになる。

とまあ、このように書いてみたが、引退してしまえばこのように何でも言ってしまうので諸君もぜひ最後まで全うしてほしい。特に最後の年に西医体で勝るとすごくいいぞ。

漕艇を離れて

5年 杉 浦 利 彦

「……第一の抽象の核は、それだけで一つの物語をなす。遠い昔、何の変哲もない、ひとりのふつうの男がいた。その男は、他のすべての人間と同様、精霊のひとつの通りみちだった。その伝でいけば、他の誰もと同様、彼もまた精霊の一部、抽象の一部だったわけだ。だが彼はそのことを知らなかった。世間での忙しきにとりまぎれるあまり、そのことを本当の意味で掘りさげるための時間も、そうしたいという気持ちももてなかったのだ。

精霊は男とのつながりを顕そうしたが、無駄だった。内なる声を使って、その秘密を明らかにしようとしたのだが、男はその顕示を理解することができなかった。

男を眠りから覚させるために、精霊は彼に三つのサインを、三つの連続した顕示を与えた。はっきりそれとわかるやり方で、物理的に男の前を横切ったりもしたんだ。それでも男は、自分自身のささいな関心事以外のことは、まるで何も気がつかなかった。」

(The power of silence: 真崎 義博訳)

人生を語らず

5年 関 徹

はたらけどはたらけど猶わが生活楽にならざりじっと手を見る

石川 啄 木

註) はたらく…:ボートを漕ぐの意

平成6年、現役最後の年

5年 武野 正義

ああ、俺達は勝ったんだ。左と右のレーンを見てそう思った。トップゴール。部歌に出てくる言葉が、本当になった。4年前、岸から応援しながら見た芦田川のトップゴールを目指し、努力し、耐えても、届かなかったものを勝ち取れた。いや、勝ち戻したのか。

勝利の喜びというより、今の今まで必死になって競り合っていた疲労感で目の前が白い。息が苦しい。岸から歓声と万歳三唱が聞こえる。仲間が飛び上がり、両手を挙げ、拍手をしている。抱き合っている奴もいる。うれしさがこみ上げてきた。ああ、俺達は本当に勝ったんだ。仲間があんなに喜んでいて。俺達はやったんだ。大きく息を吸い込ん

だ。片手を突き上げて吠えていた。

1年前、例年はクルーをばらして各クルーを均等にして練習するオフシーズンに、対校と2番艇を組んだ。少しでも長く同じクルーで練習してシーズンに入るためである。オフシーズンにあった学生レガッタや三校戦に勝てたのはこのためであろう。しかし、1年生や2年生と一緒に乗艇して技術を教えられなかったのは残念だった。三校戦が終わってから、クルーをばらすつもりだったが、自主トレ期間を置かねばならなかったのが悔やまれる。

1月、2月の練習は陸上トレーニングのみ。陸トレについては、シーズンオフに入ってからすぐにコーチのチームと数回話し合っていた。シーズンオフ中にやるべき事やそのための練習方法と回数、長期的展望。これらチームと決めたこと全てができたわけではない。しかし、その基本方針には沿っていたと思う。例えば、エルゴと筋トレの割合やエルゴでもスレシヨルドやエンデュランスの比率、筋トレでもヘビーとライトの定期的割合はうまくいったと思う。チームから教えてもらった新しい種目もよく理解して行えたのではないかと思う。(詳細は16号部誌の「陸トレのレポート」を)。この時期の練習は、9月に新しくできた部室に授業後4時30分に集合して始まる。始まって1時間程度外は薄暗くなる。それほど練習していないのに外の暗さにつられて、たっぷり練習した気になったりもする。それなのに学年が下の奴らが頑張っているものだから先輩がやらない訳にはいかない。ボート部にはやはり妙な意地の張り合いがあるのだろうか。冬の陸トレは全体練習が週4回だったが、対校と2番艇のクルーは別に2回練習した。徹

底的に基礎体力をつけるには週6回は最低必要だとチームに言われたからだ。この頃のイベントとして全国エルゴ大会に参加した。自分の体力がどれ程のものがよく分かるいいイベントだった。(参加した部員の記録は16号部誌に載っている。)また、熊本での飲み食いは最高だった。福田(頭)の実家ででの御馳走はみんな肝を抜かれたようだった。

3月。授業やテストのカリキュラムの変更で教養合宿がなくなった。従来通りでないということは予想以上に色々な問題がでてくる。1年生と再試のない学部生だけの練習。部として一体感が薄れていく気がした。

シーズンは4月に始まった。乗艇、陸トレ、週末合宿に加えて新入生の勧誘。あっと言う間だった。九山、関西朝日レガッタ、九州朝日レガッタ、県漕と試合が続く。どの試合も満足のいく結果を残せた。特に関西朝日レガッタはレベルは高く、西医体参加クルーの様子も知ることができて、その後の練習や目標設定にも役立ったと思う。

シーズンも折り返した頃は、残る試合は西医体のみ。乗艇練習も徐々にきつくなる。週末は合宿に入り、夕飯に浜勝へ行くのが日課だ。筋トレは月曜の夕方と水曜日の夕方。乗艇を合わせると週11回の練習になる。毎週木曜の朝の乗艇にはコーチのチームと補佐の安田先輩(今年度卒業生)が来てくれた。チームは安田先輩の運転するモーターボートの上からアドバイスをする。チームに教えてもらった事は漕手ごとに違っていたが、いつも言っていたのは、“Long range. Short catch!”(思ひ切り前へ、そして素早くキャッチ)や“Lay back”(フイニッシュ時に背中を倒せ)や“Hand's level”(フォワード中の

手の高さ)等だった。実に単純だ。でもそれが簡単にはできない。できないながらも、伴走しているモーターボートからずっと言われるとそこを意識する。その場でよくならなくても意識して漕いでいると徐々に良くなっていくものらしい。関西朝日レガッタの頃にひどいスランプになったことがある。キャッチの前のバランスがどうやっても悪い。その時チームはこうアドバイスしてくれた。無理にバランスをとろうとせず、フイニッシュから水面をブレードで擦ってその時のハンドレベルを確認した後、徐々に擦らないようブレードを高くしていき、フェザーをターンしたブレード(スクウェアの状態)の下縁が水面にあたるかあたらない位のハンドベルを見つめる。つまり、フォワード中にブレードが高いと艇のバランスはとれない。高いブレードを徐々に下げるのではなく逆に水面を擦る位にブレードを低くして、そこからちょうど良いブレードの高さを見つけて固定しようという発想だ。これが功を奏したのか、一ヶ月程して徐々にバランスはよくなっていった。チームは乗艇中のアドバイスにとどまらず、モーターボートから撮ったビデオをもとにチームの部屋でミーティングを開いてくれた。自分の漕ぎを直接見れる上に、ここがこう悪いとテレビの画面を指しながらチームが言ってくれる。このミーティングはとてためになった。しかも、チームが出してくれる博多蔵出しはうまかったなあ。

7月に入ると学部生と2年生は試験が始まる。毎年この時期に調子を崩すクルーが多い。漕力、体力を落さないように試験の日は夕方に練習して練習量を減らさないようにした。シーズンを通して言えることは、初めて対校に乗った岡と岡田(和)は週11回の練習に不平を言わず愚痴さえこぼさず、いつも積極的だったことだ。これには頭が下

がる思いだった。そう思っていたのは僕だけでなく谷川も同じだったようだ。合宿所の風呂で、試合に勝てるのはあの2人のおかげだと話した事がある。しかし、後から聞いた話しでは遠征試合が休みなく続いた九山と関西朝日レガッタの頃に岡は対校が嫌でしょうがなかったそうだ。それでもいつもと同じ積極的な岡だった。いつもヘラヘラしている岡は実は凄い奴なのだ。

台風の接近で予定通りとはいかなかった夏合宿。最後の夏合宿だった。異常渇水と観測史上最高気温が続いたあの夏の合宿は、とにかく暑かった。そして、浜寺へ。浜寺も暑かった。工場から出るスモッグでスタートからゴールがかすんで見えない様な漕艇場だ。

8月6日。西医体の一日目。一緒に練習してきた2番艇、3番艇が負けた。どうしたら2番艇、3番艇が強くなるのかをもっと考えてやるべきだったと後悔する。やはり、クルーのメンバーが何回も変わったからなのか。それとも練習量が足りなかったからなのか。しかしもう遅い。

8月7日。西医体2日目。決勝。この決勝のことを思い出すと今だに眠れなくなることがある。体が熱くなるからだ。出漕は15時40分。突き差すような日差しはもうない。空気が張りつめているようなスタート前。左に天啓(岡山)、右に天照(宮医)、IVレーンにベガサス(鳥大)、Vレーンに湖神(滋賀)、VIレーンに蒼風(熊本)。どのクルーも対校らしい面構えだ。スタートは良くも悪くもない。ローイングで

加速していく。右の天照が出ているのは分かったが不思議と天照に負ける気はしない。あっという間に200が過ぎる。練習でも試合でも200から500までが俺達の弱いところだ。ここさえ頑張ればいける。500で天照が落ちてくる。6艇が横一線。一番弱いところで他艇に出られていない。俺達の勝ちパターンだと思った。足蹴りが入る。古賀がいける！と言った。その強さを充分知っている湖神がいつくるのか。今、並んでいても全く安心できない。650か700位で2枚上げ。気持ちいいぐらいきれいに入った。伸びてる、伸びてる、古賀が叫ぶ。Vレーンの湖神との差は？。レート37で考えるのは湖神のあの強さの事だけだ。急に古賀が言った。「トップだ！でてる！」俺達はトップなのか？あと何mなんだ。湖神じゃなければ俺達はどこと競っているんだ。左隣の天啓が喰らいついている。こいつらか！。わずか半艇身のアドバンテージ。1本のミスローイングで追いつかれる。「もう2枚上げ！。上げろ！。上げろ！。頼むから蹴れ！」古賀があったけの声を出した。ラスト100m。このままいけば…。いや、何も考えるな。上手に漕がなくてもいい。レンジが短くてもいい。ミスローイングしない事だけ考えろ。もう湖神も天啓も頭がない。早く終われ。早く…。

西医体4年ぶり2回目の優勝。最高の気分だった。ただ、優勝の間をチームに見て欲しかった。直前に事情があってカナダへ帰ってしまったのだ。湖神の強さを知っていた俺達が優勝は難しいと言うと、優勝するのは長崎だとも言ってくれたのはチームだった。勝つのは必ず俺達だとチームが言い続けると、不思議と弱気が消えていったのを思い出す。

最後の学年でいい思いができて本当に良かったと思っっている。OBの先生方や学4の先輩や支えてくれた後輩、いつも応援にきてくれた友達、そしてチームに感謝したい。何より5年間一緒に頑張ってきた谷川、古賀、福田、杉浦、関、ありがとう。これからもよろしく。

写真の夏

5年 福田 顕 三

深夜、再試に向けて勉強しているうちに、ふと気付くと引き出しの中の写真を手にしてポーツとしてることが、よくある。4年半の現役の間に随分たくさん写真が貯まった。

1年生のころの写真はみんなホントに若い。まず関にヒゲがない。治はいかにもお坊っちゃんぽい。杉浦などはあまり変わらないような気もする。

この年の西医体の全体写真はすごくいい。優勝しただけあって。特に引退していく先輩方の表情が良かった。

2年生の時の写真は少ない。けど西医体のクルー写真がすごく気に入っている。コミッククルーと呼ばれながらも、いいレースができたせいか充実感がにじみ出ている写真である。だけど今見てもスーツに縁の無さそうな5人だ。

学1の写真はほとんど九朝ばかりが目につく。というのもこのときの暫定クルーが自分の最高のキャリアだからだ。決勝を目の前にしてストレッチをしている写真も表情がゆるんでいる。すでに満足してしまっているせいだろう。この年の西医体の写真は一枚もなかった。自分が惨敗しただけのことはある。

学2の写真はすごく多い。唯一シーズンを通して、同じクルーで漕いだ年だ。

九山の全体写真は印象深い。自分のとなりで宗さんがこぶしをにぎりしめている。この後のAクルーは本当によく頑張った。西医体の写真はどれもあの8月とは思えない寒さを思い起こさせる。自分のクルーは結果を出せなかったけど皆さほど気にしていないように見える。悪くないシーズンの終わり方だった。

学3の九山の写真は皆メダルや賞状を手に嬉しそうだ。だけど自分のクルーの写真は見るからに元気がない。確かに取り残されたような気分だった。

九朝の写真に写っている自分はどれも目を潤ませている。泣けるレースがあったわけではなく、花粉症及び前夜に1年を中洲に連れて行った疲れのせいだ。かなりしんどい遠征だった。

夏合宿の写真は主に花火大会の時のものだ。自分は酔っ払っているらしく表情もうつろである。色んなことがあって疲れていた。

西医体の全体写真のことは書くだけ野暮だと私と一緒に入部した人達は思ってくれるはずだ。とにかく一枚の最高の写真とともに引退で

きた。夏らしくていい夏だった。

主将になるにあたって

4年 岡 真一郎

'94年度のシーズンは、西医体シエル4+部門優勝、総合二位という華々しい成績で幕を閉じた。これだけの成績を残すと、'95年度の目標はなくなるのでは…と思われるであろうが、それでもとても重要な課題が残されている。それは、「層の薄さ」である。この3年間の結果をみても、Aクルーが毎年決勝に進んでいるのに対して、Bクルーは準決勝すら進めていない。Cクルーがナックルに出場するときでも、決勝まではいくものの「ポイントをかせぐ」という壁はなかなか破れないでいる。体力面では全体的に年々向上しているのに、Aクルーより他のクルーが試合で結果をだせないのは、やはり乗艇練習の量と質が不足しているためだと思う。新艇を2艇も購入していただいたことであるので、今年は特に乗艇練習に関して、全体の立て直し及び底上げのシーズンとすべきだと思う。Aクルーはもちろん他のクルーも十分に効率的な練習ができるように情報交換しあい全員で士気をもりたてていける環境をつくりたい。

最後に自分のキャプテン業についてであるが、まだなりたての9月には精神的にまいってしまっており、3夜連続で金縛りにあってしまう始末であった。「この仕事は自分に向いていないのではないか。」

と思い悩んでいたのであるか、最近ではやっとふっきれた。引退まであと1シーズン、もう一旗あげようとたくらんでいる今日この頃…。

無題

4年 岡田 和一郎

「食う、ねる、漕ぐで早4年、僕もりっぱなロ○○○○になれるかなあー。」

浜寺 8・7

4年 谷川 治

〔リーガロイヤル〕
憂鬱だった。少なくとも準決の組合せが決まらないうちは。ただしというかその上というか、昨日の二次予選のタイムから湖神、蒼風、雄図の三艇が準決で当ることだけわかっていた。そのままメダルを独占するであろうこの三艇が並べるだけなら、この際我慢しよう。まだ流す余地はある。ただし、敗復組の中で明らかに格が違うあの二艇次第では別だ。どちらの組に来る？ 決勝クラス五艇が準決で潰し合う姿など、想像しただけで気が滅入る。その揚句もう一組に流し上がり

をされたのではたまったものではない。何やら落ち着きのないボーイ達を尻目に、仏頂面のままひたすら食べ続けるバイキング。大半の選手達は敗復に応援にととくにホテルを発っており、今頃朝食をとっている者などいない。大皿から最後の一切れをつまみ上げると、そのそばから片付けられてしまうのだから気分が悪い。武野は武野で、まだおかわりが出てくるものと待っているぐらいだからたちの悪さはむしろ岡や私より上だ。我々からも20分ばかり遅れて、ぬけぬけと入ってきた二人組。俺たち以上の大物がいたかを見ると、古賀と岡田。二人とも全身から目も眩むほどのルーズさを発散させている。さすがだ。勝てるかもしれない、と少し思った。

〔準決勝〕

試合場に着き、貼り出された組合せ表を見る。願ってもないことに、天啓、SCORPIOのどちらも別組に行っている。確率25%が叶うとは！もちろん三位狙いで行く。暑さ対策として出艇をレース30分前まで遅らせていたが、発艇場の混雑で予定が狂う。貴重な10分のロスでウォームアップが足りず、調子が上がらない。昨日と比べて体のキレも悪く、意識すると尚バタつく。詰めこみすぎた朝食が腹にたまって苦しい。昼の分も食ったからな、しゃあない。ちょっとリスキーだけど。準決後に食うメシなぞ、消化されなきゃ唯のおもり。決勝で使う栄養は、昼よりは朝の分のはず。昨日試した一次予選と同じく準決は漕ぎにくからうが、これぐらいで落ちるクルーではない。スタート地点の岸から中野先輩が手を振っている。1km歩いてくるのは大変なのだ。頭が下がる。スタート。ダブルローイング前半10本のSRは46、後半10本で41。コンスタントに移った時には、右隣・湖神は視界にない。左隣・

蒼風は艇尾だけ見えていたがすぐに消えた。ウォームアップの不調そのまま、手応えが弱い。案の定、息がつまる。思ってたよりヘビーだ。古賀が、蒼風との差が一艇身まで広がったことを告げる。まだ400だぞ？力が入らないもどかしさよりも窒息への恐怖の方が大きい。吸うだけでなく吐く方もままならない。それならいっそ口を固く閉じると多少は力が入る。蒼閃が横にいた。一艇身は後方にいなきゃならないはずの、二番艇。目を疑った。ここから流すはずだった500mプイは、一転スタートの合図になった。彼らの殺気のせいか、目を向けられない。このレースに全てを賭けている彼らと踏み台としか見ていない我々とは、氣迫の差は歴然。600を越えてもふりほどけない。と、するするっと下がってきて一気に全身を晒した黄色い艇。湖神だった。混乱する。何でだ！リードを奪ったことが却って恐ろしい。誘いだと思った。引かかるかよ！「準決落ち」の境界線が見えるようだ。我々が今、二位にいることはわかっていて。けれども切れ込み一本で四位になることもわかっていて。いいかげんにくたばってくれ！太腿がしびれ始める。力を温存できなかった落胆は大きい。確かにレース前にローアウトしてしまう……蒼閃が力尽き、あっけなく離れてゆく。900まで来ていた。蒼風と半艇身！と叫ぶ古賀の声で、すっかり忘れていた艇の存在を思い出す。蒼閃から逃げてきた恐怖のまま襲いかかる。流すことなどに既に頭がない。今か今かと怯えていた湖神の一撃はいつまでたっても来ず、そのままゴール。二位。

〔インターバル〕

皆、言葉もなかった。のろのろとミーティングを始める。準決は蒼

閃を予めマークしとかなかったのが失敗だった。奴のために目論見が完全に狂った。一次予選もそうだったが、他艇が予想を裏切るとパニックになってしまう。思わず愚痴ると、「相手にゃ関係ない。そりゃうろたえるあんたが悪いわ。」と武野が一蹴する。彼も今のレースで消耗しているのは明らかだった。そりゃそうだけど、と口に出すのも物憂い。蒼閃だけではない。蒼風には、完敗だった。去年の決勝に続いてまただまされたと思った。湖神には、なぶられたと思った。途中から明からさまに手を抜きやがった…… 今大会の大本命といえた。今年の朝日レガッタ（琵琶湖）でも、二次予選落ちした我々の眼前で決勝四位という凄じい成績を残していた。二年前に朝日レで五位だった滋賀医クルーが西医体ではブッチギリ優勝をしたぐらいだから、今年湖神が優勝しそうだ、程度の認識はむしろ甘いのもしれなかった。朝日レでの直接対決はなかったが、1、2艇身の実力差があることはクルー内でも認めざるを得なかった。もっとも絶不調のあの頃とは違うから、今なら少なくとも勝負にはなるはず。四千円の栄養ドリンク、ビタミン剤、ニンクエキスという豪華な昼食をとりながら去年までの自分を思い出す。こんな見苦しいマネができなかったのは、まだ甘かったということか。と、激戦区となった準決二組目を一位上がりした天啓クルーが戻ってきて、我々の近くでミーティングを始める。敗復経由の彼らは既に今日2レース目だが、今となっては調整の機会が一回多かった分だけ彼らの方が有利なように思ってしまうのだから勝手なものだ。「2レースも3レースも疲労は一緒だ！」と誰か吠える。レース直後でまだ興奮している。盛んに言い交わしていたが、ふと「やっぱ奥の方のレーンは絶対不利だよ。スタートでビリになっ

た事なんて初めてだよ！」やっぱり、そうか。「浜寺は手前がゼツツタイ有利」と極論大臣と呼ばれていた頃の安田先輩からきかされたのは、二年や三年前のことじゃない。兩岸の消波ブロックも、1レーン側の方がはねっ返りが少なそうな形に見えた。まずいなあ。皆に要らん事を聞かれてしまったか。6レーンなんかに決まったら萎えちゃうじゃねえかよ。次のレースは勿論相手にゃ関係ないのだが、現実にはあらゆる展開を予測していなければパニックになるのは目に見えている。イメージだ。メダルはないはずの天照やP.O.P.A.S.C.I.Sにスタートで出られた場合、中盤で追いつかれた場合、湖神や蒼風が準決以上にもたついている場合、勝負どころで切れ込んだ場合…… '94 Aは後半追込型クルーであるが、次のレースに限って当てにならない。去年の西医体決勝、それまで文字通り無敵のラストスパートをもっていた'93 Aはシーズン最後のレースで、初めて全力を注ぎ込んだラストで逆に離されるといふ体験をした。痛みはまだ忘れられない。今年のAはスタートも結構強いつもりだが、一次予選で佐賀医の二番艇に置いていかれたぐらいなので当てにできそうもない。逆にこのクルーの弱点、第2クォーターの異常な遅さが今回に限ってほとんど現れないのは嬉しい。結局具体的な対策をたてたわけではないが、昨年秋から（武野と私は二年以上前から）レースの度にいやというほど思い知らされてきたせいか最近では少なくともレース中も忘れない程度には頭に定着している。早い話、今の我々は特に長所も短所もないクルーといっている。だから勝負どころはないともいえるし、1000m全てが勝負どころともいえる。タフなレースになりそうだ。さっきまでそばで座っていたはずの古賀が向こうからやってくる。

決勝のレーン抽選に行っていたという。2レーンだった！ 奴がちつとも嬉しそうじゃないのが不満だった。流れが我々の方へ傾いている。これなら、湖神と互角のレースができる。現実にレーン差があるかはいかはどうでもいい、信じる者には大した違いじゃない。くだらないジंकスも力づけになっている。口を閉ざしていたレーン差のことを横にいた岡田に打ち明けると、「レーン差は絶対ありますよ」と軽く流される。なあんだ知ってたの、俺ってバカ？ くそお、キャリアの長い俺より肝が座ってやがら。まだ朝飯が胃の中でこなれていないよ。昨日の今頃より消化が遅い。まだまだ時間はあるが、不安になるのも不安だ。二度、吐く。もう水も飲むまい。ただし浴びる。水浴びが効くのか、この陽差しでも汗は出ない。暗い艇庫の中では、岡が「よし、体力が戻ってきた」と何度もつぶやいている。らしくもない。いつものように「栄光と狂気」を取り出す。指がこわばってページがうまくめくれない。見られなかったかと周りを確認するのも恥ずかしい。古賀が、誰に向かってか「今回はいつもと比べて全然緊張してない。冷静だよ。周りがこわいくらいよく見えてるよ」と語っている。むしろ緊張しているような喋りだが、古賀のセリフだけにどこか凄みがある。彼がこんなセリフを吐くのは、初めてかもしれない。読書をあきらめ、周囲をぶらつく。応援の先輩方からはすれ違う度に、「またお前はうろろうして。じっとしとけって言うところが」と判で押したように言われるが、あの艇庫ではちょっとリラックスできそうもない。施設の中、狭い廊下の奥の薄暗い休憩部屋をのぞいてみる。試合を終えてごろ寝をしている後輩達が、いかにも負け犬のように映って神経を逆撫でする。声をかける気さえおきない先輩失格。売店の隣で

は、パラソルの下で大麻売りのアラブ人の如き二人組があぐらをかいている。蒼風クルーの水溜、村上だ。他大学の人間となら喋りたくてたまらないのが不思議だったが、それが弱気を隠さずにすむからだとはこの時気付くはずもない。準決で力を残したかどうか探りを入れる。互いに実力を隠そうにも馴れ合いすぎた相手だが、結果に対する感じが驚くほど違うのもよくわかっていから結局気休めでしかない。ただ、準決での湖神を村上が、「それほど流してたようには見えなかったぞ」と評したのは意外だった。彼は、湖神が二次予選で同じ大学の二番艇に一着を許したのもわざとじゃないのでは、とさえ言った。艇庫へ戻る。40分以上かけて最後のストレッチを行う。半年近く手離さなかった腰痛用ベルトは、置いてゆく。今まで腰をかばってきたのは、次のレースでぶち壊すため。国体なぞ知ったことか。

〔最後の出艇〕

準決の反省から、多少の余裕をもって出艇。木陰に座って我々の出艇を無表情に眺めている蒼風クルーが目障りだ。「あいつらが今温存している5分程度の分の体力が勝敗を分けるんじゃないか」としみたれたことを考えてしまう程陽差しは強い。ウォームアップをしながら考える。勝つべき者の心理に近づける。優勝した試合を思い出せ。勝って当然のレースでだけ、勝ったのだ。必要なものは、傲慢な程の「確信」だ。勝つべきクルーは、この大一番でも勝利を「願う」のではなく、「確信」しているはずだ。準決前とは違って変わって今回は調子よく漕げている。もっとも二次予選前ほどじゃない。また、考える。心配するな。既にレースはほとんど終わっている。これからやるのは単なる答え合わせだ。この西医体だって、湖神、雄図、蒼風、天

啓、天照（私の予想順位）が決勝に出てくることは朝日レの時点でわかってたじゃないか。三分半だけ死ぬ気になれば何とかなるくらいなら、苦労はしない。逆もまた真なりだから安心していい。少なくとも、メダルを逃がすことなどもうあり得ない。

この一週間の個人的反省点を再チェック。5つともすぐ思い出せたぐらいだから、舞い上がっちゃいない。あと10分、突如おこる強烈な脱力感。ファイナルだけ現れるこいつとは長いつきあいだが、対策はまだない。遅まきながら後学のためにと脈拍をとると96前後。深呼吸。ここで出てくるとは。何でこいつを前もって思い出せなかった？ スタートで水の軽さを味わうのはもうたくさんだ。畜生。顔向けしづらいだらうなあ。仕方ないよ。わかりゃしない。イヤだねえ。悪いけど、やっぱ俺オリるわ。メンタルな部分で、さ。こんな重圧は2回も引き受けたんだ。もうよかろう。阪上さんだって「対校張るのは二年が限度」って言ってたし。何で俺達だけいつまでもこんな思いをしなきゃいけないんだ。1,000m先の仲間達が憎かった。むしろここで思いを共有している30人こそが真の仲間なのだろうと思っただ。俺も早く皆の待つところへ帰りたい…… そうだ！逃げよう。きっと暖かく迎えてくれる。投げたこと、負けたこと、責めはすまい。逃げ帰ろう。方向は一緒だ。これから始まるのは競漕じゃなくていい。ここから皆の元へ一目散に逃げ込めばそれでいい。逃げたいと思う気持ちなら、負けやしない。帰るべき仲間を他艇に奪われるような錯覚。ようし見てろ、必ず逃げ出してみせる。土壇場でこれほど出来すぎた詭弁を思いつくとは。いつの間にか脱力感はない。勿論初めての事。スモッグのせいかな、空気が白い。高速道路の巨大な橋がはるかに伸び

ている。現役生活の終わりがこんな大雑把な景色の隅っこなんて、あんまりだ。ふと、唄を思い出す。それだけで泣きそうになる情緒不安定。

言葉にならないSOSの波

受けとめてくれる人がいるだろうか

こんな場所で目をしばたかせている奴が他にいるとは思えなかったが、だからといって抑えがきくものでもない。深呼吸が震えている。ねばり気のない鼻水を飲み下す。

ああ あれは最後の女神

まぎれもなく君を待ってる

ああ たとえ最後のロケットが

君を残し 地球を捨てても

ふりむいたが、ゴールは見えない。ボート部での5年間をふり返ろうとしばらく考えたが、なぜか一年の頃の事しか思い出せなかった。

〔決勝〕

艇をステッキボートに付ける。五番目だったが審判艇に到着を告げたのは一番だった。このレースだけは他クルーをみんな無視してやろうと前から決めていたが気がつく、「お願いします」なんて頭を下げている。鈴木がよこす無表情な一瞥が、お互い敵に戻ったのだと教えてくれる。Tシャツを脱ぐ。ハッチから救命具を出す。「スタート2分前」の声。あれ、救命具の確認は？ 審判忘れてる？ これだけでパニックになりかかる。とり乱すな！このままスタートがかかるはず。クルーメンと注意し合う。自分が何て言ったのか覚えていないくらいだから誰が言ったことも覚えていないはずがない。いつもと同じく「ス

スタートすぐ来るぞ」「楽しんで行こうぜ」「前半勝負だ」といったところだろうか。岡田の「ミスローイング注意」だけは覚えていて。俺に言っただけでやがる、とカンにさわるとスタート。フライングスタートはまあまあ。最初から嬉しい程の手応え。ローイング前半10本でSR48、後半10本で45。コンスタントに入るもSR37より下がらない。練習時より4〜5枚高いが、二次予選のような迷いはないから無理に下げたりはしない。それでも右隣・天照にはもう先行されている。予測はしていたが、視界には今日3レース目で疲れ果てているはずの天啓しか残っていない。今年も5位かよ。古賀の声の少なさが劣勢を語る。落胆しつつ何故か漕ぎだけは崩れず、そして一度目の足蹴り「いいぞ！伸びてる！」の声ではっきりと生き返った。もう200だ、と思った数秒後には500を通過している。何てレースだ。SR落ちない。案の定、天照がずると後退を始める。奥に隠れていた艇が見えてくる。湖神か蒼風か。左では天啓との一艇身変わらず。「いいぞ、伸びてる！伸びてる！」「パウ合わせろ！」「よし合った！」SR落ちない。ふと、メダルを感じた。だから気がゆるんだとはいわないがそろそろ来るラストに備えようと思った途端、後ろから大声。「こんなところで終わるのかっ！」と叫んでいたのか。岡田のようだったが、ギョツとするほどしわがれた、悲痛な声だった。泣いている様にきこえた。使い古した挑発だと感じさせる余地などなかった。負ける!? 奴に？ これが最後のこの俺が、最後じゃないあいつに、思いの強さで負けている!? 恥ずかしさと申し訳なさで、逆上した。ストレッチャーを蹴飛ばす。二、三度叩きつけたぐらいでは怒りはおさまらない。早すぎた飛び出しを悔いたが今さら落とせず700まで、そのままラストスタートが始ま

る。二枚上げが一発で決まる一体感がこちよいい。「伸びてる！」を繰り返す古賀の声が突如「出てる！今トップ！」に変わる。800付近だったはずだ。意味がわからず顔を上げると古賀左右を見渡している。何て？ 誰が？ 湖神は？ 右の黄色は？ 全てを理解するのに5本ばかりかかった。俺達は、思ってたより強かったんだ。湖神は、終わったんだ。もう来ない忘れる。左隣の天啓こそが相手だと知る。スタートからずっと、脱落もせずついて来る赤い艇。こいつを押さえれば！ 更に二枚上げの指示。ということは900。今度の二枚上げはうまくいかない。レンジを切った分が上がったかどうか。ヨダレの糸。あと15本、15本ミスしなきゃ俺達の！ 数えろ！ 何本数えた頃だろう、赤色がこの期に及んで近づいてくるのに気付いた。しかし予想通りだ。皆の漕ぎも乱れない。頼もしかった。着実に差は縮まり始めたが、このまま放っておいても100mは軽くもつとわかった。何度も何度も読んだ「栄光と狂気」の一文が閃く。「無理をするな、半ば手に入れた勝利をここにきてふいにするな……」上げるな武野、もう終わる、もう遅い、ざまあみろ……

〔その後〕

古賀が両手を挙げた。本当に一位らしかった。武野につられて私もつい叫んだが、彼は自らが叫んだどころかガッツポーズをしたその腕で私をはたいて、「まだ白旗が挙がってない、黙っとけ」と制した。頭にきた。顔をそむけた。バカになっているのはこちらも同じだった。なぜか岡田の顔がすぐ近くにあった。いつもの様に何も言わず、たった今まで死闘を繰り返していたとは信じ難いニコニコ顔で右手を差し出した。下を見ると、岡田があおむけに倒れていた。ピクリとも動かす

由もない。

BOATのBはBLOWのB

4年 牟田口 滋

呼びかけにも応えなかった。力を出し尽くしたのだともわからず、そのふてくされたような態度にまた頭にきた。陸に上がった。宮医の部員達が、笑顔の者もそうでない者も拍手を送ってくれていた。目を合わせぬ様下を向いて歩いた。ピュアな気持ちなんかじゃなくとも涙は出るものらしい。違うレーンで、もう一回決勝をやり直したかった。我々が実力No.1なんかじゃないことと、レーンに頼らずとも3位までには入れることを、同時に皆に証明したかった。自分にも証明したかった。岸から見ているだけだったあの時ほどの感動が涌かないのも不満だったが、自らの優勝場面を予め思い描けたぐらいよくなっていったのだから当然の事かもしれない。周囲の遠慮のない歓声は、勝利が既に我々の手から離れたことを教えてくれた。もう、独り歩きを始めている。一人の部員として、喜ばなきゃ損だと思った。怒濤のおめでとう攻撃の前に、たちまちいい気になった。

今さらという感じだったが、型通りミーティングをした。優勝万歳の二秒で終わるものと思っていたが、古賀は「今のレースはキャッチの鋭さが今いちやっとなね……」と話し始めた。唾然とした。成程、体が控えていることを忘れるなということか、と思い直したが彼のことだからそこまでは考えてないように思えた。「……ラストは蹴りの強さは上がらなかったけどレートで稼いだっっちゃう感じで。まあ、よしとしましょう。」ウケ狙いの表情には見えなかった。古賀がこれほど凄くCOXだったとは。最後の最後で気付かされたが、もう遅い。もう、どっちだっていいことだ。

夏と秋との境は、どうやら西医体のゴールラインの上にあるようだった。国体が延期になり試練の日々が再び始まることなど、まだ知る

「明日の宿命を嘆」いてはいけない。オールを手にするかぎり。新しく知る喜びは尊い。それは子供も老人も変わらない。目をふさぐなら死んだほうがましだ。その手で変えてみせろ。無駄な事など何一つない。戦争も平和もくそくらえだ。喜びだけで悲しみが理解できるのか？ 新しい風を吹かせよう。それも西のはてから。小さいやつでいい。夢が乗ってさえいれば。

私の日記

狼たちへの伝言

3年 大石 正雄

3年 古賀 聖士

4/9 (土) 強風で良かった。

7/12 (水) 今後の練習についてコーチのティムと話し合いをするはずだったが気がつくとは何か女子高生を連れて博

多に来ていた。結局コーチには会えなかった。

8/1 (月) やっと合宿明けた。もう引退だ。

11/13 (日) てまりちゃんの美しさに魅せられてシャッターを切

っていたが、家であらためて見て余りの凄さに封印してしまった。誰か買ってくれ。

1/28 (土) 追いコン。山里さんごめんなさい。

私の先輩の関さんについて

もう参りました。勘弁して下さい。

今年の夏は暑かった。ほんとうに暑かった。しかし、オレたちはもつと熱かった。

平成6年西医体、8月7日決勝……。我らがAクルー「雄図」は勝った、優勝した！まだその光景は私の目にしっかりと焼きついている。とにかくすごいレースだった。古賀先輩、武野先輩、谷川先輩、岡田先輩、岡先輩、優勝おめでとうございます。先輩たちは、本当にかっこいい！先輩たちは私が超えなければならぬ高い壁（目標）であり続けるであろうし、また自分は先輩たちを必ず超えようと思っている身の程知らずであり続けるだろう。

私自身は、Bクルー「無双」の一員として西医体に参加した。結果は惨敗であった。私のBクルーとしての目標は「西医体決勝進出」であったが、実際に西医体決勝を観て感じたことは、この目標がなんとおこがましい目標だったのか、ということだ。決勝に進出した各大学の層々たる顔ぶれを見ると、とても自分たちBクルーが決勝進出する余地はないなと痛感した。この決勝に進出した全ての面々が、この決勝の一瞬のために一年間苦しい練習に耐えてきたんだと思うと、たか

がボートとはいえ、すごいドラマがそれぞれにあるのだろうと思えた。

確かに、今回のBクルーに関しても、いろんなことがあったように思う。それらの出来事は、必ずしも試合の結果には現れないような出来事だったかもしれないが、私の心は試合の無惨な結果とは裏腹に、すごく充実したものであった、なぜかはわからないが。

ともかく、私が今回のBクルーで学んだことは、ボートという競技の難しさというか、団体競技の難しさというか悲しさというか……。

最後に、平成6年度Bクルーで、私の目の前のポジションで漕いでいた君に捧げる。

「一見すると意味のないように思えることでも、がむしゃらにやってみれば、何か見えてくるかもしれない。それでも何も見えて来なければ、もっとがむしゃらに頑張る、オレはそういう男がかっこいいと思う。」

懐疑論者は語る

3年 崎元 暢

お前の生涯は半ば終わった。

時計の針は進み、お前の魂は戦慄する！

すでに久しきにわたって魂はさすらい

さぐり求めたが、見出せなかった

魂は今ためらうか？

お前の生涯は半ば終わった

この世は苦痛であった

刻一刻が迷妄であった！

何をなとお前は求めるのか？何の故に？

これこそが私の、求めるものだ

まさにそうしたこと根拠の理由を！

(フリードリッヒ・ニーチェ『悦ばしき知識』より抜粋) (傍点部は

筆者が加筆)

一匹狼に捧ぐ1995

3年 福田 義文

「弱い奴ほどよく群れる」

〈私の理想の女性のタイプについて〉

オレは面食いで、何よりも先に顔を見てしまうのだが、オレは俗に言われる所の「アイドル顔」に非常に弱く、何はともあれ顔がかわい
いちょっときよとんとした娘なんかにはもうメロメロになってしま
う。

体型的にはちょっと太めの方が好きだが、顔の次に重要なポイントは足だと思っているので、ちょっと太めだけど足の綺麗な娘、なんて少々
ぜいたくな注文をつけてしまう。身長も大きな要素でオレ自身より少
し低め、具体的には155cm前後が理想だ。さらに細かい点では、目が大
きくて澄んだ輝きを放つ娘がいい。また八重歯のある子もかわいい。
まあこれまでの所をまとめてみるとオレの理想の女のコというのはこ
うなる。

「身長155cm、少し太めだが足はきれいで、顔がアイドルっぽくて、事あ
るごとに大きな目をキラキラと輝かせ、八重歯をのぞかせて笑って
ける女のコ」

しかし実際にこんな女のコがいたとしても、その娘がオレと仲良く
してくれるかどうかという最大の問題が残されている。結局、オレは
そんなぜいたくなコトは言っておれん、というコトに気付く理想と
現実の大きなギャップを嘆く平成七年初春であった。

追記。オレの女性の好みは山崎君のそれとは45ほど、また聖土君の
それとは150ほどベクトルの向きが違っていることをつけ加えておきた
い。

今、思うこと

3年 山崎 励至

ぼくは、上手いか下手かは別にして幼い頃から体を動かすことが好
きだったので、結構いろいろなスポーツを楽しみを感じながらやって
きた。そのせいか、よくムエタイのような体をしているなどといわれ
る。

ボートに出会ったのは、もちろん大学に入って初めてのことだ
が、一見した感想はただオールを持ってこぐだけで面白いのかなあ
といった感じであった。しかし、一度乗艇してみると水上を走るとい
うことに感激を覚えた。その勢いで入部した。

入部後しばらくして、練習も楽なものばかりではなくなると、
最初の感激はどこかへ忘れ、楽しさも感じることは減っていった。し

かし、それでも試合では、勝てばうれしいし、負ければ悔しいながらも充実感があつた。

それが、学Iになって、練習にも楽しみを感じるようになった。これは、今までぼくがやってきたスポーツとは少し違ったもののような気がする。このまま続けていって、結果はどうあれ間違いはなさそうだ。

十九歳の私の目標

2年 鶴 瀬 匡 祐

夜、床につくころ、ふとその日一日のことに思いを馳せる。今日一日、自分は一体何のために生きて、何をしただろう。たいていの日はそんな訳の分からない日である事が多い。でも、だからこそ、今日は、充実した一日だったと思つて眠れる日は、幸福この上ないものである。

考えてみれば、ボートも同じだ。いつも、精一杯うまく漕ごうと思つて乗つていても、残るのは反省点ばかりの日が大半である。

だけどそれでいいのかもしれない。毎日、前の日よりうまく漕ごうと思えば、反省すべき点が現れるは当然だし、だからこそ、それが一歩一歩だけで、会心の漕ぎに近づいていくのだと私は思う。

私は、漕手としても一人の人間としてもまだまだ学ばなければならぬ事が沢山ある。大変なことだけど、漕手としても人間としても、

ほんの少しづつでいいから「完成」に近づいていきたい、と思つてる今日このごろである。

平成六年十二月二十日

11

2年 高 橋 優 二

11、この数字は、自分ら教2が1年のときの人数である。ところが、この前一月九日の新年会の時の教2の参加人数は三人（一次会）、一月十三日の部活は三人、今日一月十四日の人数は4人である。確かに風邪がはやって居るためとはいえ、少なすぎる気がする。一応、今までやめたのは一人だけで、十人も教2がいるのだから、もう少し増えてほしい。とかいつてる自分も、それほど出席率がいいわけではないので、今年はもっと出席率をあげたいと思う。

2年 程野 茂樹

2年 牧野

淳

かのソクラテスはいいました。「敗者には何もやるな。慰さめの言葉もやるな。」

何が言いたいかといえば、「ぼくは負けず嫌いである」ということである。

COXというのは敗戦をいつまでも引きずるものであり、又自責の念にかられるものである。それ故、ぼくは「負けただけど悔いはない。」なんて口が裂けても言いたくない。何と言いついた所で歴史に残るのは常に勝者のみなのだから。

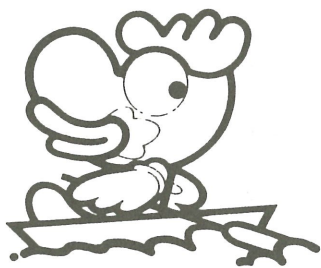
男たるもの勝ってなんぼ。「All or nothing」の気持ちで勝負に挑んだっていいじゃないか。それで負ければ、一層の努力をすればいいだけのことだ。

そこで私の今年の目標!!

“出る試合、全て勝利を目指す!! (学業においても)”

ボートの練習回数が多くなるにつれてボーツとしている時間が多くなった。

おわり



三泊四日富山の旅

2年 丸山 哲矢

1月5日 3時過ぎに富山空港へ着く。

岡田産婦人科はなんと9階建てであった。絶句。

別宅もとんでもなくでかかった。

4時から8時まで麻雀。

寿司をたらふくごちそうになる。

10時から夜中の3時まで麻雀。

1月6日 6時半起床

製薬会社の人にスキー場まで送ってもらう。

3年ぶりだけど結構すべれた。

夕方まですべったあと帰宅。

ステーキ屋に連れていってもらう。

貴花田の手形があった。スゲエ。

9時から3時まで麻雀。

岡田(父)、ホンイツ・中・ドラ1の満貫をツモリあがる。

1月7日 6時半起床。体が動かない。

夕方まですべって帰る。

わっぱめしというものをごちそうになる。なかなかだ。

9時から3時まで麻雀。

平野(岡田の友人)にオーラス、ハネ満でまくられる。
高橋の彼女、なんとジェットバスで爆睡。
さらに風呂からあがって、正座の姿勢から後ろに倒れてそのまま爆睡。

1月8日 飛行機の間までカラオケルームで遊ぶ。

夕方、福岡に着く。

岡田、みんなとはぐれて1人で長崎へ帰る。

二十歳の決意

2年 宮崎 浩 充

二十歳となった今、僕には一つの夢がある。それは、かわいらしくて、優しく、気の合う素敵な素敵なお嫁さんをお願い、一緒に楽しく暮らして、子どもにもたくさん恵まれて、世界一の幸せ者になること。

うくん

今、想うこと

2年 山本 経之

2年 吉野 俊平

先日、心理テストの本を読んでいたら、『あなたの今一番嫌いなものは何ですか?』とあって、僕は迷わず「ボート」と答えた。

次のページをめくると、

『それは、あなたの一番好きな事です。』

うーん、うーん、あい きゃんと あんだすたん。

無題

2年 吉岡 邦晃

COXは艇の上で成るのではなく、艇の上では既に成っておかなくてはならない。

COXよ強くあれ。

旅に出よう

テントとシュラフの入った

ザックをしょい

ポケットには

一箱の煙草と笛をもち

旅に出よう

出発の日は雨がよい

霧のようにやわらかい

春の雨の日はよい

萌え出でた若芽が

しっとりとなめながら

そして富士の山にあるという

原始林の中にゆこう

ゆっくりとあせることなく

高野悦子著「二十歳の原点」より

実習、試験と慌しくも単調な日々を送っていると、ふと半年、一年を振り返り妙な虚無感に囚われることがある。時間の流れの速さに驚

くのである。そんな時無性に旅がしたくなる。それも独りで、もしくは本当に理解し合える人間と。田舎の海岸線を各駅停車でのんびりと、本を片手に車窓からの風景をぼんやりと眺め、気が向いたらページに目を写す。自然の創り出す大パノラマをシールド越しに感じながらバイクとともに走り続ける。ゆっくりと流れる時間を楽しみながら。そんな旅を沢山したいと思う。

漕手とコックス

1年 及川 将弘

船が進んでいるのを見ると解かりますが、漕手四人は後ろ向きに進みます。前向きに進んでいるのはコックスだけです。これは、西医体前の夏合宿を思い出せば納得させられます。前向きな考えを持つのはコックスだけなので、クルーの原動力は、実はコックスなのだと思えます。コックスさんががんばれ！

ボート部に入部して

1年 尾石 義謙

4月にボート部に入部してから10ヶ月たちました。これからもがんばっていきましょう。

昨年の反省と今年の抱負

1年 渋谷 正樹

〈昨年の反省〉

昨年は西医体に向けたピークの絶頂期に故障を起こしてしまった。結果として、同じクルーの人達や代わりとして乗艇していただくことになった岩井さんに多大なご迷惑をおかけした。この場を借りてお詫びする。故障を起こさないように、十分な調整が必要だったと思っている。

〈今年の抱負〉

- ① 西医体の総合優勝
- ② 思いきり飲む(注:酒である。)

③ 最低でも5人はだます
以上3点

無題

1年 土井晋平

故障はこわいのでマイペースでやろうと思います。長い目で見てや
って下さい。

不器用な自分

1年 蓬萊彰士

私という人間はあまり器用な方ではない。はっきりいって不器用そ
のものだ。

なぜなのだろうと考える。考える。でもわからない。考えることも
器用ではないようだ。(それは単なるバカだ!!)といわれるかもしれないが、
そうかもしれない。でも自分ではそう思いたくない。

くだらぬことをかいてしまったが、自分がいいたいのは勉強、ポー
ト等を含めたいろいろな面でこの不器用な自分を先輩や同輩やこれか
ら入るであろう後輩のみみな様に助けていただきたいのです。よろ

しく。

無題

1年 松永祥志

ボート部に入部して約十か月、本当にあつという間だったが、それ
なりに充実していて楽しかったと思う。

しかし、まだ僕はボート競技に対してあまり愛着を感じないし、本
当のボートの良さを理解することもできていない。もうすぐ新入生が
僕の後輩として入部してくるだろうが、その後輩に自信をもってボート
の良さを教えることができるようになれたらいいと思う。

私はコックス

1年 森 創

ノドもと過ぎれば何とやら。すでに、漕手だったあの暑く苦しい夏
を忘れかけている今日この頃。すでにワロロの方がエルゴよりよっぽ
どまだ、と主張する漕手諸兄が理解できなくなってしまった。夏は
シングルスカルをやってみようかと思っている。とにかく、今年も漕
いで頂きます。

平成5年度長崎大学医学部漕艇部OB会収支報告

(H6年3月25日現在)

1. 収 入

前期繰越	565,492
会費収入(51名)	1,530,000
寄付収入	330,000
新艇購入寄付(18名)	900,000
借入金	1,000,000
預金利息	678
	<hr/>
	4,326,170

2. 支 出

県漕艇協会加盟団体会費	36,500
九山医科学生大会エントリー費	30,000
九朝レガッタ出漕料	70,000
モーターボート船外機	199,000
西医体エントリー, 負担金	210,000
西医体遠征費	1,010,000
九朝, 西医体艇運送費	488,000
漕艇保険料加入金	98,000
部誌製作費不足分	110,320
新艇購入費	1,236,000
借入金返済	200,000
郵便振替手数料	6,160
切手代	6,200
領収証, 封筒代	442
	<hr/>
	3,700,622

4,326,170 - 3,700,622 = 625,548 (現在残高)

- 1,097,860 (借入金)

- 472,312

長崎大学医学部漕艇部OB会会則

第一条

本会は長崎大学医学部漕艇部OB会と称する。

第二条

本会の事務所は、長崎大学医学部漕艇部に置く。

第三条

本会の目的は、漕艇部の円滑な運営の為に、精神的、物質的な援助を行い、あわせて部員の身体の錬成ならびに人格の陶冶を図り、会員相互の親睦をはかるものとする。

第四条

本会は、漕艇のOBからなる一般会員ならびに本会の趣旨に賛同する賛助会員をもって組織する。

第五条

本会に左記の役員を置く。

(1) 会長 一名

(2) 副会長 一名

(3) 顧問 若干名

(4) 総務 若干名

(5) 会計監査 一名

第六条

会長、副会長、総務、会計監査はOB会において互選し、顧問は、会長が委嘱する。

第七条

役員任期は、一年とする。ただし、再任は妨げない。

第八条

漕艇部顧問教官は、OB会に出席し、部の事情を説明しなければならない。

第九条

総会は、年に一度これを開くものとする。

第十条

本会の経費は、会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第十一条

本会の会費は、一般会員より徴収し、会費は年度ごとに総会において決定する。

第十二条

本会の会計年度は、毎年四月一日より始まり翌年三月三十一日に終わる。

第十三条

本会の予算、決算は、総会の承認を得なければならない。

第十四条

本会には左記の帳簿を備える。

(1) 会則

(2) 会員名簿

(3) 会計簿

第十五条

会則の変更は、総会の承認を得なければならない。

付則

この会則は、昭和五十四年四月一日から施行する。

(昭和五十五年三月二十二日改正)

漕 魂 の 歌

今里雅之
岩谷 怜

今 里 雅 之：作詞

岩 谷 怜：作曲



一、街を離れ ひたすらに

子々川の海へ 滑り出す

心地良い風 潮の薫り

キャッチロー キャッチロー

にじんだ汗が 流れだす

パドル行こう さぁ行こう

二、水を切り走る 崎陽の

シュルルと放つ 快音は

朝もやの海に 似合っている

キャッチロー キャッチロー

心待つの は 安らぎの

オールメン イージーオール

オールメン イージーオール

三、スタート前の 緊張が

競り合う 気概と足蹴りに

ピッチを上げろ コックスの声

キャッチロー キャッチロー

燃え尽きんと 漕ぎ続け

ああ喜びの トップゴール

漕 魂 の 歌

作詞：今里 雅之

作曲：岩谷 冷



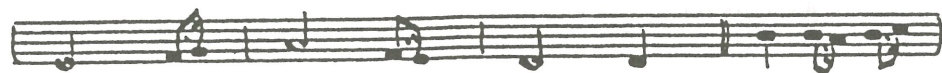
① ま ち を は な れ ひ た - す ら
 み ず - を き り は し る き よ う
 ス タ - ト え え の き ん - ち よ う



に し し が わ - の う み へ す べ り だ
 の シ ュ ル ル と - は ま - つ か い お ん
 が せ り り う - き が い と あ し げ り



す こ こ - ち よ い か ぜ し お の か - お
 は あ さ も や の う み に に あ - て こ い
 に ピ ッ チ - - を あ げ ろ コ ッ ク ス の - こ



り キャ ッ チ ロ - キャ ッ チ ロ - に じ ん だ あ せ
 る キャ ッ チ ロ - キャ ッ チ ロ - こ こ ろ ま つ の
 え キャ ッ チ ロ - キャ ッ チ ロ - も え つ き ん -



が な が れ だ - - す バ ド ル い こ
 は や す ら ぎ - - の オ - ル メ - ン イ - ジ
 と こ ぎ つ づ - - け あ > よ - ろ こ び



う さ あ , - い - こ う ② み
 オ - ル オ - ル メ - ン イ - ジ オ - ル ③ ス
 の ト - ッ プ ゴ - ー ル ル

琵琶湖周航の歌

小口太郎：作詞／作曲

我は海の子 さすらいの 旅にしあれば しみじみと

昇る狭霧や さざ波の

滋賀の都よ いざさらば

松は緑に 砂白き 雄松が里の 処女子は

赤い椿の 森蔭に

はかない恋に 泣くとかや

波のまにまに 漂えば 赤い狛火 懐しみ

行方定めぬ 波枕

今日は今津か 長浜か

瑠璃の花園 珊瑚の宮 古い伝えの 竹生島

仏のみ手に 抱かれて

眠れ処女子 安らげく

長崎大学医学部漕艇部OB会役員名簿 (平成7年3月現在)

	氏名	住所	〒	電話番号	業
会長	村上 文也	長崎市五島町3-3	850	(26) 7757	開業
顧問	須山 弘文	佐世保市原分町489-4	857-01	(56) 1321	前法医学教授
〃	高久 功	長崎市ダイヤランド1丁目44-15	850	(79) 3699	前眼科学教授
〃	尾崎 正若	熊本県菊池郡西合志町須屋2740-30	861-11	096(242) 2761	前第2薬理教授
〃	山口 光次	長崎市昭和町882	852	(44) 5272	県漕艇協会会長
〃	吉田 恒雄	〃 矢の平町2-19-26 市役所 スポーツ振興課 課長	850	(25) 4979	県漕艇協会理事
世話人	山本 太郎	〃 本尾町7-21 小島マンション302	852	(43) 6438	細菌学
〃	中野 基	〃 坂本町3-24 パールマンション岡本202	852	(44) 7499	形成外科
総務会計	朝長 道生	〃 岩川町18-3-404	852	(49) 6910	第2内科

長崎大学医学部漕艇部OB会賛助会員名簿 (アルファ順)

氏名	住所	〒	電話番号		卒業年
井上 満治	長崎市岩屋町17-1	852	(56) 2711	開業	S19
岡本 英雄	島原市湊道町2丁目7024	855	0957(62)2452	開業	S7
片伯部 貢	長崎市扇町2-22	852	(44) 3043	開業	S17
佐藤 英雄	〃 本石灰町5-11	850	(22) 0321	開業	日大
鈴谷 悦堂	〃 緑ヶ丘町1341	852	(46) 2052	開業	S19
城谷 勝明	〃 平野町14-13	850	(22) 6831	開業	S20
高木 聡一郎	〃 今博多町37	850	(24) 0590	開業	S20
高久 功	〃 グイヤラント1丁目44-15	850	(79) 3699	長大眼科学前教授	東北大
田中 敏	〃 住吉町3-11	852	(44) 1770	開業	S16

長崎大学医学部漕艇部コーチ名簿

氏名	住所	干	電話番号	
氏家佑二	東京都世田谷区奥沢7-7-14 三菱重工自由ヶ丘アパート303	158	03(3507)5147	平成1年～3年
Alex J. Bartha	福岡県遠賀郡岡垣町海老津1250-9-806	811-42	093(282)2903	平成4年～5年
Tim Carnell			0958(29)3813	平成5年～

長崎大学医学部漕艇部OB会一般会員名簿

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所	医局	〒	電話番号
石橋 盟士	S30	1. 石橋整形外科病院 2. 長崎市中園町22-17	整形	852	0958(45)6181
大須賀 浩	S30	1. 大須賀医院 2. 長崎市弁天町17-1	小児科	852	0958(61)3576
長西 靖	S46	1. 長西耳鼻咽喉科医院：広島市佐伯区五日市駅前1丁目11-37 2. 広島市佐伯区五日市駅前1丁目11-1	耳鼻科	731-51	0829(23)8122 0829(23)5839
冬野 誠三	S48	1. なばたけ冬野クリニック：唐津市菜畑3660-1 2. 唐津市菜畑4208-57	九大2内	847 847	0955(75)2220 0955(74)7378
枡本 恵一良	S49	1. 浜寺中央病院：堺市浜寺公園町11-15 2. 高石市東羽衣4丁目5-4		592 592	0722(63)2121 0722(64)8828
峰 雅宣	S49	1. 健保謙早病院：謙早市永昌東町24-1 2. 長崎市エミネント葉山町9-11	1内	854 852	0957(22)1380 0958(56)9387
朝戸 末男	S50	1. 朝戸病院：大島郡和泊町和泊14 2. 鹿児島県大島郡和泊町和泊16		891-91 891-91	0997(92)1131 0997(92)2280
早田 篤	S50	1. 長崎市立乳児院：富士見町6-22 2. 長崎市立岩町77-10	小児科	852	0958(61)1418 0958(62)5622

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所	医局	〒	電話番号
石川 治	S52	1. 岡山大学附属病院第2外科：岡山市鹿田町2-5-1 2. 兵庫県姫路市古二階町12	岡山大外科	700 700	0862(23)7151 0792(23)1307
川口 昭男	S51	1. 井上病院：長崎市宝町8-9 2. 長崎市柳谷町14-27	1 外	852 852	0958(47)2111 0958(47)5529
神田 源太	S51	1. 長大附属病院皮膚科 2. 長崎市片淵町1-12-7	皮膚科	852 852	0958(47)2111 0958(22)7051
田中 精一	S51	1. 中山記念病院：八王子安町3-18-1 2. 八王子市上巻分方町246-1	女子医大 消化器センター	192 193	0426(26)5111
堤 健二	S51	1. 長崎県立島原温泉病院脳神経外科：島原市下川尻町7895 2. 島原市新建2142	脳外	855 855	0957(63)1145 0957(64)3974
出口 正巳	S54	1. 白壁美容外科：大阪市北区芝田1丁目14-7 2. 神戸市東灘区本山北町6-17-45 601	形成	530 658	06(372)2512 078(413)5008
土居 浩	S54	1. 有川保健所：南松浦郡有川町有川郷2254-17 2. 南松浦郡有川町有川郷2349	小児科	852 854	0959(42)1121 0959(42)3446
井上 健一郎	S55	1. 井上病院：長崎市宝町8-9 2. 長崎市宝町6-18 別館ビル401	2 内	850 850	0958(44)1281 0958(46)2218

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所	医局	〒	電話番号
内田隆寿	S50	1. 長崎労災病院外科：佐世保市瀬戸越町2-12-5 2. 佐世保市瀬戸越3-11-30	2 外	857-01 857-01	0956(49)2191 0956(40)6831
瀬戸信二	S50	1. 長大附属病院第3内科 2. 長崎市岩屋町17-2	3 内	852 852	0958(47)2111 0958(57)1808
田川泰	S50	1. 長大附属病院第1外科 2. 西彼杵郡長与町嬉里郷98-12	1 外	852 859-06	0958(47)2111 0958(87)1391
富海五郎	S50	1. 松山記念病院：松山市美沢1-9-38 2. 松山市東野1-6-15	愛媛大精神科	790 790	0899(25)3211 0899(77)1812
中野文耕	S50	1. 若松国民健康保健診療所：南松浦郡若松町若松郷281 2. 南松浦郡若松町若松郷281	2 外	853-23 853-23	0959(46)3315 0959(46)3318
丹羽正美	S50	1. 長崎大学第1薬理教室 2. 西彼杵郡長与町高田郷1613-4	1 薬理	852 859-06	0958(47)2111 0958(83)6395
馬渡一雄	S50	1. 馬渡医院 2. 長崎市西山町2丁目9番2号	3 内	850	0958(22)0101
桜井一枝	S50	1. 光藤小児科内科医院：福山市川口町2-22-11 2. 福山市曙町5丁目219-3	小児科	720 720	0849(53)0307 0849(54)4454

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所	医局	〒	電話番号
江口圭介	S55	1. 佐世保労災病院：佐世保市瀬戸越町 2. 佐世保市瀬戸越2丁目13-19 西4-6号	3 内	857-01 857-01	0956(49)2191 0956(40)8719
吉良満夫	S55	1. 浜崎外科 2. 長崎市曙町3-6 浜崎外科内	2 外	852 852	0958(61)6034 0958(61)7431
小村三代治	S55	1. 鹿児島県立鹿屋病院：鹿屋市打馬1丁目5-10 2. 鹿屋市寿7丁目5-35 カーリクマンション103号	鹿児島大小児科	893 893	0994(42)5101 0994(41)5362
成松元治	S55	1. 国立長崎中央病院心臓血管外科 2. 長崎市ユミネント葉山町15-7	心 外	854 852	0957(52)3121 0958(57)6855
水谷明正	S55	1. 長崎記念病院：長崎市深堀町1-11-54 2. 長崎市ダイヤラント1丁目36-19	2 外	851-03 850	0958(71)1515 0958(78)3807
小倉猛	S55	1. 熊本労災病院形成外科：八代市竹原町 2. 八代市竹原町2004-1 井上宿舍	形 成	866 866	0965(33)4151 0965(32)5935
谷川宗生	S55	1. 長崎原爆病院：長崎市茂里町4-15 2. 西彼杵郡長与町高田郷1196-122	3 内	852 859-06	0958(47)1511 0958(83)4030
難波裕幸	S56	1. 長大原研細胞 2. 長崎市住吉町13-11	原研細胞	852 852	0958(47)2111 0958(45)3992

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所	2. 現住所	医局	〒	電話番号
前原洋二	S56	1. 森整形外科：福岡県山門郡瀬高町大字下庄590 2. 福岡県久留米市津福本町786-6 グランピアマンション津福1001		整形	835 830	0944(63)2040 0942(37)5038
村山晋	S56	1. 鈴鹿回生総合病院 2. 三重県津市桜橋3丁目53-17 津ロードリーマンション202号		内科	514 514	0593(86)1011 0592(24)0129
山近史郎	S57	1. 長大附属病院第3内科 2. 長崎市桜馬場2丁目1-1-1101		3 内科	852 852	0958(47)2111 0958(25)3580
糸柳則昭	S57	1. 佐世保市立総合病院：佐世保市平瀬町9-3 2. 佐世保市八幡町64-1 みづちパレス八幡205		1 外科	857 852	0956(24)1515 0956(25)5234
倉富彰秀	S58	1. 倉富眼科医院：佐賀県神埼郡神埼町大字田道ヶ里2435-1 2. 佐賀県神埼郡三田川町豆田2452-2		眼科	842 842	0952(52)8841 0952(52)8747
岡田代吉	S58	1. 北九州市立八幡病院：北九州市八幡東区西本町4-18-1 2. 北九州市八幡西区南八千代町7-3 404号		1 外科	805 805	093(662)6565 093(622)6803
末永俊郎	S58	1. 末永産婦人科麻酔科医院：北九州市門司区鳴竹1丁目14-16 2. 北九州市門司区旧門司1丁目5-34 コーポランド和布刈B棟3001		産婦人科	801 801	093(321)2453 093(332)1557
中崎隆行	S58	1. 謙早総合病院：謙早市永昌東町24-1 2. 謙早市永昌東町23-8-302		1 外科	854 854	0957(22)1380 0957(22)1380 ～内線502

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所	医局	〒	電話番号
永見耕一	S58	1. 永見眼科医院：萩市土原351 2. 山口県萩市土原351	眼科	758 758	08382(2)0720 08382(2)0720
永山雄二	S58	1. 長崎大学第1薬理教室 2. 西彼杵郡長与町吉無田郷579-40	内科	852 859-06	0958(47)2111 0958(87)2796
松永伸彦	S58	1. 酒井眼科病院：武雄市武雄町大字永島字水町13249-4 2. 佐賀県藤津郡嬉野町大字下宿乙1603	眼科	843 843-03	0954(22)3988 0954(42)3592
今里雅之	S59	1. 中山記念病院：八王子市小安町3-18-1 2. 八王子市緑町900-1	女子医大 消化器センター	192 193	0426(26)5111 0426(27)3835
小林誠博	S59	1. 川棚病院：東彼杵郡川棚町下組郷2005-1 2. 東彼杵郡川棚町下組郷2005-1 川棚病院官舎17号-101	外科	859-36 859-36	0956(82)3121 0956(82)6187
平野友久	S59	1. 上戸町病院：上戸町129 2. 長崎市ダイヤランド3丁目28-6		850 850	0958(79)0705 0958(78)8913
日高真	S60	1. 筑波胃腸病院：茨城県稲敷郡基崎町高見原1-2-39 2. 茨城県稲敷郡基崎町高崎692-5	女子医大 消化器センター	300-12 300-12	0298(74)3321 0298(73)3382
松岡直樹	S60	1. 長大附属病院第1内科 2. 長崎市西山台2丁目1-8	内科	852 852	0958(47)2111 0958(46)2158

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所	2. 現住所	医局	〒	電話番号
矢次登	S61	1. 百合野病院：西彼杵郡時津町元村郷1155-2 2. 長崎市本尾町7-3		整形	851-21 825	0958(57)3366 0958(49)5241
高須勝也	S61	1. 小城町立病院：佐賀県小城郡小城町大字松尾4100 2. 小城郡小城町大字松尾4101-3 小城町立病院官舎		外科	845 845	0952(73)2161 0952(72)2517
中里貴浩	S61	1. 徳洲会病院：福岡県春日市須玖北4丁目5番地 2. 福岡市南区三宅3丁目8-47 メゾネットパーク大橋601		内科	816 815	092(573)6622 092(512)8907
中山大介	S61	1. 北九州市立八幡病院：北九州市八幡東区西本町4-18-1 2. 北九州市八幡東区尾倉2丁目6-9 尾倉公舎3号		産婦人科	805 805	093(662)6565 093(662)1105
青木幹弘	S62	1. 長大附属病院小児科 2. 長崎市金堀町41-13		小児科	852 852	0958(47)2111 0958(62)6138
石井久敬	S63	1. 不知火病院：福岡県大牟田市大字手鎌1800 2. 福岡市西区姪浜4丁目21-1 クリーンコナハイ302		精神科	836 814-01	0944(55)2000
岡野邦彦	S63	1. 長大原研細胞 2. 長崎市平和町22-1 サンロード溝上301		原研細胞	852 852	0958(47)2111 0958(48)6382
朝長道生	S63	1. 長崎市医師会センター：長崎市新地6-53 2. 長崎市岩川町18-3-404		2 内	850 852	0958(24)4515 0958(49)6910

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所	医局	〒	電話番号
中島 寅彦	S63	1. 九州がんセンター：福岡市南区野多日3-1-1 2. 福岡市中央区梅光園1-1-5-605		815 810	092(541)3231 092(751)7106
天野 秀明	H1	1. 長大附属病院熱研内科 2. 長崎市城山台1-30-17	熱研内科	852 852	0958(47)2111 0958(64)1101
金色 正広	H1	1. 長大附属病院麻酔科 2. 長崎市葉山1丁目6-34 トーカンマンション葉山205	麻酔科	852 852	0958(47)2111 0958(56)7841
吉川 公正	H1	1. 大分医科大附属病院脳神経外科：大分県大分郡稜間町医大ヶ丘 2. 大分市田室町12-2 ベルメゾン荒巻101	脳外科	879-56 870	0975(49)4411 0975(46)4336
旭 隆宏	H2	1. 福岡市立子供病院：福岡市中央区唐人町2丁目5-1 2. 福岡県粕屋郡古賀町大字庄346-1 ハビンプラック古賀207	小児科	810 811-31	092(713)3111 092(944)3056
白藤 智之	H2	1. 長大附属病院第1外科 2. 長崎市岡町3-10 竹馬岡町ビル402	1 外科	852 852	0958(47)2111 0958(48)0191
寺尾 保信	H2	1. 慈恵医大付属病院形成外科：東京都港区西新橋3-19-18 2. 東京都目黒区祐天寺2-9-9 EN 祐天寺第2 301	慈恵医大形成	105 153	03(3433)1111 03(3760)9286
中村 晋	H2	1. 新日鉄八幡製鉄所病院：北九州市八幡東区春の町1-1-1 2. 福岡市東区舞松原1-6-18	内科	805 813	093(672)2923 092(661)4367

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所	2. 現住所	医局	〒	電話番号
山本太郎	H2	1. 長崎大学細菌学教室 2. 長崎市本尾町7-21 小島マンション302		細菌学	852 852	0958(47)2111 0958(43)6438
生田安司	H3	1. 北九州市立八幡病院：北九州市八幡東区西本町4-18-1 2. 北九州市八幡東区西本町4-18-5-302		1 外	805 805	093(662)6565 093(671)3668
市川辰樹	H3	1. 北九州市立八幡病院：北九州市八幡東区西本町4-18-1 2. 北九州市八幡東区前田1丁目11-4-1405		1 内	805 805	093(662)6565 093(662)3880
鈴木康弘	H3	1. 九州大学生体防御医学研究所感染防御部門 2. 福岡市東区馬出町4丁目4-23 カーサグランカ206号		九 大	812 812	092(641)1151 092(643)2610
田中邦彦	H3	1. 国立療養所村山病院：東京都武蔵村山市学園2-37-1 2. 上記院内		2 外	208 208	0425(61)1221 0425(61)1221
山本修	H3	1. 長大附属病院第2外科 2. 長崎市桜馬場1丁目9-20		2 外	852 856	0958(47)2111 0958(24)4600
劉中誠	H3	1. 田川市立病院：福岡県田川市山東町 2. 福岡県田川市東町 医師住宅19号		1 外	825 825	0947(44)2000 0947(42)9596
黒木保	H4	1. 東京大学医化学研究所：東京都港区白銀台4-6-1 2. 東京都練馬区小竹町1-54-7 メゾンソレイユ105		生化学部	108 176	03(5449)5374 03(3955)9679

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所	2. 現住所	医局	〒	電話番号
佐藤 俊一	H4	1. 信州大学附属病院第3内科：松本市旭3-1-1 2. 長野県松本市蟻ヶ崎1-40-8	メゾン蟻ヶ崎102	信州大3内科	390 390	0265(35)4600 0263(36)1468
津田 純	H4	1. 佐世保総合病院：佐世保市平瀬町9-3 2. 西彼杵郡時津町浦郷396-24	あこやハイツ401号	耳鼻科	857 851-21	0956(24)1515 0958(82)8397
中野 基	H4	1. 長大附属病院形成外科 2. 長崎市坂本町1-3-24	ハールマンション岡本202	形成	852 852	0958(47)2111 0958(44)7499
福井 雅士	H4	1. 佐賀医科大附属病院麻酔科：佐賀市鍋島5丁目1-1 2. 佐賀市鍋島町江里桜笹屋茶寮		形成	849 849	0952(31)6511 0952(32)5413
南 恵樹	H4	1. 押淵病院：松浦市御厨町里免37-1 2. 松浦市御厨町里免21-5		2 外科	859-47 859-47	0956(75)0311 0956(75)0420
趙 成三 (旧 南原)	H4	1. 富田林病院：大阪府富田林市向陽台1丁目3-36 2. 大阪府富田林市向陽台2丁目7-31	サンハイツ向陽202	麻酔	584 584	0721(29)1121
竹下 浩明	H5	1. 国立長崎中央病院：大村市久原2丁目1001-1 2. 大村市久原2丁目1001-1	あかしや荘207	1 外科	856 856	0957(52)3121 0957(53)4139
近藤 新二	H6	1. 長大附属病院形成外科 2. 坂本町2-5-20	デュークハウス204	形成	852 852	0958(47)2111 0958(47)1615

氏名	卒業年	1. 勤務先・勤務先住所 2. 現住所	医局	〒	電話番号
斎藤 将隆	H6	1. 大分県立病院：大分市ぶにょう476 2. 大分市大字畑中929-3 県病宿舍404	麻酔科	870 870	0975(46)7111 0975(46)9606
阪上 学	H6	1. 長大付属病院麻酔科 2. 長崎市三原町1338 竹内マシヨソ新館606	麻酔科	852 852	0958(47)2111 0958(45)3941
岩井 敏郎	H7	1. 九州大学附属病院心臓外科：福岡市東区馬出町3-1-1 2.	九大心外科	812-82	092(641)1151
宗 英吾	H7	1. 長大附属病院耳鼻咽喉科 2. 長崎市片淵3-6-3	耳鼻科	852 850	0958(47)2111 0958(21)8868
中 桶 了太	H7	1. 長崎大学細菌学教室 2.	細菌学	852	0958(47)2111
藤本 武士	H7	1. 長大附属病院第1内科 2. 長崎市滑石6丁目10-15	1 内科	852 852	0958(47)2111 0958(56)7819
松尾 敏明	H7	1. 長野佐久総合病院：長野県南佐久郡臼田町197 2.		384-03	0267(82)3131
安田 恵多良	H7	1. 大阪大学附属病院脳外科：大阪府吹田市山田丘2-2 2.	阪大脳外科	565	06(876)5711

長崎大学医学部漕艇部現役員名簿

学年	氏名	出身校	1. 現住所 2. 帰省先	干	電話番号
5	古賀洋安	三池	1. 清水町5-23 清風荘10号室 2. 福岡県三池郡高田町大字江浦434-2	852 839-02	(47) 9470〔内線10〕 0944(22) 2048
5	杉浦利彦	横須賀大	1. 辻町54 2. 札幌市西区一条5-1-2-6045	852	(43) 8609 011(611) 4579
5	関徹	松本深志	1. 小峰町1-14 あこやビル209 2. 松本市北深志3-9-15	852 390	(43) 2039 0263(36) 4384
5	武野正義	小林	1. 平野町23-7 大塩ビル405 2. 宮崎県小林市大字真方548-25	852 886	(43) 2716 0984(23) 3738
5	福田顕三	久留米附設	1. 平和町14-15 平和34舩田ビル103 2. 福岡県大牟田市久福木202-4	852 837	(44) 3016 0944(52) 5678
5	山里昌司	久留米附設	1. 岩川町10-15 光輪ハイツ506 2. 沖縄県那覇市松川2-1-7	852 902	(47) 7842 0988(34) 4887
4	岡真一郎	岩田	1. 三原町1338 シヤトー竹内205 2. 大分市明石磯四組	852 870	(42) 1199 0975(44) 1505
4	岡田和一郎	豊橋南	1. 三原町1338 シヤトー竹内305 2. 愛知県渥美郡渥美町石神西沖田7	852 441-36	(42) 1211 05313(7) 0001

学年	氏名	出身校	1. 現住所	2. 帰省先	〒	電話番号
4	谷川 治	宮崎西	1. 大橋町23-23 コーポ小笹202号 2. 宮崎県都城市早鈴町1658-3		852 885	(43) 6282 0986(22) 6336
4	牟田口 滋	久留米附設	1. 大橋町5-8 グランピアマンション長崎501 2. 福岡市中央区小笹5丁目16-52		852	(42) 1425 092(531) 5328
3	大石 正雄	松江北	1. 小峰町14-17 コーポ小峰102 2. 松江市黒田町487-11		852 690	(42) 1482 0852(24) 2785
3	古賀 聖士	三池	1. 坂本1丁目1-11 コーポ坂本501号 2. 福岡県大牟田市小浜町25		852 836	(48) 5949 0944(52) 5451
3	崎元 暢	鶴丸	1. 扇町31-21 Ben匠8番館10D 2. 鹿児島市東千石4-12		852 892	(42) 3364 0992(25) 2495
3	福田 義文	甲陽学院	1. 坂本1丁目13-40 金子荘201 2. 神戸市西区竹の台4丁目21-5		852 651-22	(49) 4631 078(991) 5883
3	山崎 励至	島原	1. 本原町27-2 コーポ本原301 2. 島原市城内2-1010		852 662	(48) 6779 0957(62) 7042
2	鶴瀬 匡祐	長崎南	1. 扇町26-5 ハテリア清水405 2. 南松浦郡若松町浦内142-7		852 853-23	(47) 3797 0959(46) 3209

学 年	氏 名	出身校	1. 現 住 所	2. 帰 省 先	〒	電 話 番 号
2	岡 田 潤 幸	富 山	1. 長崎市葉山1丁目5-2 2. 富山市古鍛冶町5-34	第1浜福ビル402	852 930	(55) 4100 0764 (91) 2466
2	高 橋 優 二	諫 早	1. 文教町12-3 2. 諫早市船越名1030	ライオンズマンション609	852	(48) 2841 0957 (23) 7309
2	程 野 茂 樹	愛 光	1. 坂本1丁目6-15 2. 愛媛県伊予市下吾川676-1	レジデンス久保301	852 799-31	(46) 6674 0899 (83) 3504
2	牧 野 淳	慶応志木	1. 石神町3-5 2. 千葉市花見川区さつきが丘2-40-31	中村ビル502	852 262	(45) 2497 043 (250) 8611
2	丸 山 哲 矢	久 留 米 附 設	1. 竹の久保町6-18 2. 久留米市白山町482-20	田上マンション207	852 830	(64) 0948 0942 (33) 2250
2	宮 崎 浩 充	七 尾	1. 本原町39-3 2. 石川県七尾市池崎町は-47-2	ステューダント帝311	852 926	(46) 6590 0767 (57) 3170
2	山 本 経 之	延 岡	1. 大手2丁目8-10-201 2. 延岡市平原町3丁目1227-2		852 882	(46) 3494 0982 (21) 4685
2	吉 岡 邦 晃	浜 松 北	1. 辻町568 2. 静岡県浜松市舘塚4-5-26	横田ハイッ203	852 432	(48) 7915 053 (456) 0316

学年	氏名	出身校	1. 現住所 2. 帰省先	〒	電話番号
2	吉野俊平	茗溪	1. 坂本2丁目10-11-207 2. 茨城県新治郡八郷町小幡3795-2	852 315-01	(47) 4563 0299(42) 3996
1	及川将弘	泰星	1. 花丘町3-23 グランピアII302 2. 福岡市中央区平尾2-21-27	852 092	(43) 9209 092(522) 2788
1	尾石義謙	ラサール	1. 岡町9-20 岡町ハイム401 2. 福岡県粕屋郡粕屋町仲原435	852 811-31	(48) 6058 092(938) 2809
1	渋谷正樹	愛光	1. 平野町3-25 サンスイマンション105 2. 防府市牟礼1000-5	852 747	(46) 9009 0835(21) 5500
1	土井晋平	芦屋	1. 岩川町19-18 第二政ビル402 2. 兵庫県芦屋市新浜町2-3-603	852 659	(48) 6219 0797(34) 1710
1	蓬萊彰士	修猷館	1. 川口町7-4 第5松尾ビル201 2. 福岡市中央区今川2-9-5	852 810	(42) 1979 092(714) 2456
1	松永祥志	佐世保西	1. 小峰町14-16 シヤルムK201 2. 佐世保市小舟町71-1	852 857-01	(42) 3663 0956(46) 1950
1	森創	青雲	1. 橋口町 アムロハイツ301 2. 西彼杵郡多良見町化屋1-128	852 859-04	(44) 3801 0957(43) 3290

編集後記

「漕魂十七号」がここに完成しました。年度末発刊を目標にしておりましたが、発刊が遅れましたことを深くお詫び致します。

部誌を製作し終えて、今までの製制手順・製制目的を考え直す時期

にあると思いました。ほんのわずかの部員しか製作に携わらず、また

製作開始の時期が遅く年度未発刊に間に合わないのは毎回の事の様で

す。また何のために部誌をつくるのか、その発刊目的をしっかりと持っ

ていなければいけないとも思いました。これらの問題点が毎回同じな

のは、毎回違う部員が部誌編集をしており、自分の担当号が出来上が

ると次に伝えないからだと思えます。次の編集責任者や部員達へ「部

誌製作の手伝」のようなものを作るつもりです。次号以降の部誌製作

がスムーズにいくことを願います。

それから前回に続き、本誌製作費は協賛して頂いた会社の援助金で
あります。好意をもって援助して下さいました会社を御紹介して頂いた井

上健一郎先生に心から感謝します。

協賛して下さいました会社は別紙にてお知らせします。有難うございま
した。

編集責任 武野 正義

お願い

氏名・住所・電話番号・勤務先等を変更されましたら下記のハガキにて医学部漕艇部までご通知ください。

また通信欄には、ボート部に対する要望や、「漕艇」の不備を御指摘いただければ幸いです。

キリトリせん

後援会名簿資料として下記のように訂正します。

氏名		改姓等の場合は 新氏名	年 卒
現住所	〒		
	Tel () -		
勤務先		予定期間	～

通信欄

通信欄
